

Panasonic

インテリジェント AVステーション 工事説明書

品番 WL-AV200A
WL-AV190

この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使うって上手に節電

もくじ

安全上のご注意	3	マスターモニター、スタジオ モニター、プレビューモニター の接続	34	映像放送CH設定の変更のしかた	49
システム構成	5	音声機器の接続	35	映像放送CH設定状態の入りかた	49
基本構成	5	ミュージックチャイムの接続	36	映像放送チャンネル設定・変更	49
組み込める機器	5	多局リモコンマイク		映像放送CH設定状態の終了のしかた	60
接続できる機器	6	(WR-105、110)の接続	37	データ管理のしかた	61
接続や動作に必要な機器		マルチリモコンマイク		データ管理メニューの出しかた	61
工事部品	8	(WR-300)の接続	38	データのバックアップ	61
付属品	11	リレーユニットWU-R110、 電力増幅ユニット、スピーカー の接続	39	バックアップデータの復元	62
システム接続図	13	スピーカーリレー出力コネクタの 信号名と最大許容出力	40	データの初期化	63
設置の前に	14	リレーユニットを使って 壁掛形非常用放送設備と 接続した例	42	設置時の調整	64
設置上のご注意	14	リレーユニットを使って ラック形非常用放送設備と 接続した例	44	ディップスイッチ変更後の 制御部の初期化	64
電源について	14	束線のご注意	46	チャイム放送の音量調整	64
AVステーション設置スペース	14	接続・配線の点検	46	音声入出力の音量プリセット調整	65
電源コンセントの配線	16	電源の確認	46	映像モニター1~3の明るさ調整	65
電源ノイズの対策	17	スピーカースイッチ配置のしかた	47	動作の確認	66
入出力コネクタとレベル		スピーカースイッチ配置のフロー チャート	47	動作の確認	66
インピーダンス	18	スピーカーレイアウト変更の 起動	47	スピーカーリレーの動作	67
AMアンテナの設置工事について	19	システム情報の設定	48	入力設定・変更	69
設置について	19	標準⇄自由配置への変更	49	ラジオ・予備入力・レピーター などを放送、録音するとき	69
アンテナに対するノイズ対策	20	初期状態へ戻るとき	53	音声ミキサーの設定	70
工事の手順についてのフローチャート	21	レイアウト変更の終了	53	VTR2入力コネクタの 切り換え	70
ラックマウントのしかた	22	スイッチの名前の変更・環境設定	54	音声・映像パターン操作の内容変更	71
マウント可能なユニットの 基本寸法	22	スピーカースイッチの 名称変更状態の入りかた	54	音声・映像パターン操作	71
AVステーション・袖卓への ラックマウント	22	スピーカースイッチの 名称変更のしかた	55	内容変更・登録のしかた	71
ラックマウントできる機器	23	スピーカースイッチの名前を入れ 換えるときの操作のしかた	56	新規設定登録のしかた	73
ラジオチューナーの 取り付けかた	24	拡張パターン・予備入力機器の 名称変更操作のしかた	56	入力設定内容について	73
設置のしかた	28	名称変更・入れ換え状態の終了 のしかた	48	オフライン機能	74
AVステーションのディップ スイッチ設定	28			オフライン機能の立ち上げ	74
リレーユニットWU-R110 (スピーカーリレー)のアドレス 設定	29			オフライン機能の終了	74
接続のしかた	30			リレー接続先の設定	74
コネクタ、プラグの 取り付けかた	30			リモコンの優先順位の設定	75
VTR1、2、3、LD、CD、 カセットデッキ等の接続	31			ブロック放送の設定	75
ヘッドエンド出力、TVアンテナ、 教室テレビの接続	32			故障の自己診断機能	77
AVステーションとカメラ、 インカム・タリーの接続	33			電子マニュアルの使いかた	78
				電子マニュアルの使いかた	78
				お打ち合わせシート	81
				系統図	84

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を見逃して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがあるなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

不安定な場所に置かない



落下などでけがの原因となります。

禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

安全上のご注意

必ずお守りください

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない (傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因となります。

禁止

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

ケーブルを傷つけない



重いものをのせたり、はさんだりするとケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。

禁止

配線は正しく行う



ショートや誤配線により火災の原因となります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠️ 注意

落とさない、強い衝撃を与えない



けがや火災の原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所に設置しない



火災や感電の原因となります。

禁止

指定以外の装置を接続しない



火災や感電の原因となります。

禁止

周囲に物を置かない



非常時の操作の妨げになり、火災、災害の拡大の原因となります。

禁止

定期的に点検をする



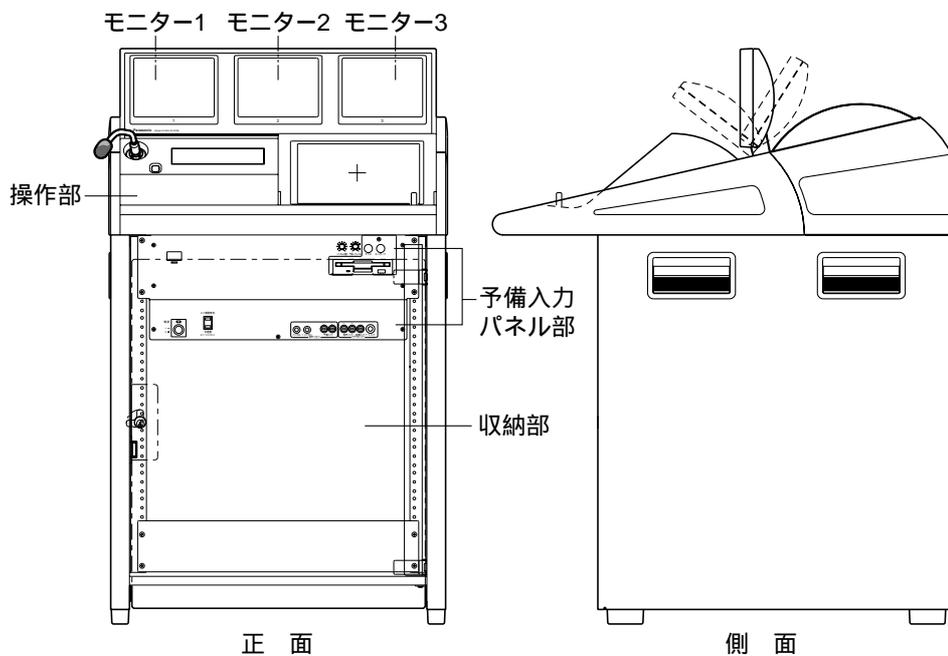
非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

- 点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

システム構成

基本構成



組み込める機器

ラジオチューナーユニット WU-T60 … 1

システム構成

接続できる機器

調整室に設置する機器

線番号	品名	品番(仕様)	接続可能台数	線材/備考	接続図
②	モニタースピーカー	8	2	スピーカーコード	P35
⑤	テープレコーダー(カセットデッキ)		1	単芯シールド線(ステレオ)	P31
⑥	CDプレーヤー		1	単芯シールド線(ステレオ)	P31
⑦	ミュージックチャイム	WZ-255など	1	単芯シールド線+ビニール線	P36
	プログラムコントローラー(タイマー)	WZ-640など	1	ビニール線	P13
⑪	ワイヤレス受信機	WX-4020	1	単芯シールド線	P35
⑫	レピーター	WR-420A	1	2芯シールド線	P35
⑬	AUX 1~3(音声予備1~3)	LD、テープレコーダーなど	3	単芯シールド線(ステレオ)	P13
⑭	カメラ4・OHC	WE-MV180Aなど	2	同軸線(3C-2V)	P13
⑯	V-AUX1~4(映像予備1~4)	カメラなど	4	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P31
⑰	A VTR1(映像、音声入出力) VTR2(映像、音声入力) VTR3(映像、音声入出力)	VTR 2は再生専用	3	同軸線(3C-2V)+シールド線(ステレオ)	P31
	B VTR1(Y-C入出力) VTR2(Y-C入力) VTR3(Y-C入出力)	VTR 2は再生専用		Y/C分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P31
⑱	LD/DVD	音声はAUX入力を利用	1	同軸線(3C-2V)+シールド線(ステレオ)	P31
⑲	VTR2(前面端子)	VTR2は前面、後面どちらか切り換えて使用	1	同軸線(3C-2V)+シールド線(ステレオ) Y/C分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P31
㉑	ラインモニター		3	同軸線(3C-2V)	P32
㉒	マスターモニター		1	同軸線(3C-2V)+シールド線	P34
㉓	ヘッドエンド		1	同軸線(3C-2V)+単芯シールド線	P32
㉔	TVアンテナ信号入力分配器		1	同軸線	P32
㉕	VTR3 Y/Cモニター	S-VHS仕様	1	Y/C分離ケーブル(S-ビデオケーブル)	P34
㉖	プレビューモニター		1	同軸線(3C-2V)	P34
㉗	カメラ1~3リモートコントロールユニット		3	同軸線(3C-2V) S-ビデオケーブル(カメラ1台のみ)	P33
㉘	インカム・タリー	C1~C3	3	4芯ケーブル	P33
㉙	インカムヘッドセット	MT-12MFB	1		P13
	BSチューナー		1	同軸線	P32
	RFコンバーター(BS混合用)		1	同軸線	P32
	ヘッドホン	ステレオ用 8	1		P33
	端子盤ユニット	WU-Q50Aなど	1	非常用放送設備と接続しないとき	P41
	電力増幅器	WU-P51、P52、P53		最大360W	
	リレーユニット	WU-R110	6以下		

線番号はシステム接続図(P13)の線番号に対応しています。

スタジオに設置する機器

線番号	品名	品番(仕様)	接続可能台数	線材/備考	接続図
①	スタジオモニタースピーカー	8	1	スピーカーコード	P35
③	マイクロホン	WM-433など	3	2芯シールド線	P35
⑮	カメラ1~4		4	ケーブル	P33
⑳	スタジオモニターテレビ		1	同軸線(3C-2V)+シールド線	P34
	ワイヤレスアンテナ	WX-4950	2~4	同軸線	P35
	ワイヤレスマイクロホン	WX-4100Aなど			
	インカムヘッドセット	MT-12MFB	3		P33

教室その他に設置する機器

線番号	品名	品番(仕様)	接続可能台数	線材/備考	接続図
⑧ ⑨	単局リモコンマイクまたは 多局リモコンマイク	WR-101または WR-110、105	1	2芯シールド線+ピニール線	P37
⑩	マルチリモコンマイク	WR-300	8	2芯シールド線+体形ビニール線	P38
㉔	アンテナ(TV用)		1	同軸線	P32
㉕	アンテナ(FM用)		1	同軸線	
㉖	アンテナ(AM用)	FM混合分配器付のもの	1	同軸線	
㉔	アンテナ(BS用)		1	同軸線	P32
㉓	教室用テレビ			同軸線	P32
㉑	教室用スピーカー	ハイインピーダンス型		耐熱電線(非常放送共用のとき)	
	ボリュームボックス			耐熱電線(非常放送共用のとき)	

非常用放送設備と接続するときの機器、工事部品

	品名	品番(仕様)	接続可能台数	線材/備考	接続図
	リレーユニット (端子盤ユニット：中継用)	WU-R72 (一般30局、非常15局) (WU-Q50A) (120端子)	1台 1~2台		P44,45
	リレーユニット	WU-R73 (一般10局、非常10局)			P43
	15芯ケーブルまたは ケーブルキット	W4-15L/21PR WU-C70K WU-C70D WU-C70L			

システム構成

接続や動作に必要な機器・工事部品

電力増幅ユニット

- ・電力増幅ユニットはラックに組み込んでご使用ください。本機には絶対に収納しないでください。
- ・ラック形非常用放送設備と組み合わせる場合、ラック形非常用放送設備に収納した電力増幅ユニットを共用することもできます。

W数	品番	台数	高さ寸法(1U=44.45mm)
60 W	WU-P51	4	2U
120 W	WU-P52	3	2U
360 W	WU-P53	1	3U

リレーユニットWU-R110(高さ1U、スピーカーリレー10局)

- ・AVステーションには1系統(1元)10局分のスピーカーリレーを内蔵しています。
- ・1系統(1元)11局以上、または、3系統(3元)とするときは、リレーユニットWU-R110の増設が必要です。
- ・WU-R110は1台10局単位で、最大6台まで増設できます。

1系統(1元) 最大70局まで(通常は30局まで。70局までの増加設定可)

3系統(3元) 1系統：最大30局まで(WU-R110 2台)

2系統：最大20局まで(WU-R110 2台)

3系統：最大20局まで(WU-R110 2台)

端子盤ユニットWU-Q50A(高さ3U、120端子)

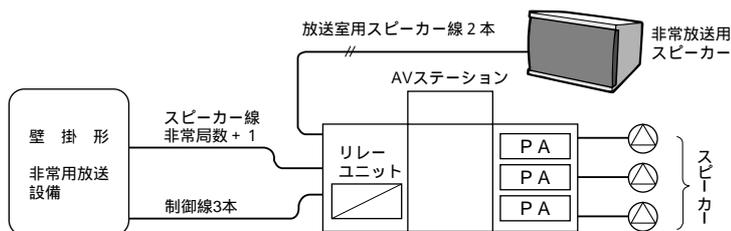
- ・本機にはスピーカー接続用端子盤はありません。別途WU-Q50Aを1台準備してください。(非常用放送設備と接続しない場合)
- ・他に15芯ケーブル(W4-15L/21PR)が、スピーカー10局に付き1本必要です。

非常用放送設備と接続する場合

(くわしくは、WU-R72、WU-R73、WL-7050Aなどの説明書をお読みください。)

1. 壁掛形非常用放送設備と接続する場合(電力増幅ユニットを共用せず、スピーカーのみ非常放送と切り換える。)

・接続(P44)



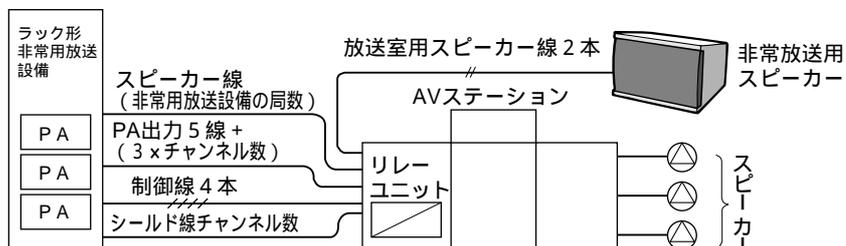
・必要機器

リレーユニット WU-R72(一般30局、非常15局。ただし、端子盤ユニットWU-Q50Aは中継用として必要。)
 または、 WU-R73(一般10局、非常10局)、WU-R110
 15芯ケーブル W4-15L/21PR

2. 電力増幅ユニットを共用する場合(リレーユニットはWU-R72を使います。)

2-1. WU-R72をAVステーションに収納する場合

・接続(P44～45)



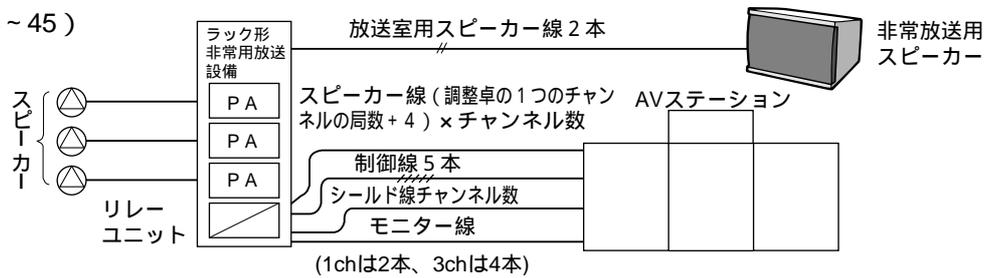
・必要機器

リレーユニット WU-R72、WU-R110
 端子盤ユニット WU-Q50A(中継用)
 15芯ケーブル W4-15L/21PR

システム構成

2-2. WU-R72をラック形非常用放送設備に収納する場合

・接続 (P44 ~ 45)



・必要機器

リレーユニット WU-R72、WU-R110

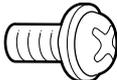
端子盤ユニット WU-Q50A(中継用)

15芯ケーブル W4-15L/21PR

その他の工事部品

部品名	品番	備考
ブランクパネル 1U	W2-BPA / 44	ユニット収納の空きスペースを覆うパネルです。
ブランクパネル 2U	W2-BPA / 88	
ブランクパネル 3U	W2-BPA / 132	
パンチングパネル 1U	W2-PPA / 44	放熱効果を得たい場合のパネルです。
パンチングパネル 2U	W2-PPA / 88	
2芯シールド線(1.6m)	YWL6655SR01 (サービス部品扱い)	複式プラグ付音声入出力用 注)短い場合は現地作成願います。
複式プラグ	YWPLUG-3 (サービス部品扱い)	1.6m以上の音声入出力線を現地作成する場合に必要です。 注)2芯シールド線は現地調達願います。
単頭プラグ	YPM-KM003BA (サービス部品扱い)	音声入出力線を現地作成する場合に必要です。 注)2芯シールド線は現地調達願います。
ピンプラグ	YWPP001PLUG (サービス部品扱い)	音声入出力線を現地作成する場合に必要です。 注)単芯シールド線は現地調達願います。
DINコネクター変換ケーブル	W4-AVE / 22	
キーボード	ミニDINタイプ	画面をカスタマイズするときに使用します。
マウス	PS/2タイプ	

付属品

品名	外観	数量
取付ねじ M5×10		20
音量指示マーク (6枚/シート)		3
カギ		2
アナウンスマイクロホン		1
取扱説明書		1
工事説明書		1
保証書		1

(次ページへ続く)

システム構成

(続き)

品名	数量
単頭プラグ	6
複式プラグ	5
DIN 4Pコネクタ- (タリ-用)	3
DIN 5Pコネクタ- (リレーユニットWU-R110用)	1
DIN 6Pコネクタ- (チャイム制御用)	1
ブランクパネル(2U)(取付済)	1
コードクランプ	9

設置の前に

設置上のご注意

1. 工事は必ず販売店に依頼してください。
2. システムを確認し、構成機器や工事部品、線材、コネクターなどに欠品のないように準備をしてください。
3. 電源電圧はAC 100 Vです。構成機器の消費電力を合算し、電源容量が不足して電圧が下がらないよう、充分余裕をとって電源工事をしておいてください。
4. 工事の際は、各機器の電源スイッチを「切」にし、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。
5. AVステーションの配線・接続は床にピット(通線溝)を設置すると、きれいに仕上がります。
6. 本機の設置場所は直射日光の当たるところや、温風吹出口近くは避けてください。周囲温度は0 ~ +40、湿度は90%以下でお使いください。また、湿気、ほこり、振動の多い場所に設置すると故障の原因になります。

電源について

本製品には本体1本、コンセントボックス2本、計3本の電源コードがあります。

電源コードは必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。

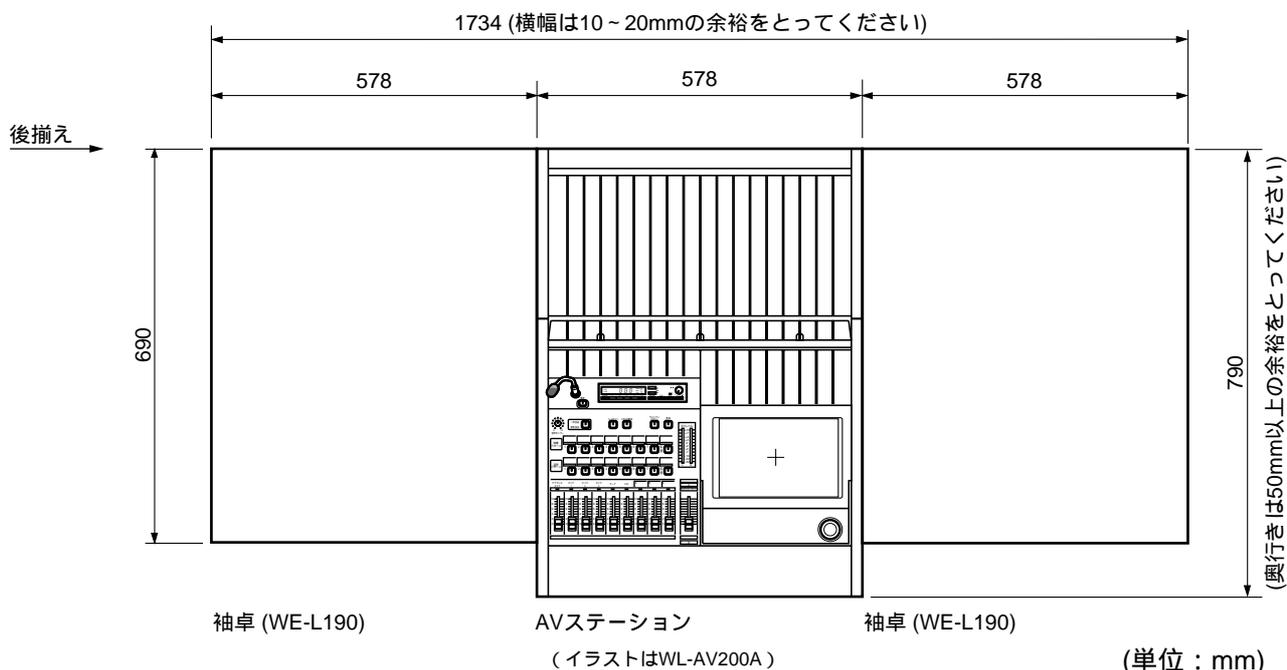
- (1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
- (2) 接点距離が3.0mm以上有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

AVステーション設置スペース

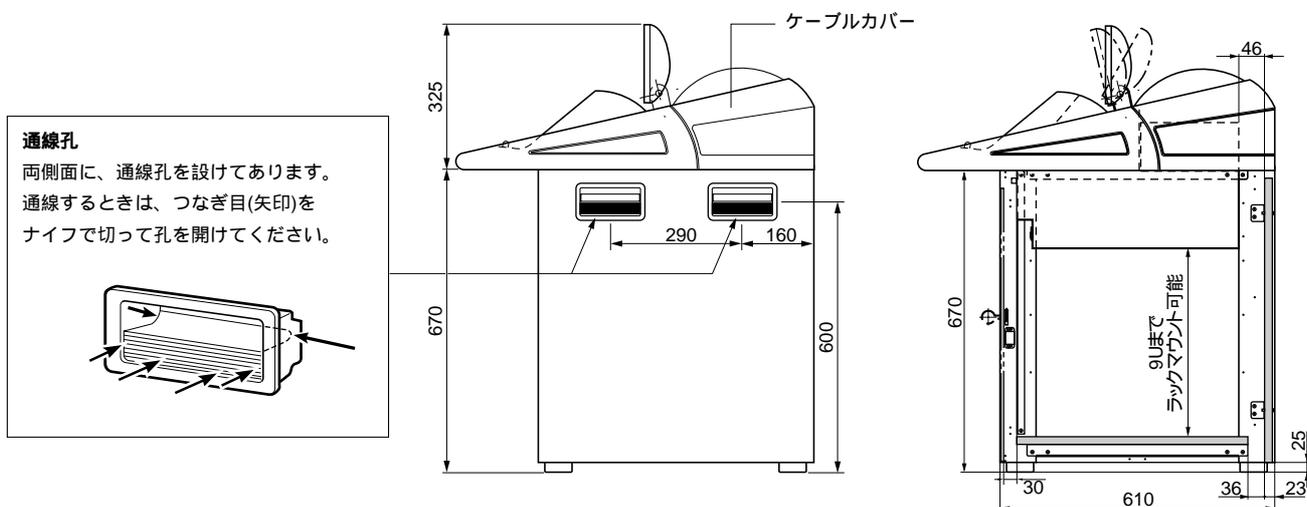
設置スペース

下図は、本機の両側に別売りの袖卓(WE-L190)を設置するときに必要なスペースです。

壁から50mm以上離して設置してください。



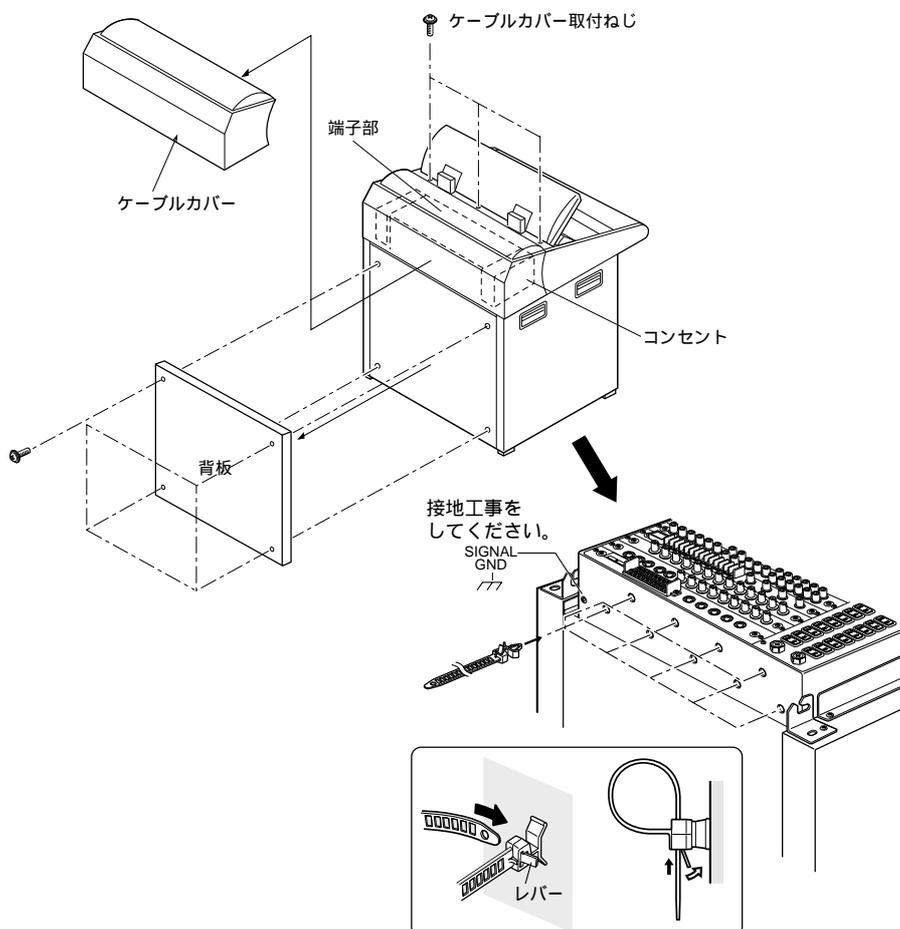
通線孔の位置



電源コンセント、端子部の位置、コードクランプの取り付け

後ろ側のケーブルカバー内に電源コンセントおよび端子部があります。
 図のようにケーブルカバーと背板を取り外します。

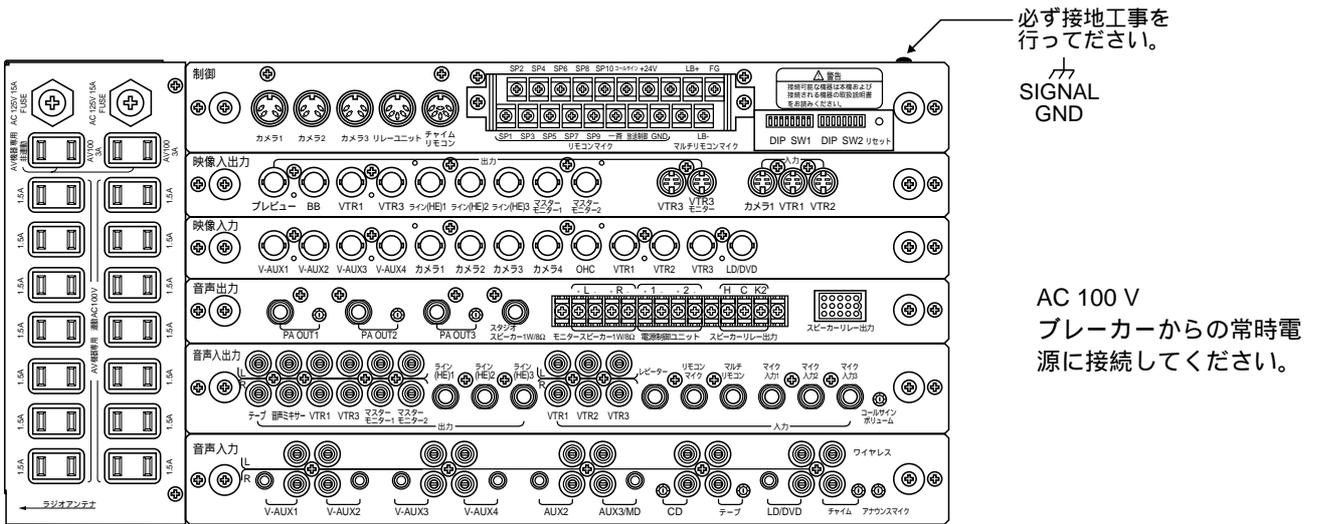
- ① ケーブルカバー取付ねじ3本をはずしケーブルカバーを取り外します。(1度うしろにずらし、上に持ち上げる)
- ② 背板取付ねじ4本をはずして背板を取り外します。
- ③ 端子部背面にある穴に付属のコードクランプを差し込みます(端子部の接続が完了したらコードをクランプします。また、レバーを動かすことでバンド部分をゆるめたりはざすことができます。)
- ④ 接地工事を忘れずに行ってください。



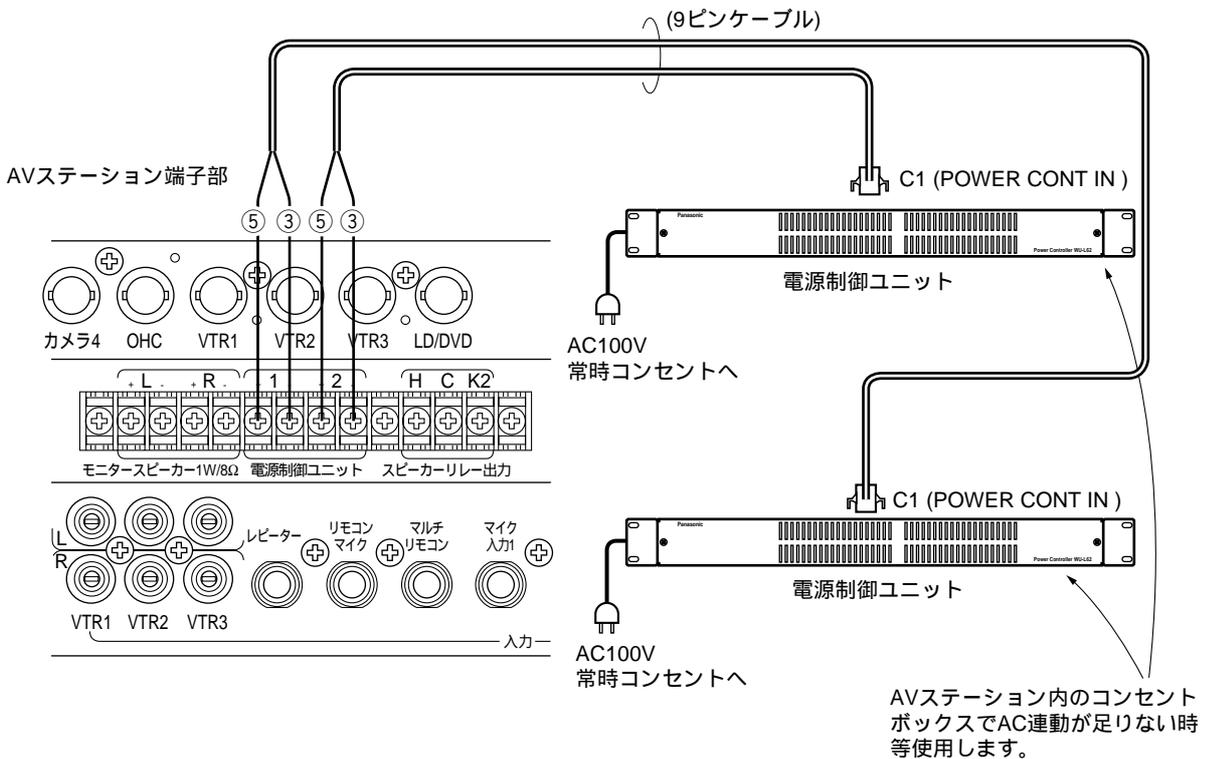
設置の前に

電源コンセントの配線

AVステーションと連動させて電源をON / OFFさせたい機器は、操作部うしろのケーブルカバー内にあるコンセントボックス(連動)から電源をとります。

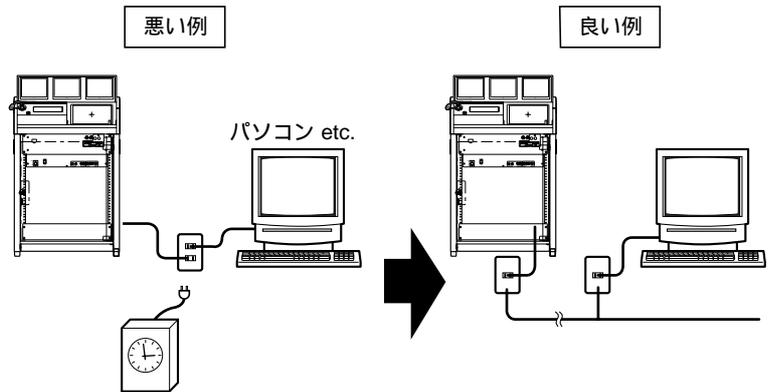


連動コンセントが足りないとき
電源制御ユニットWU-L62を別に増設してください。

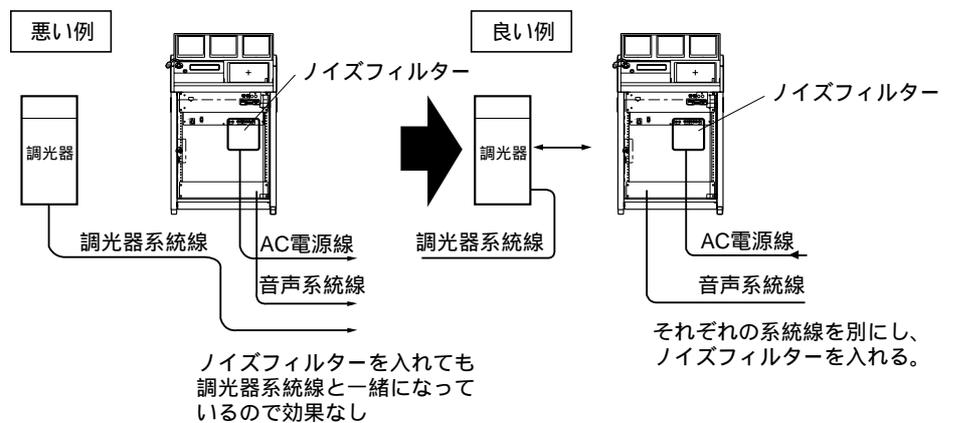


電源ノイズの対策

ノイズ源となるようなものに供給しているACコンセントからできる限り離れたACコンセントより供給する。



AVステーション本体へのAC電源線にノイズフィルターを接続する。



ノイズフィルター紹介

ネミック・ラムダ株式会社

MBS - 1205 - 22 (5 A) PA 120 Wまで

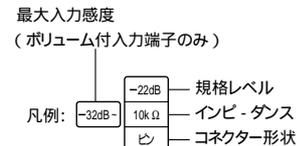
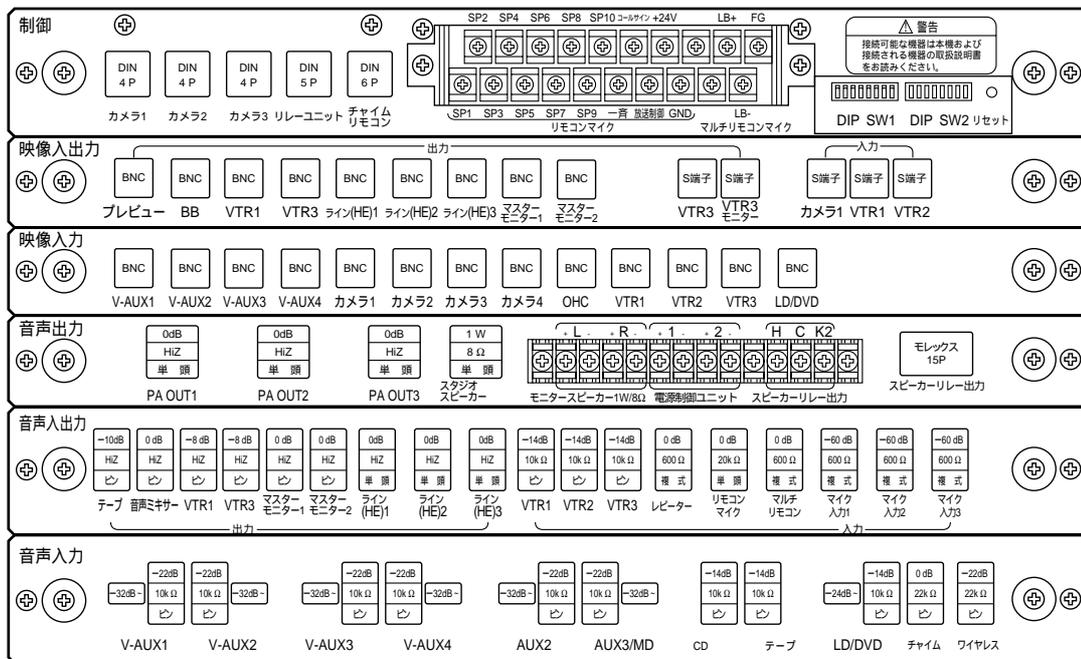
MBS - 1210 - 22 (10 A) PA 120W ~ 360Wまで

接地アースを必ず接続してください。

設置の前に

入出力コネクタとレベル・インピーダンス

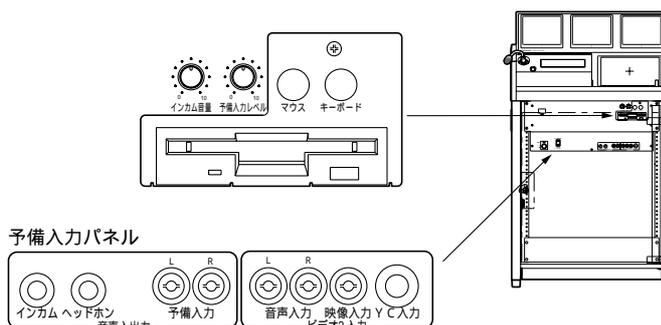
AVステーション端子部



予備入力パネル

入力端子名		レベル・インピーダンス	コネクター	
パネル表面	予備入力 ¹	音声: -22dB, 10kΩ (最大入力感度-32dB)	ピンプラグ(ステレオ)	
	ヘッドホン	音声: 3mW, 8Ω	複式プラグ	
	ビデオ2	音声入力	音声: -14dB, 10kΩ	ピンプラグ(ステレオ)
		映像入力	映像: VS1.0 V[p-p]/75Ω	ピンプラグ
	YC入力	映像: VS1.0 V[p-p]/75Ω C 0.286 V[p-p]/75Ω	S-コネクター	
インカム ¹			複式プラグ	

1 予備入力パネル右上(FDDふたの上)に音量(レベル)つまみがあります。



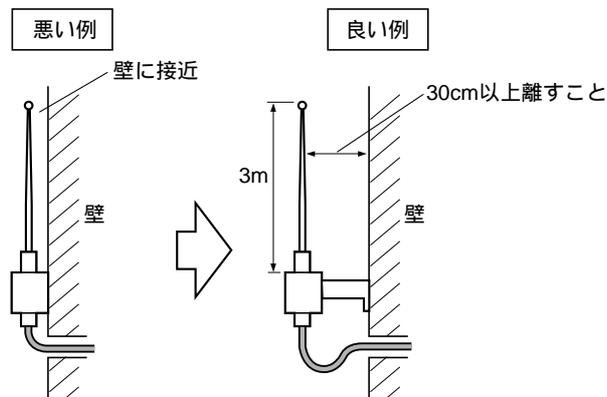
AMアンテナの設置工事について

設置について

1. 室内等に設置の場合

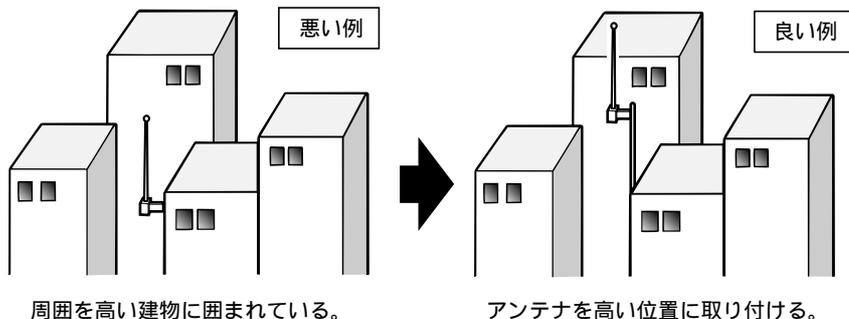
電波を遮へいする物(コンクリート壁など)からアンテナを30 cm以上離す。

電波をかく乱するものを同一室内または近くに置かない。また、かく乱する物がある場所には設置しない。



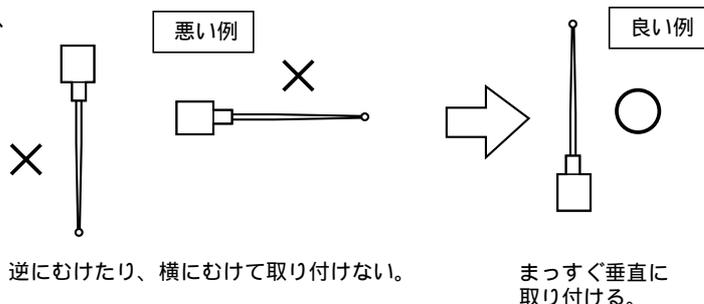
2. 屋外に設置の場合

周囲を高い建造物に囲まれている場合、アンテナを見通しのよい高い位置に設置する。



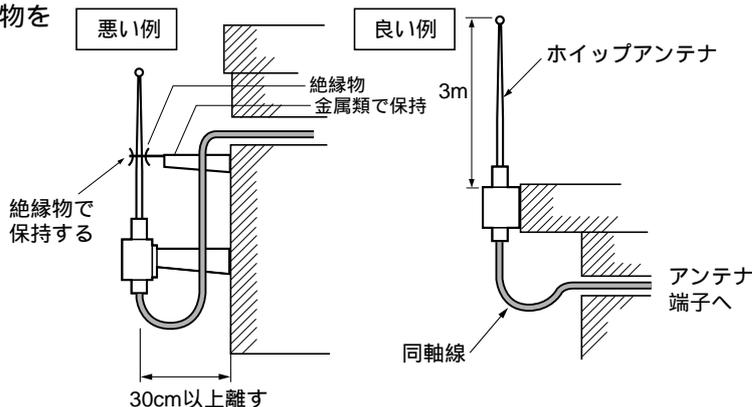
3. アンテナの向き

エレメントを下方に向けたり、横に向けたりせず、垂直に設置する。



4. アンテナエレメントの保持

屋内、屋外にかかわらず保持することは避ける。やむを得ず保持する場合は、保持する材質は絶縁物を使用する。

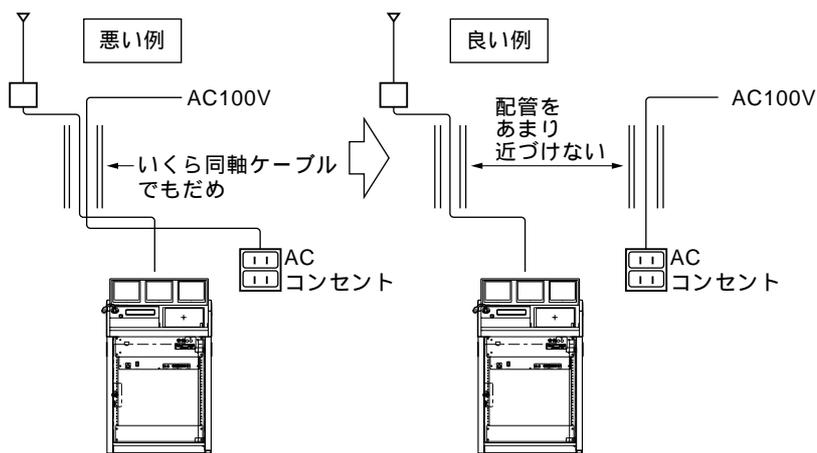


AMアンテナの設置工事について

アンテナに対するノイズ対策

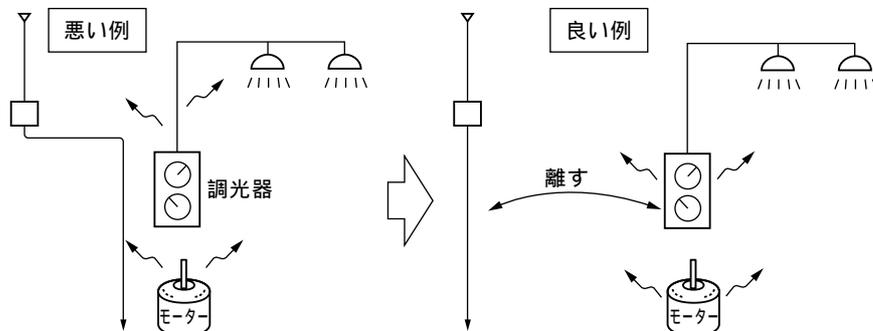
1. ケーブルの配管

アンテナから同軸ケーブルで配線しても、ACラインとは同一配管しない。できれば単独で配管する方が良い。



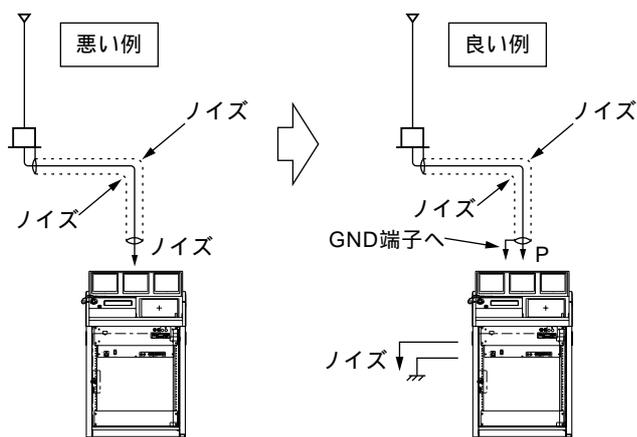
2. ケーブルの引き回し

アンテナからのケーブルは同軸ケーブルを使用し、ノイズ源となるようなもののそばを通線しない。



3. 同軸ケーブルアースの接続

AVステーション本体のアース端子にシールド編組線を接続する。特に周囲のノイズが多い場合は必ず接続する。



工事の手順についてのフローチャート

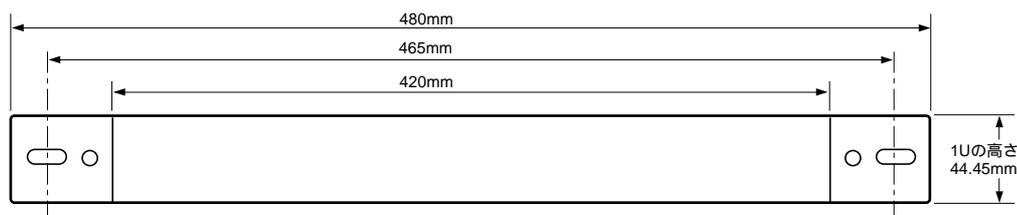


パネル : AVステーションのパネル操作で設定します。
取扱説明書を合わせてお読みください。

ラックマウントのしかた

マウント可能なユニットの基本寸法

ユニットの取付ピッチはいずれも、幅465 mm、高さ44.45 mm(EIA規格)です。この44.45 mmを1Uとして、ラックに収納できる機器の高さや、収納容量を表しています。



AVステーション・袖卓へのラックマウント

電力増幅ユニット(最大360 Wまで)は、袖卓に取り付けてください。電力増幅ユニットの上には必ずブランクパネル(1U)を取り付けてください。

袖卓にマウントするときは、袖卓用ラックアングルWL-Q08が必要です。(このとき棚板は使えなくなります。)

ワイヤレス受信機とRCU(リモートコントロールユニット)はできるだけ離してマウントしてください。

リレーユニットのスピーカー線はアンテナやマイクなどの信号線とできるだけ離して配線してください。

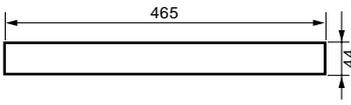
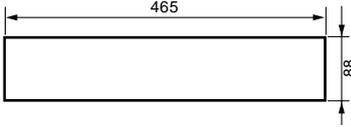
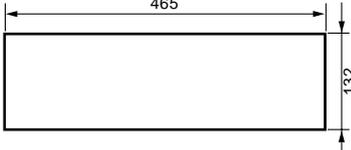
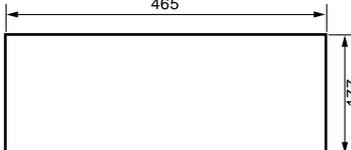
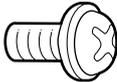
ラックマウントスペースが不足のときは、別途EIAラックまたはAVコンソール、袖卓(WE-L190)を設置してください。

収納部、袖卓のラックマウントスペースに空きがあるときは、危険防止のため、必ずブランクパネルを取り付けてください。

ご注意

リレーユニットWU-R110は、初めにアドレスNO.設定(P29)をしてからマウントしてください。
詳しくはWU-R110の取扱説明書をご覧ください。

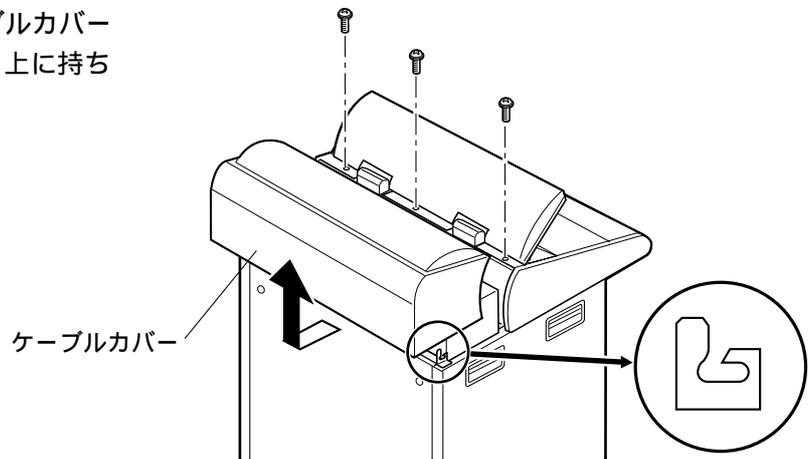
ラックマウントできる機器

パネル外觀寸法図 ()内は高さ	品 名	品 番	ラックアングル品番
(1U) 	リレーユニット	WU-R110	付属
	2波用 ワイヤレス受信機	WX-4020	W2-LAB / A44
	4波用 ワイヤレス受信機	WX-4040	
	ワイヤレス 混合分配器	WX-4910	
	デジタル ミュージックチャイム	WZ-255 (またはWZ-248)	取付済
	電源制御ユニット	WU-L62	
(2U) 	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 60W	WU-P51	取付済
	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 120W	WU-P52	
	プログラム コントローラー	WZ-640	W2-LAB / A88
(3U) 	電力増幅ユニット (AC-DC両用) 360W	WU-P53	取付済
	端子盤ユニット	WU-Q50A WU-Q55	
(4U) 	リレーユニット	WU-R72	取付済
		WU-R73	
 20本組	飾りねじ(銀色)	W2-MSS / 5008	

ラックマウントのしかた

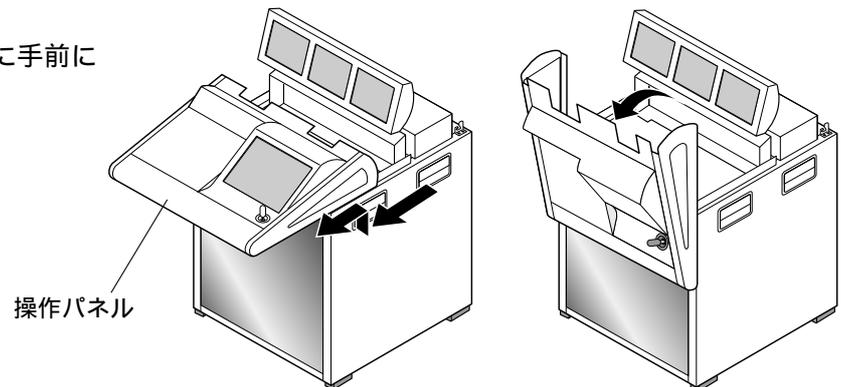
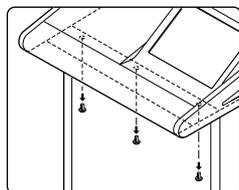
ラジオチューナーの取り付けかた

- ①ケーブルカバー取付ねじ3本を外しケーブルカバーを取り外します。(一度うしろにずらし、上に持ち上げる)

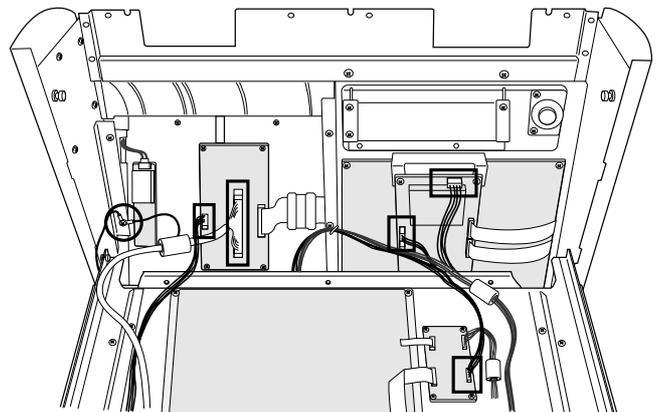


- ②操作パネル取付ねじ3本(手前裏にあるねじのうち一番奥側3本)をゆるめて手前にスライドさせます。

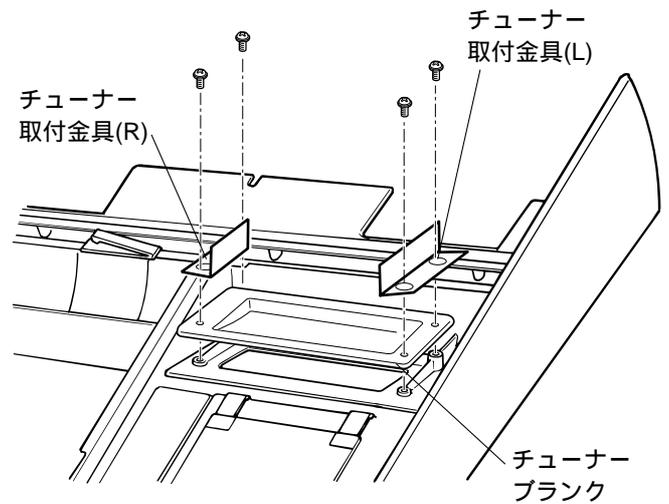
- ③操作パネルの手前を少し持ち上げて、更に手前に引き、操作パネルを手前に倒します。



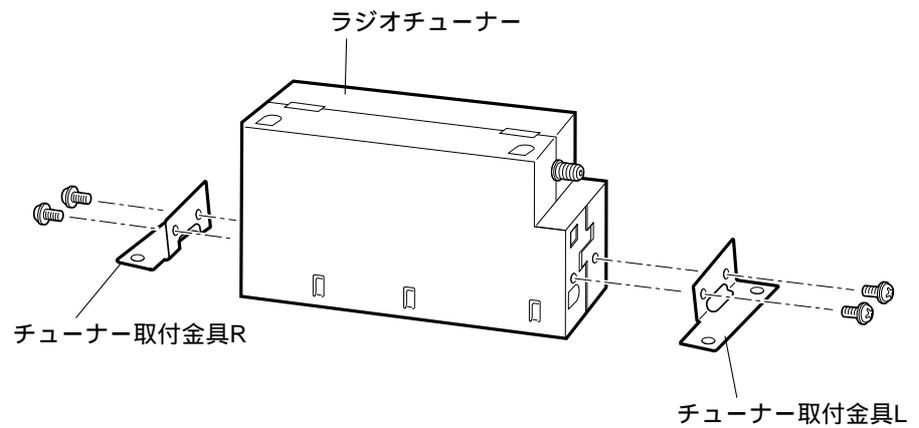
接続してあるコネクタを外せば操作パネル部と本体を切り離すことができます。



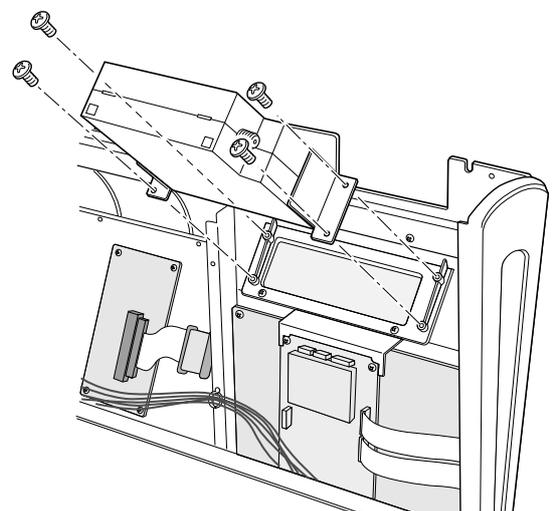
- ④操作パネル裏側のチューナーblankパネル取付ねじ4本を外しチューナーblankとチューナー取付金具(L/R)を外します。



- ⑤ラジオチューナーに付いている取付金具を⑤で外したチューナー取付金具に付け替えます。

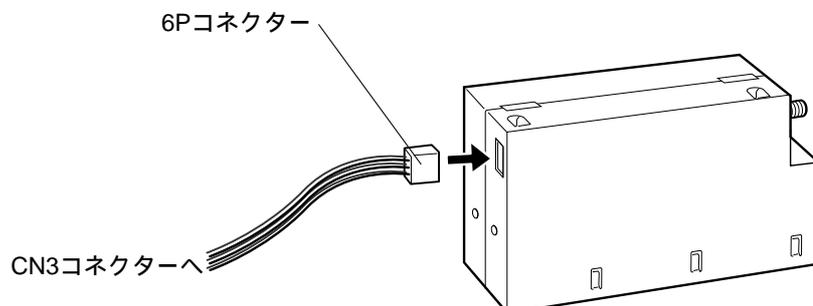


- ⑥ラジオチューナーを取付ねじ4本で操作パネルに固定します。

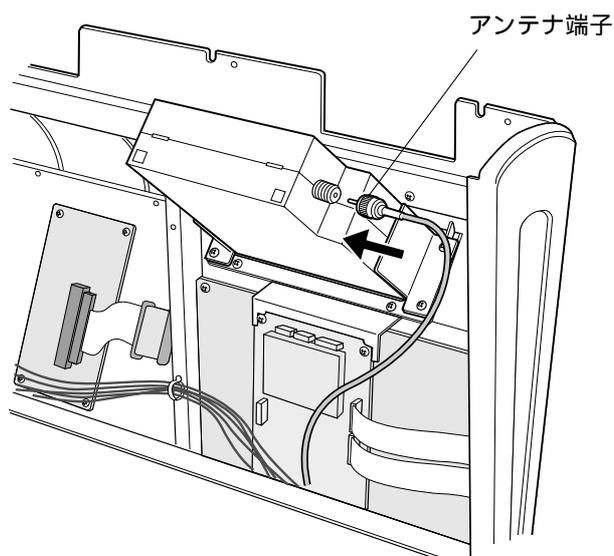


ラックマウントのしかた

- ⑦マイクアンプ基板のCN3に取り付けられている6Pのコネクターをラジオチューナーに接続します。

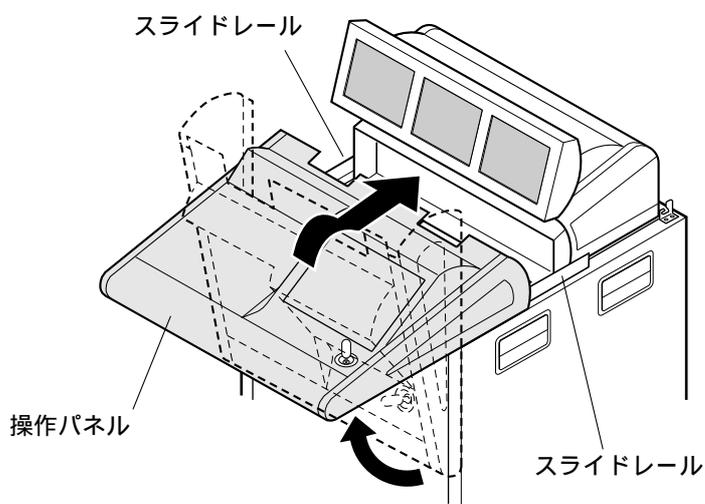
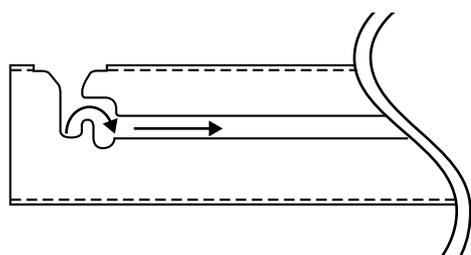


- ⑧ラジオチューナーにアンテナ端子を接続します。
外れないようナットを締めてください。



- ⑨操作パネルを取り外して作業した場合、操作パネルを本体スライドレールに引っかけます。その後、③で外したコネクターを元通りに接続します。

-
- ⑩操作パネルを水平になるように倒します。操作パネルの手前を持ち上げ奥に押し込みます。その後②でゆるめたねじ3本をしっかりと締め付けて固定します。

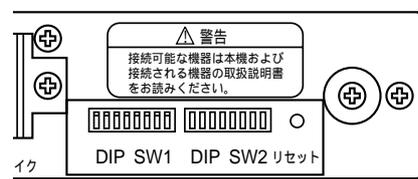
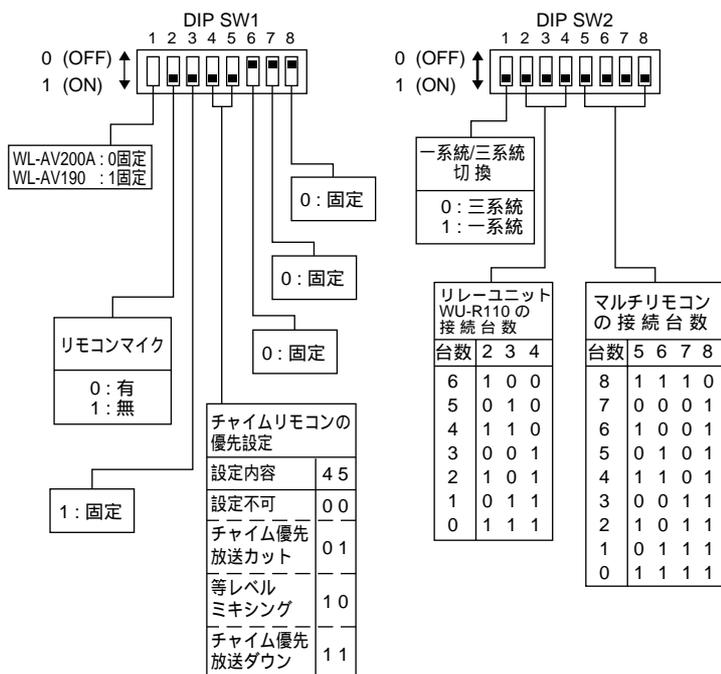


- ⑪操作パネルを外すときと逆の手順(②,⑩の順番)で、操作パネル、ケーブルカバーを元どおりに取り付けます。

設置のしかた

AVステーションのディップスイッチ設定

制御パネル右にあるディップスイッチを設定してください。
出荷時は下図のように設定されています。



特殊操作

初期化操作

操作部：

登録 ⇒ スタジオ連絡 ⇒ ラストワンメモリ ⇒ 電源SW

⇒ (タッチパネル画面) ⇒ データー管理 ⇒ データーの初期化

制御部：

登録 ⇒ スタジオ連絡 ⇒ 一斉放送

必ず両方の初期化を行なってください。

自己診断

登録 ⇒ スタジオ連絡 ⇒ 電源SW

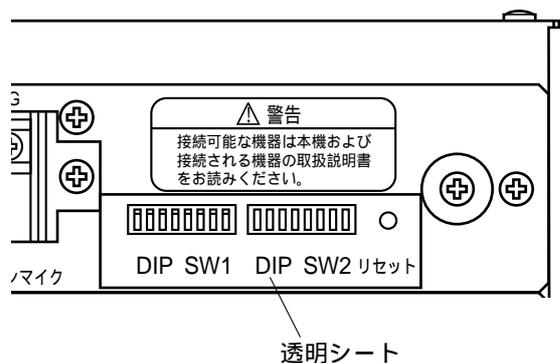
オフライン設定

登録 ⇒ スタジオ連絡 ⇒ コールサイン ⇒ 電源SW

操作部自己診断

一斉放送 押しながら [メイン電源SW] オン

- ①主電源スイッチが「入」になっている場合は「切」にします。
- ②ディップスイッチの上に貼られている透明シートをはがします。
- ③ディップスイッチを設定した後、再び透明シートを元の位置に貼ります。(再度貼付可能です。)



スイッチ設定変更後はP64の手順で必ず初期化の操作をしてください。
チャイムリモコンのディップスイッチ設定 (SW1 - 4, 5) の際は、P75の「ご注意」を合わせてご覧ください。

リレーユニットWU-R110(スピーカーリレー)のアドレス設定

リレーユニットWU-R110は、出荷時に次のように割り当てられています。AVステーションのディップスイッチ (SW2-2, 3,4) で設定した数だけ、操作モニター画面に表示され、動作します。(割当て変更は本体のオフライン機能 (P74) で行います。)

リレーユニット	アドレスNo.	1系統	3系統		
A	AVステーション内蔵分	合計6台70局	ch 1		
B	1			ch 2	
C	2				ch 3
D	3		ch 1		
E	4			ch 2	
F	5				ch 3
G	6	ch 1			

アドレス設定は1番(B)から6番(G)まで、順に間をあけずに設定してください。(例：1台のときは1、3台のときは1、2、3とする)

0、7～Fは設定しないでください。

設定、変更は必ず電源プラグを抜いて行ってください。

AVステーションの制御パネル右のディップスイッチ (SW2-2,3,4) を、WU-R110の台数に合わせて必ず設定してください。



ドライバーで回し、矢印を番号に合わせる。

接続のしかた

コネクタ、プラグの取り付けかた

●M形コネクタの取り付けかた

アダプターを通す

16mm
2mm
4mm

先端を処理する

はんだ付け素早く流し込むように行い外に盛り上げないこと。

●F形コネクタの取り付けかた

15mm
12mm

先端を処理する

編組線を折り返す

F形コネクタ

絶縁体と編組線の間へコネクタを差し込む

2~6mm

リングをラジオペンチなどでしっかりと締め付ける

●単頭プラグの取り付けかた

キャップを通す

5mm
5mm
10mm

先端を処理する
(編組線をよじる)

① 編組線を通しはんだ付け
② 芯線を通しはんだ付け

かしめる

●インカム・タリーケーブルの取り付けかた

ケーブルクランプ

A B

①

②

③

ねじ①をゆるめてから矢印②の方向に回してB部をA部から引きぬきます。

ピンNo.	1	2	3	4
ピンNo.	1	2	3	4

ねじ③をゆるめてケーブルにB部を通してケーブルを配線します。(線長は実際に使用する長さにしてください。)

A部にB部を差し込んでから右に回してねじ①で固定します。最後にねじ③でケーブルを固定します。

●ピンプラグの取り付けかた

ホット

アース

単頭プラグの場合と同様にシールドケーブルの先端を処理してから左図のように接続します。

●BNCプラグのつなぎかた

14mm

縮付金具

縮付金具をケーブルに通した先端を処理する

9mm

外側の切り口より9mmのところで絶縁物を切り取る

シエルを挿入しシールドを適当な長さに切ってはんだ付けする。

はんだ付け

シエル

この部分を押しつぶす

接続リング

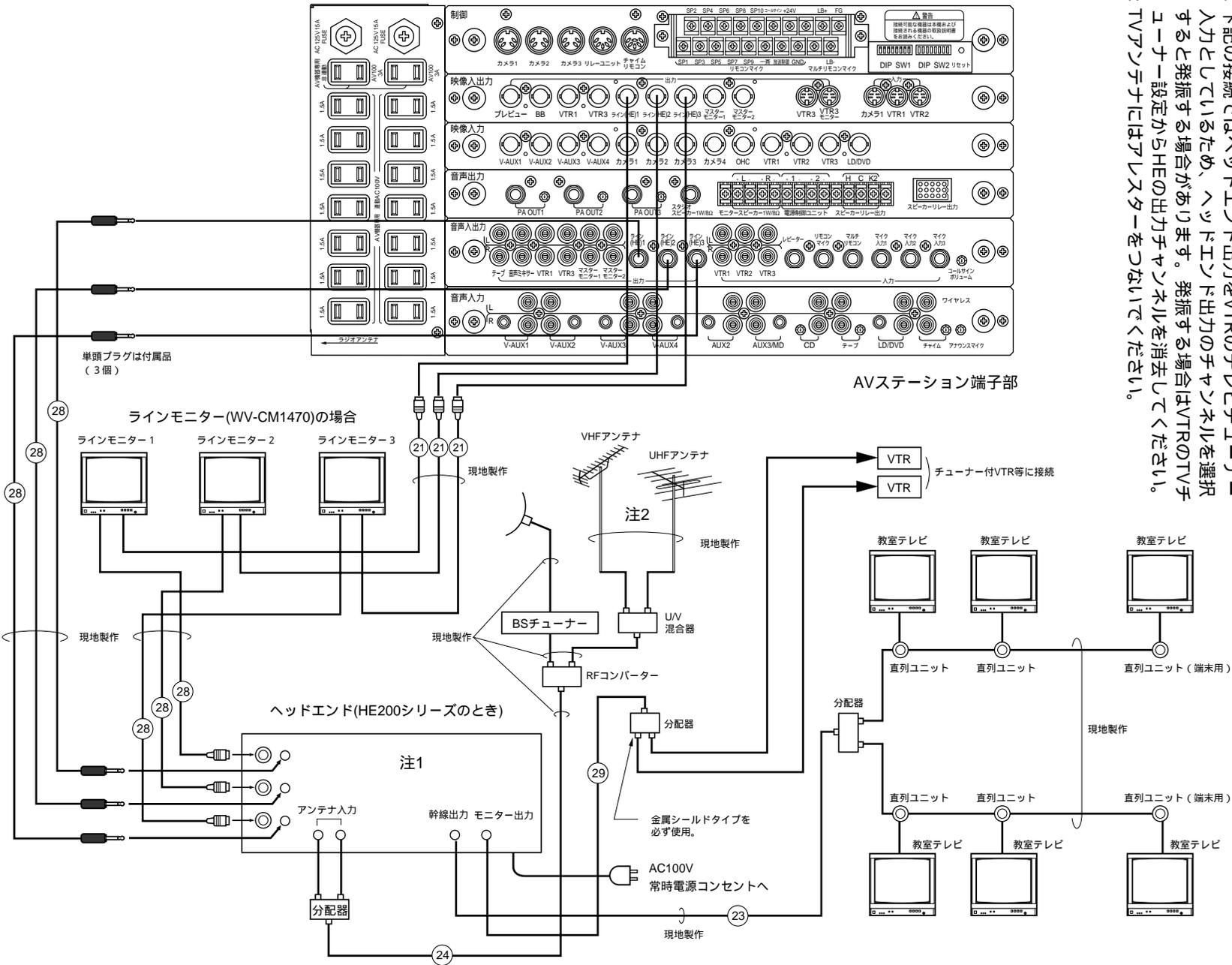
シエルに接続リングをねじ込んだ後縮付金具をスパナなどで固く締め付ける

注意：使用するケーブルは3C-2Vを推奨します。これよりもケーブル径が大きいとケーブルカバーの内側に当り、ケーブルカバーが取り付けられないことがあります。その場合は3C-2Vケーブルを中継して接続してください。

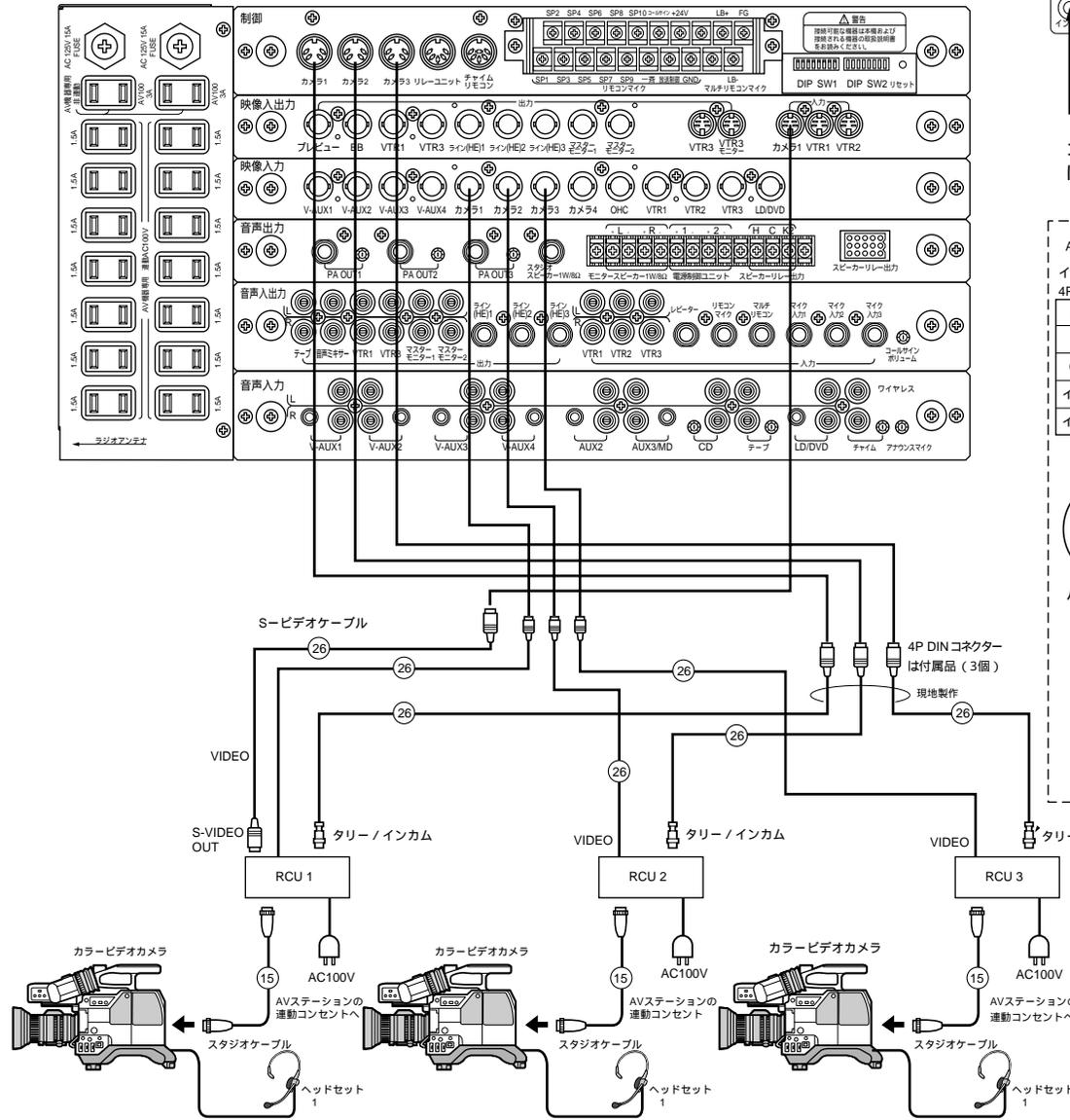
接続のしかた

ヘッドエンド出力、TVアンテナ、教室テレビの接続

注1：下記の接続ではヘッドエンド出力をVTRのテレビチューナー入力としていたため、ヘッドエンド出力のチャンネルを選択すると発振する場合があります。発振する場合はVTRのTVチューナー設定からHEの出力チャンネルを消去してください。
 注2：TVアンテナにはアリスターをつないでください。

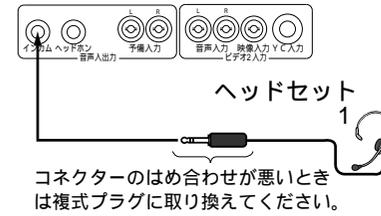


AVステーション端子部



1 ヘッドセット品番：MT12-MFB13-110号プラグ付き
(アシダ音響)

AVステーション予備入力パネル



DIN コネクターへの配線

AVステーション側 インカムタリコネクター 4P DIN コネクター	RCU側 インカムタリコネクター 4P コネクター
記号名	ピンNo. 記号名
タリー	①
GND	②
インカムH	③
インカムL	④

ピン配置 (4P DIN コネクター) (4P コネクター)

AVステーションとカメラ、インカム間の音が歪む場合は、3番ピンを接続しない様にして下さい。(WV-RC35等のRCUを使用すると音が歪むことがあります。)ただしWV-RC550は③、④が逆になっていますのでインカムL ④ - ③ RECEIVE間を接続してください。

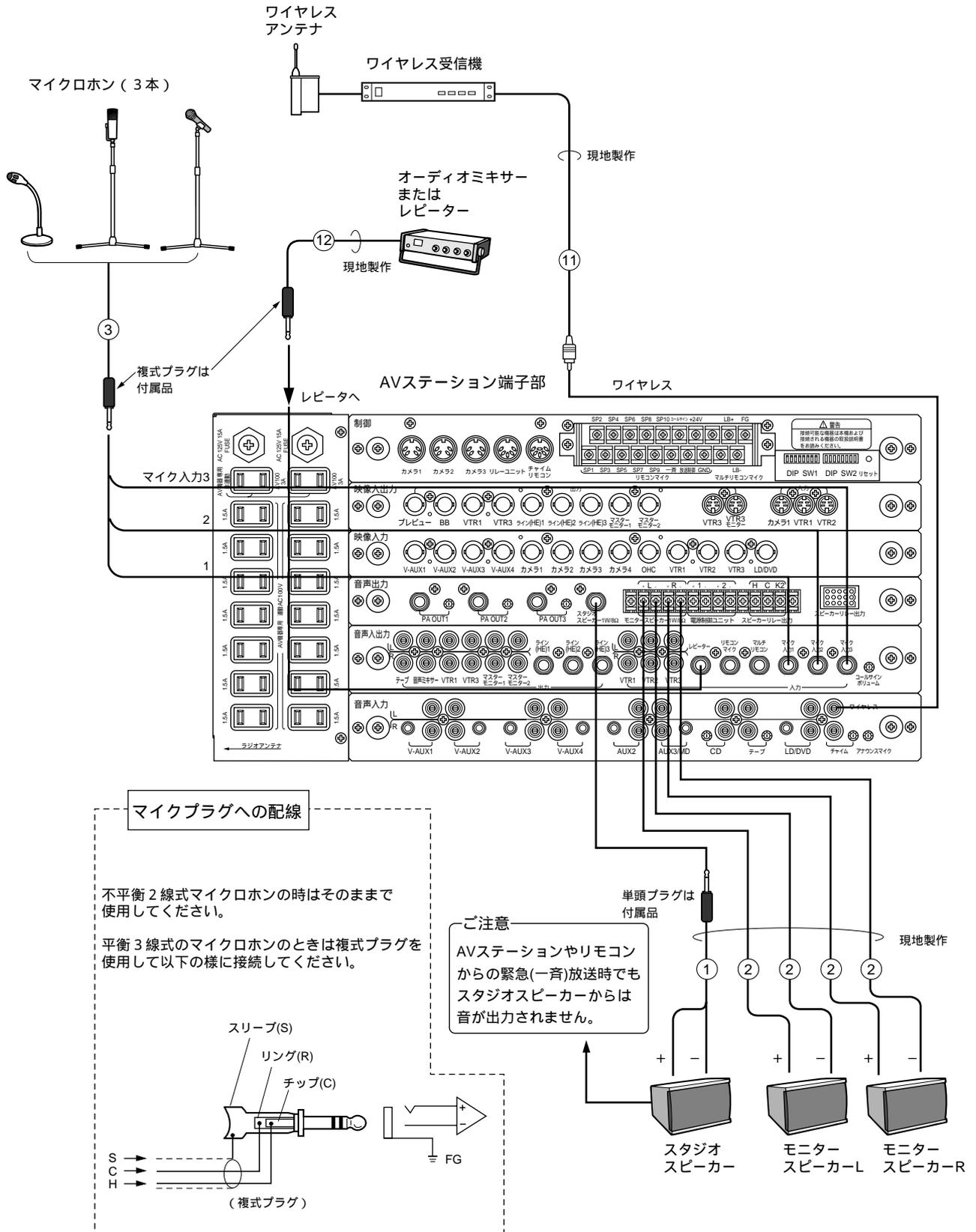
ハンダ面視図

AVステーションとカメラ、インカム・タリーの接続

タリー/インカムはカメラ1、2、3のみ接続できます。
VTR - VTR、カメラ - VTR間の非同期ミキシング方式のため、カメラにゲンロックをかける必要はありません。

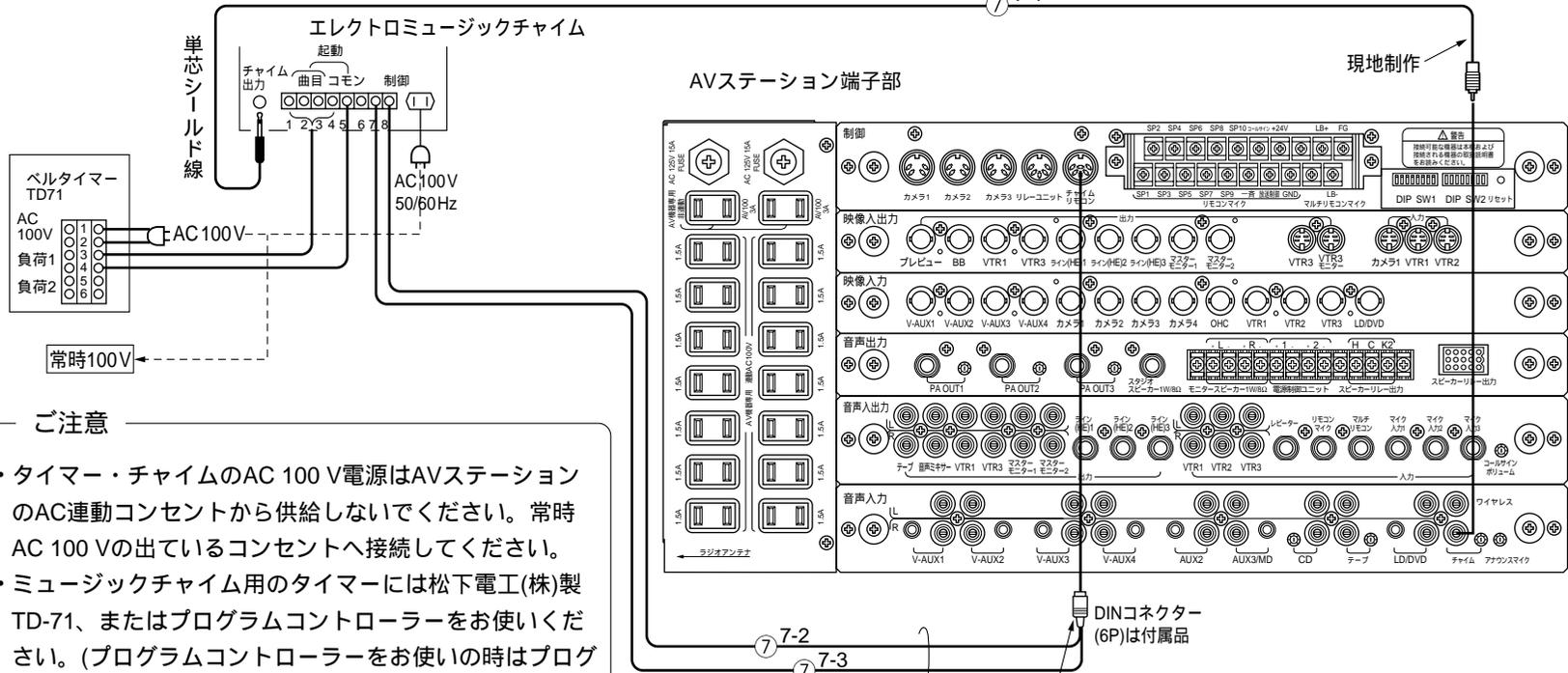
音声機器の接続

(マイクロホン、ワイヤレス受信機、レピーター、スタジオスピーカー、モニタースピーカー)



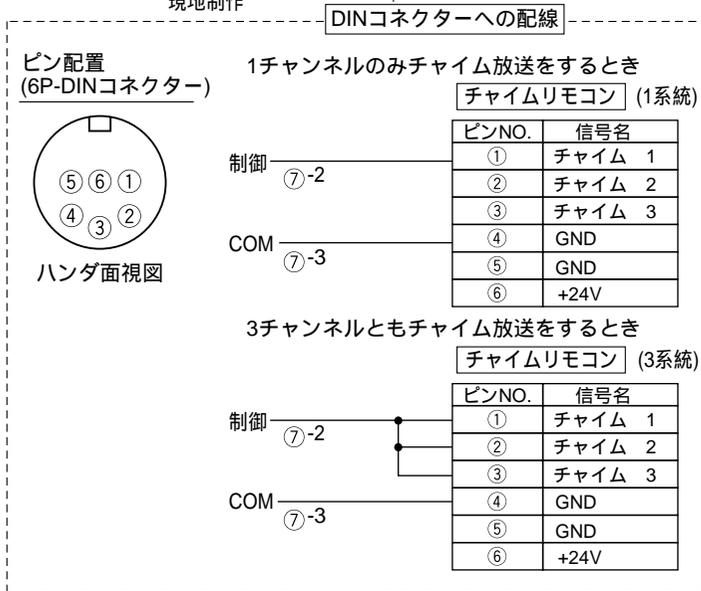
接続のしかた

ミュージックチャイムの接続



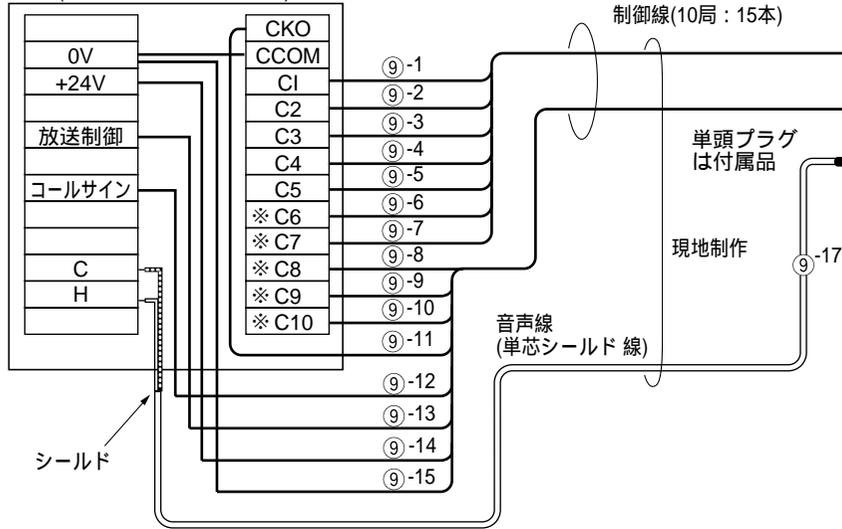
ご注意

- ・タイマー・チャイムのAC 100V電源はAVステーションのAC連動コンセントから供給しないでください。常時AC 100Vの出ているコンセントへ接続してください。
- ・ミュージックチャイム用のタイマーには松下電工(株)製TD-71、またはプログラムコントローラーをお使いください。(プログラムコントローラーをお使いの時はプログラムコントローラーの取扱説明書をご参照ください。)
- ・出荷時は、チャイム放送を優先した一般放送とのミキシング状態に設定してありチャイム起動時、一般放送は小さくなります。(約20 dBダウン)ただし一斉放送になりますので放送していない場所でもミキシング放送が聞こえます。
- ・チャイム優先放送(一般放送はカットされ、チャイム放送のみ一斉になる)にするには、制御パネル右のディップSW1-4をOFF(0:上側)、1-5をON(1:下側)にしてください。(P28)
- ・完全ミキシング放送(チャイム放送と一般放送の一斉ミキシング放送になります。ただし、一斉放送になりますので一般放送をしていない場所でもミキシング放送が聞こえます。)にするには、制御パネル右のディップSW1-4をON(1:下側)、1-5をOFF(0:上側)にしてください。(P28)
- ・P75の「ご注意」も合わせてご確認ください。



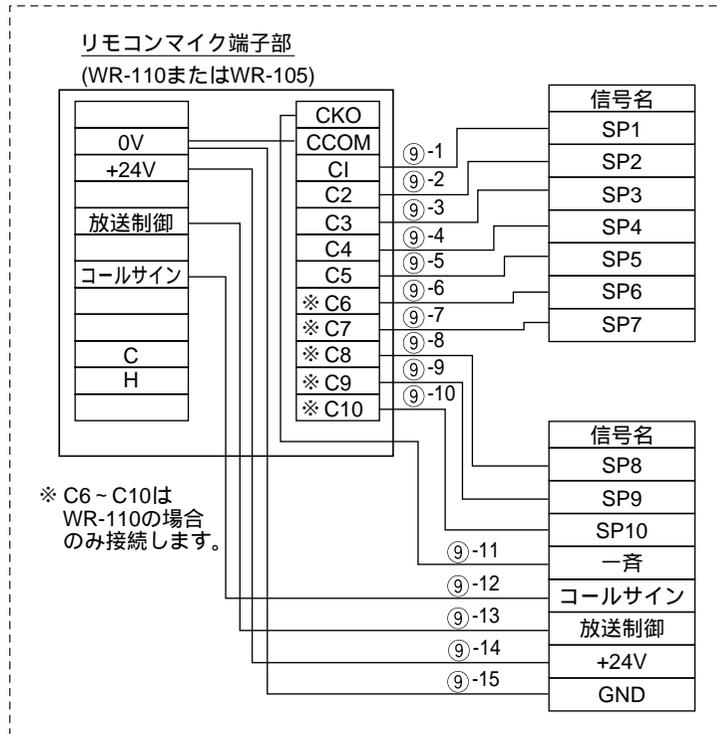
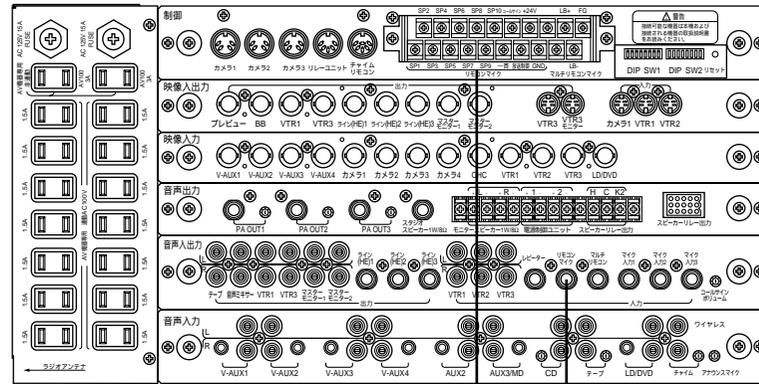


リモコンマイク
(WR-110またはWR-105)



※ C6 ~ C10はWR-110
の場合のみ接続します。

AVステーション端子部



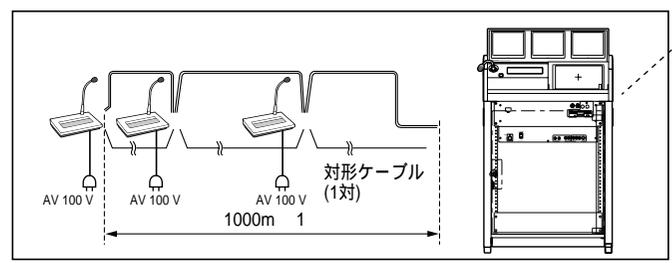
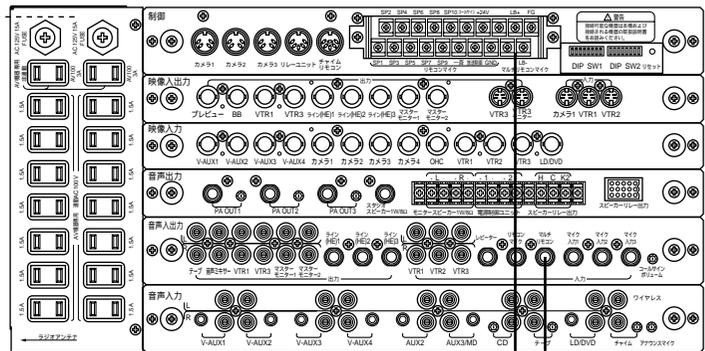
ご注意
リモコンマイクを使用する時は
制御パネル右のディップSW1-2
をOFF(0)にしてください。
(P28参照)

多局リモコンマイク(WR-105、110)の接続

接続のしかた

マルチリモコンマイク(WR-300)の接続

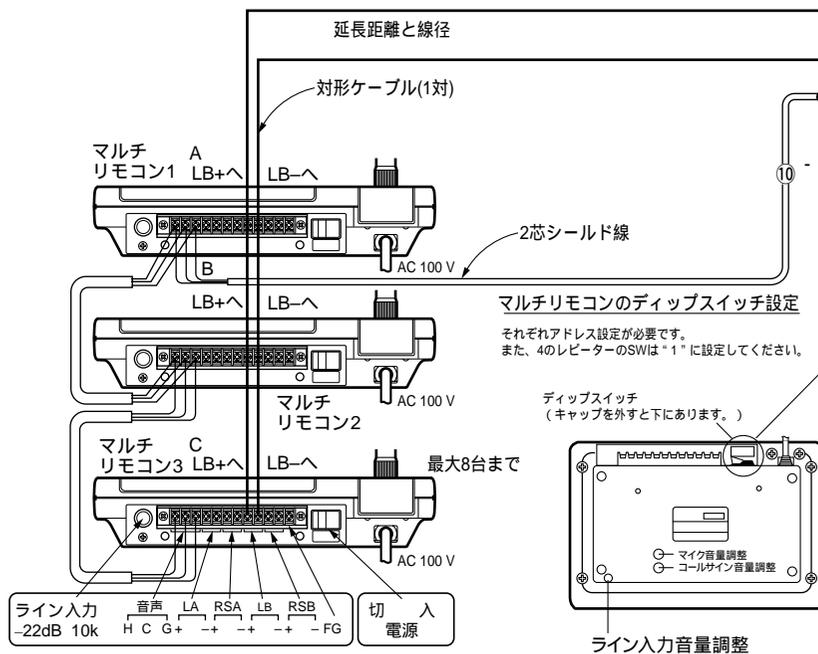
AVステーション端子部



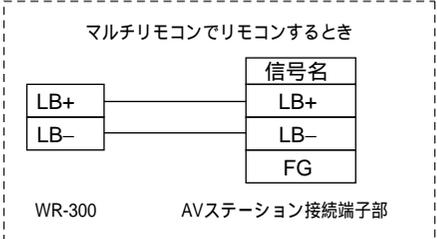
1 AVステーションと接続した時の総延長距離は1,000m以内です。

音声線(2芯シールド線)			データ線(ツイストペア線)				
距離	200m以下	500m以下	距離	200m以下	690m以下	880m以下	1,090m以下
公称断面積	0.26mm ² 以上	0.35mm ² 以上	線径	0.65mm	0.8mm	0.9mm	10mm

現地制作(ツイストペア線を使用すること)



ご注意
マルチリモコンマイクを使用する時は、使用台数に応じて制御パネル右のディップSW2-5~8をセットしてください。(P28参照)



ディップスイッチ (キャップを外すと下にあります。)

ライン入力音量調整

1 (ON)	↑	1 2 3 4
0 (OFF)	↓	

マルチリモコン個々のアドレス	アドレス	1	2	3
1	1	0	0	
2	0	1	0	
3	1	1	0	
4	0	0	1	
5	1	0	1	
6	0	1	1	
7	1	1	1	
8	0	0	0	

1: レピーターなし(2線式)
1,000m以内総延長距離

ご注意
アドレスは抜けやダブりのないように1から順に設定してください。

リモコン別にアドレスを設定します。

リレーユニットWU-R110、電力増幅ユニット、スピーカーの接続

非常用放送設備と接続しない場合

電力増幅ユニット

入力ジャック → AVステーション端子部のPAアウトへ

PA OUT → 1chのPA OUTはAVステーション端子部のスピーカーリレー入力を通り、1chのリレーユニットWU-R110のPA INを並列接続する。

2ch、3chのPA OUTは、各々2ch、3chのリレーユニットWU-R110のPA INを並列接続する。

リレーユニットWU-R110

制御端子(送信、受信) → AVステーション端子部のリレーユニットコネクタ(5P DIN)から、全部のリレーユニットを次々に接続する。
(本機とリレーユニット間はツイストペア線2本、各リレーユニット間はWU-R110の付属ケーブル使用)

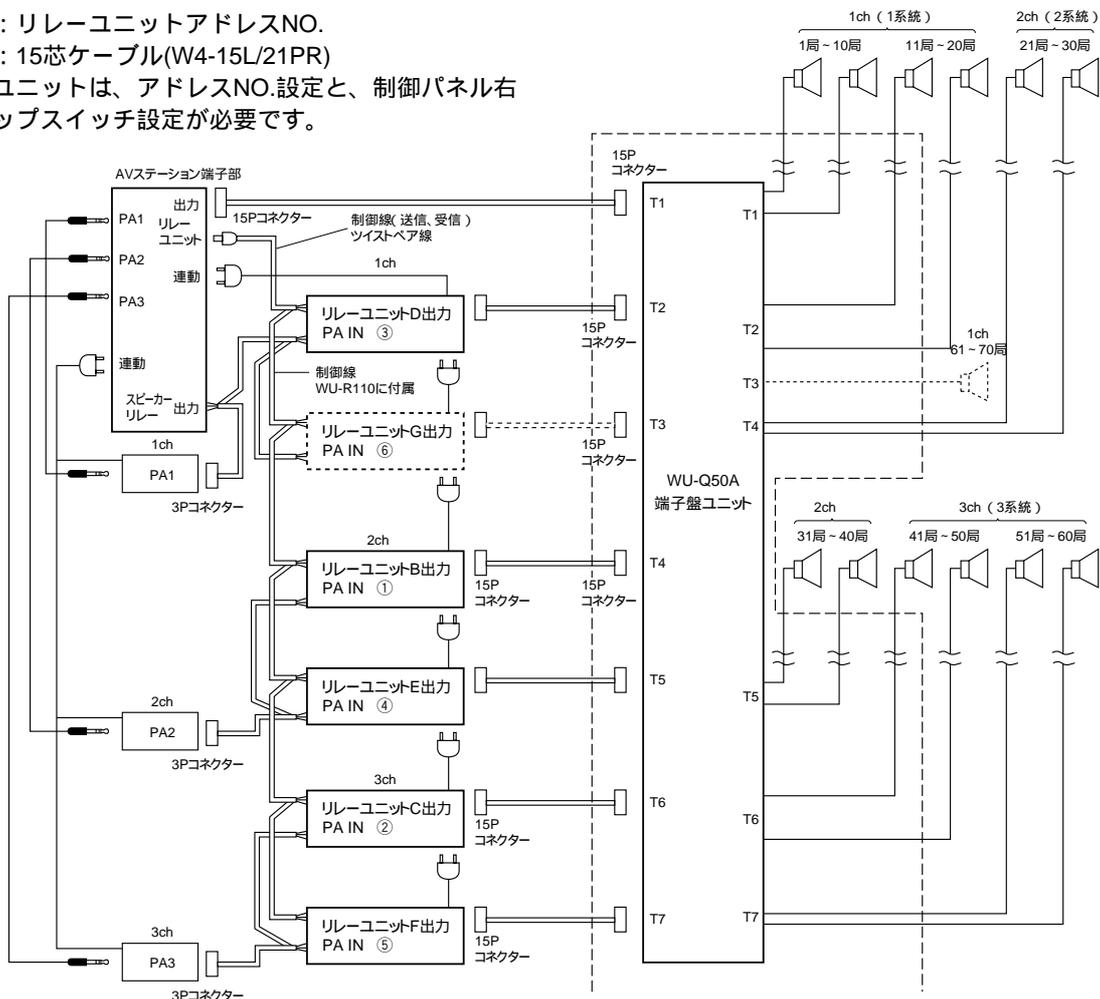
スピーカーリレー入力(PAIN) → 電力増幅ユニットPA OUTへ

スピーカーリレー出力(15Pコネクタ) → 端子盤ユニットWU-Q50Aへ

(注)①～⑥：リレーユニットアドレスNO.

E : 15芯ケーブル(W4-15L/21PR)

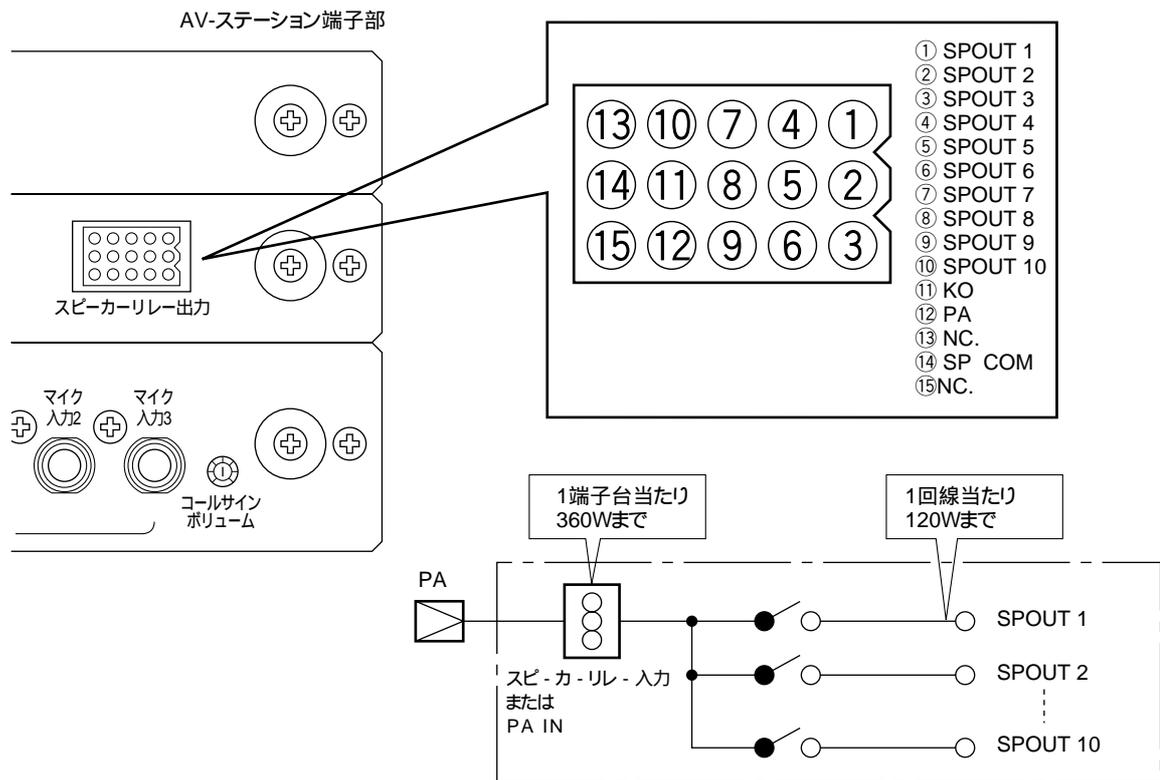
リレーユニットは、アドレスNO.設定と、制御パネル右のディップスイッチ設定が必要です。



接続のしかた

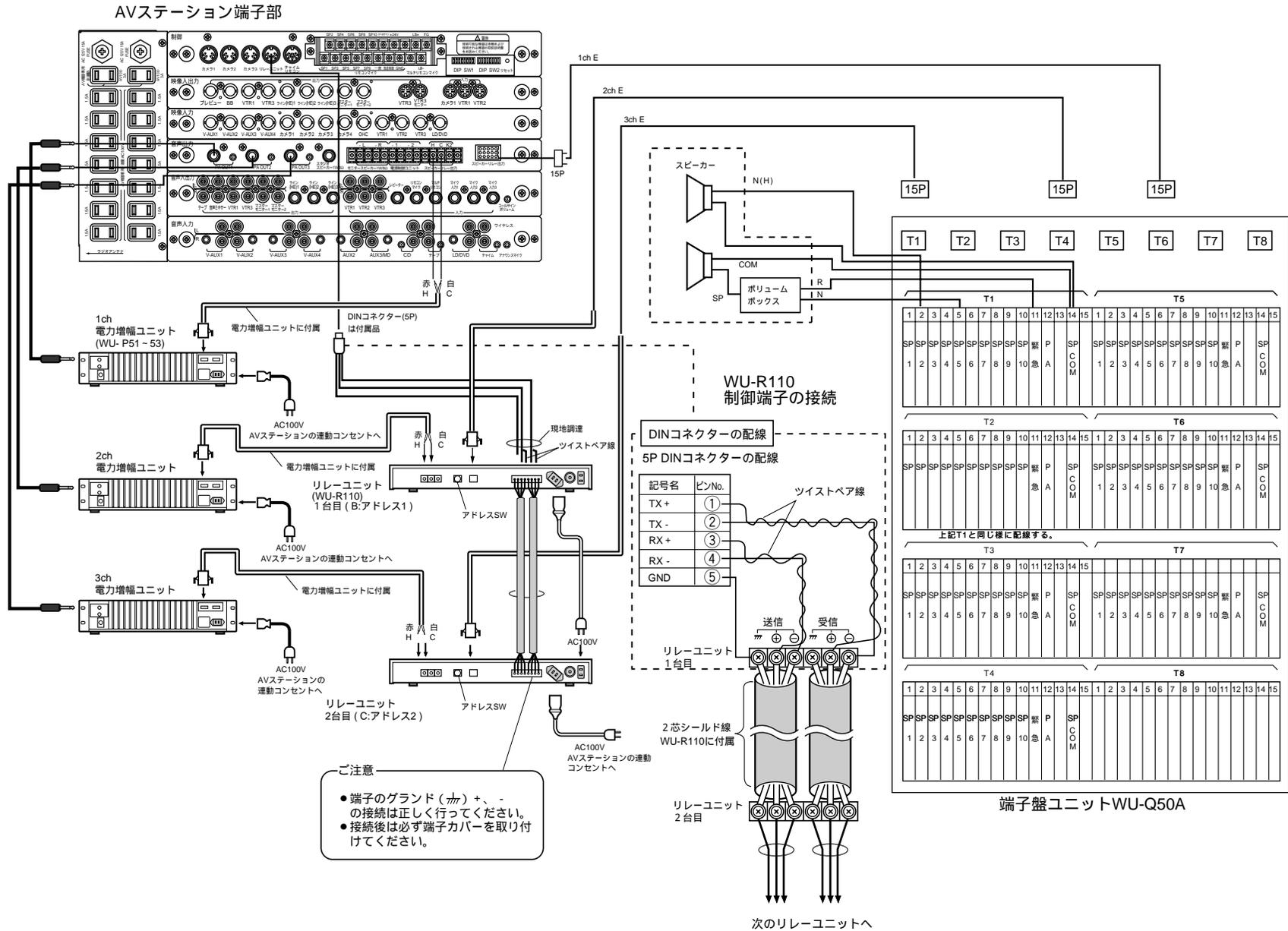
スピーカーリレー出力コネクターの信号名と最大許容出力

WU-R110スピーカーリレー出力コネクター(信号名)



ご注意

- リレーユニット、電力増幅ユニット、スピーカーの接続では、次のことにご注意願います。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せるくらいの余裕をとってください。
- 本機端子部のスピーカーリレー入力端子(CとK2間)、及びWU-R110のPA IN端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
- WU-R110のアドレス設定¹と、AVステーションのディップスイッチ設定²を忘れずに行ってください。
 - 1 それぞれアドレス設定(1~6)が必要です。アドレスは抜けやダブリの無いように1から順番に設定する。
 - 2 増設リレーユニット(WU-R110)を使用する時は使用台数に応じてAVステーションのディップSW2-2~4を設定する。



接続例(WU-Q50Aを使用する場合)

接続のしかた

リレーユニットを使って壁掛形非常用放送設備と接続した例

- 電力増幅ユニット(PA)は壁掛形非常用放送設備、AVステーションの両方に持ちます。
- 非常系統、AVステーションの出力は360Wまでです。
- 電力増幅ユニット(PA)

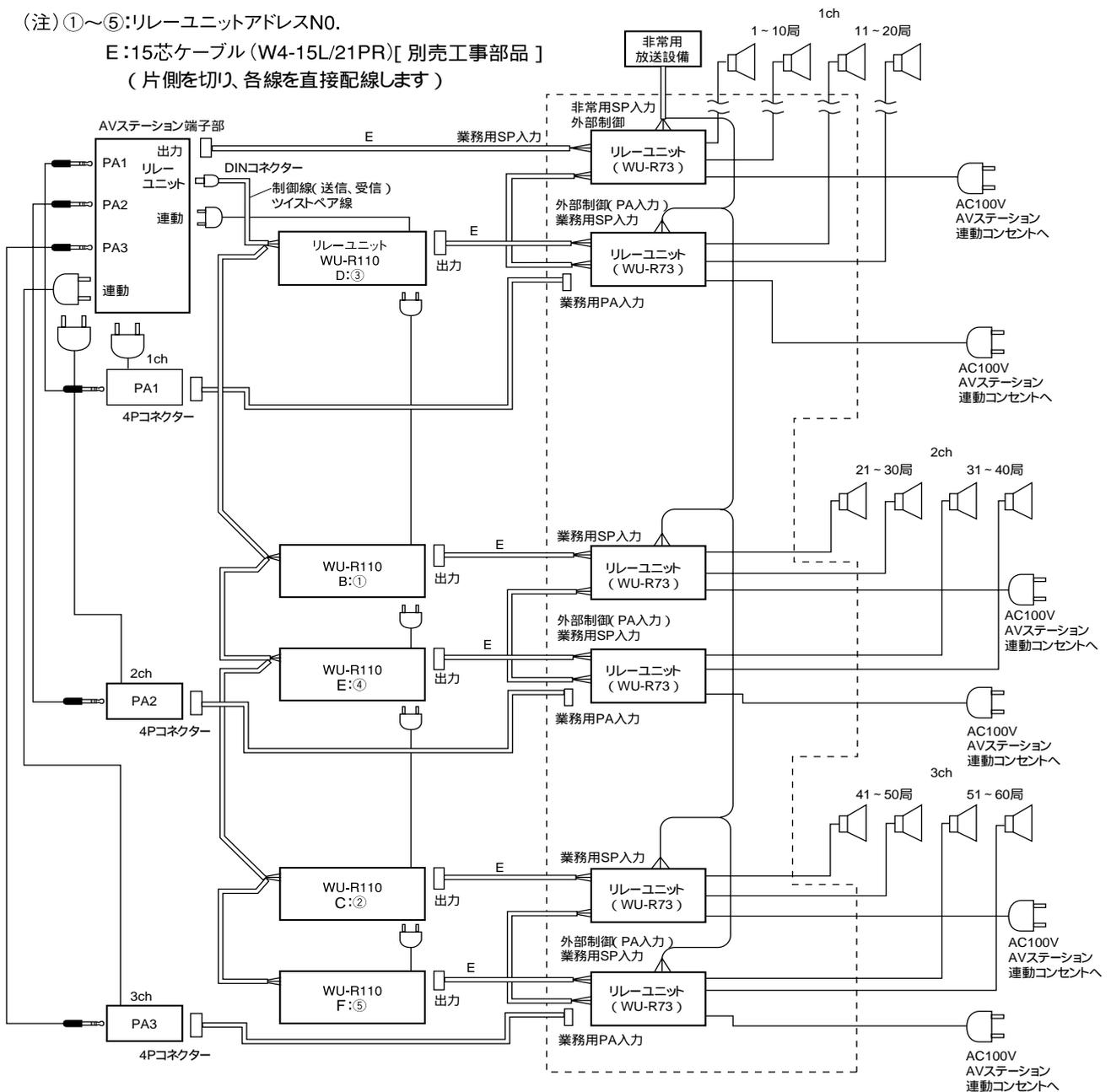
入力ジャック AVステーション端子部のPAアウトへ。
 PA OUT WU-R73の業務用PA入力または外部制御PA入力へ。

- リレーユニット WU-R110

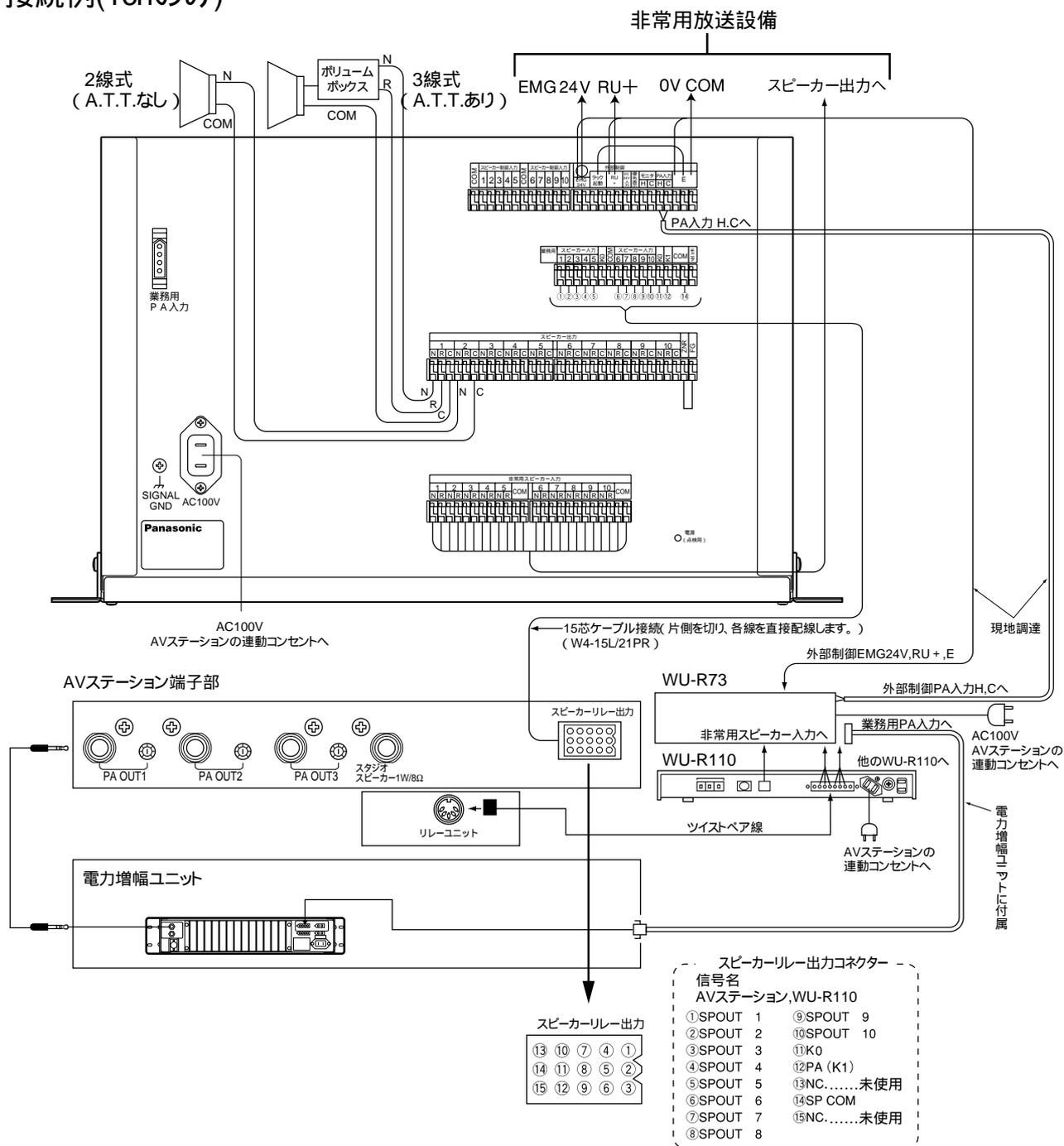
制御端子(送信、受信) 前ページ参照。
 スピーカーリレー入力(PA IN) 接続しない
 スピーカーリレー出力(15Pコネクター) WU-R73の業務用スピーカー入力へ。

(注) ①～⑤:リレーユニットアドレスN0.

E:15芯ケーブル(W4-15L/21PR)[別売工事部品]
 (片側を切り、各線を直接配線します)



接続例(1chのみ)



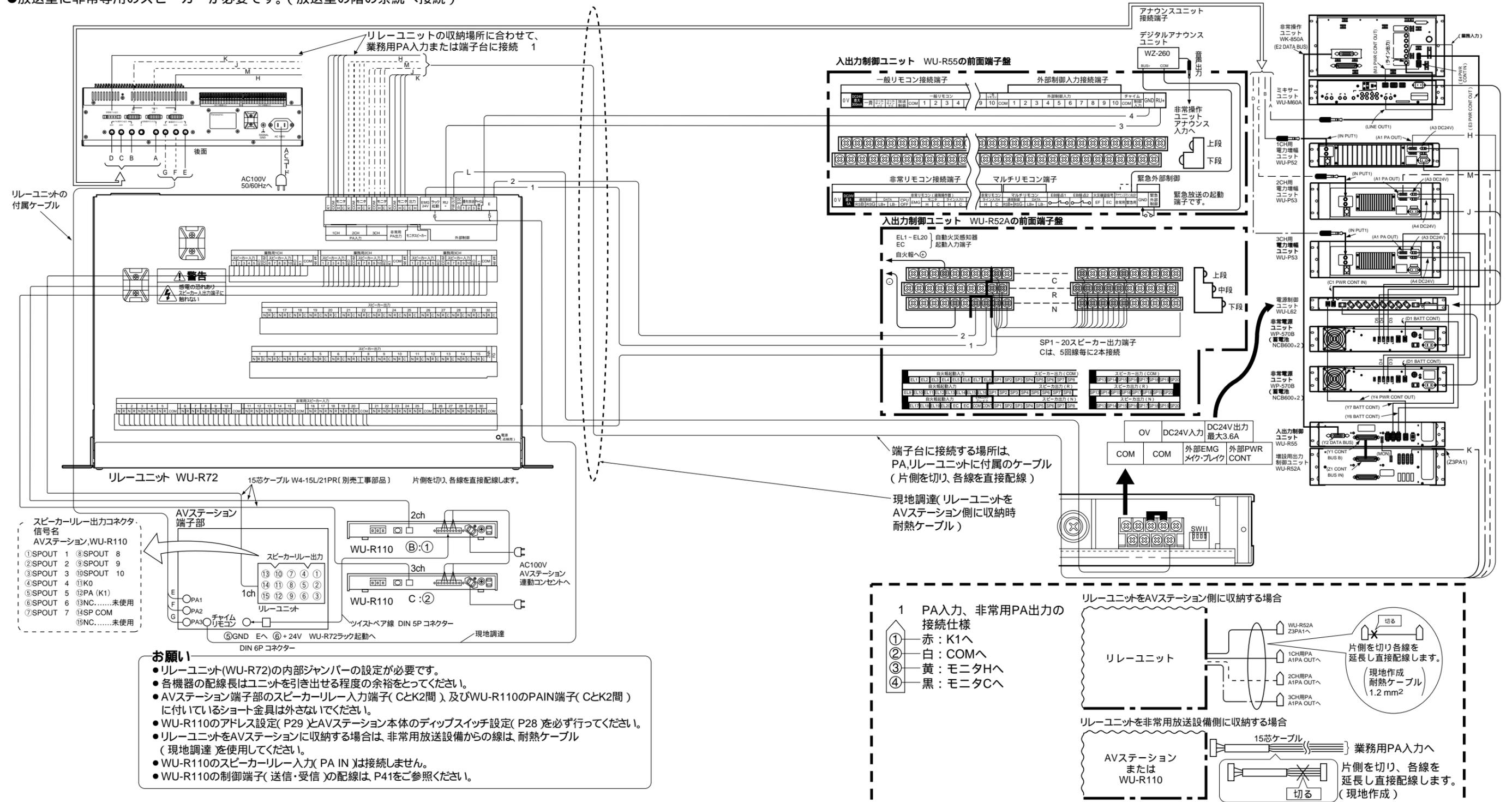
お願い

- リレーユニット(WU-R73)内部基板のCN105を **ラック** 側にします。
工場出荷時は **デスク** 側になっています。
- リレーユニット(WU-R73)外部制御の起動端子とE端子をジャンパー線で接続します。
- 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
- AVステーションのスピーカーリレー入力端子(CとK2間) 及びWU-R110のPA IN端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
- WU-R110のアドレス設定(P29)と、AVステーション本体のデバッグスイッチ設定(P28)を必ず行ってください。
- リレーユニットをAVステーションに収納する場合は、非常用放送設備からの線は、耐熱ケーブル (現地調達) を使用してください。

接続のしかた

リレーユニットを使ってラック形非常用放送設備と接続した例

- 非常系統の出力は1080Wまでです（1chあたり出力は360Wまでです）
- 一般放送30局、非常放送30局までです。
- 放送室に非常専用のスピーカーが必要です。（放送室の階の系統へ接続）

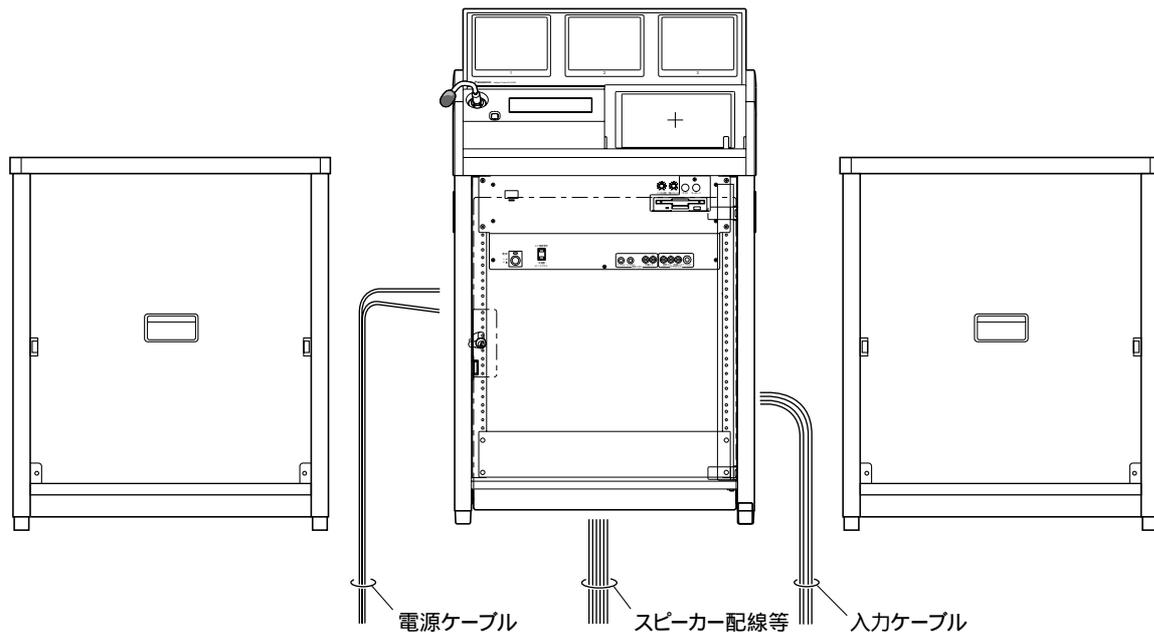


- お願い**
- リレーユニット(WU-R72)の内部ジャンパーの設定が必要です。
 - 各機器の配線長はユニットを引き出せる程度の余裕をとってください。
 - AVステーション端子部のスピーカーリレー入力端子(CとK2間)及びWU-R110のPAIN端子(CとK2間)に付いているショート金具は外さないでください。
 - WU-R110のアドレス設定(P29)とAVステーション本体のディップスイッチ設定(P28)を必ず行ってください。
 - リレーユニットをAVステーションに収納する場合は、非常用放送設備からの線は、耐熱ケーブル（現地調達）を使用してください。
 - WU-R110のスピーカーリレー入力(PA IN)は接続しません。
 - WU-R110の制御端子(送信・受信)の配線は、P41をご参照ください。

接続のしかた

束線のご注意

図のように電源ケーブル、スピーカーケーブル、入力ケーブルをそれぞれ別々に束線してください。電源ケーブルと入力ケーブルなどのレベルの極端に異なるケーブルと一緒に束線しないでください。束線はある程度余裕をとり、ユニットが前へ引出せる位の長さにしてください。



接続・配線の点検

- ①すべての接続が終わりましたら電源をONにする前に再度配線・接続を点検してください。
- ②各ユニット間、リモコンマイクやチャイムの接続ミスや配線忘れがありませんか？
- ③AVステーションのディップスイッチ設定（P28）を再確認してください。

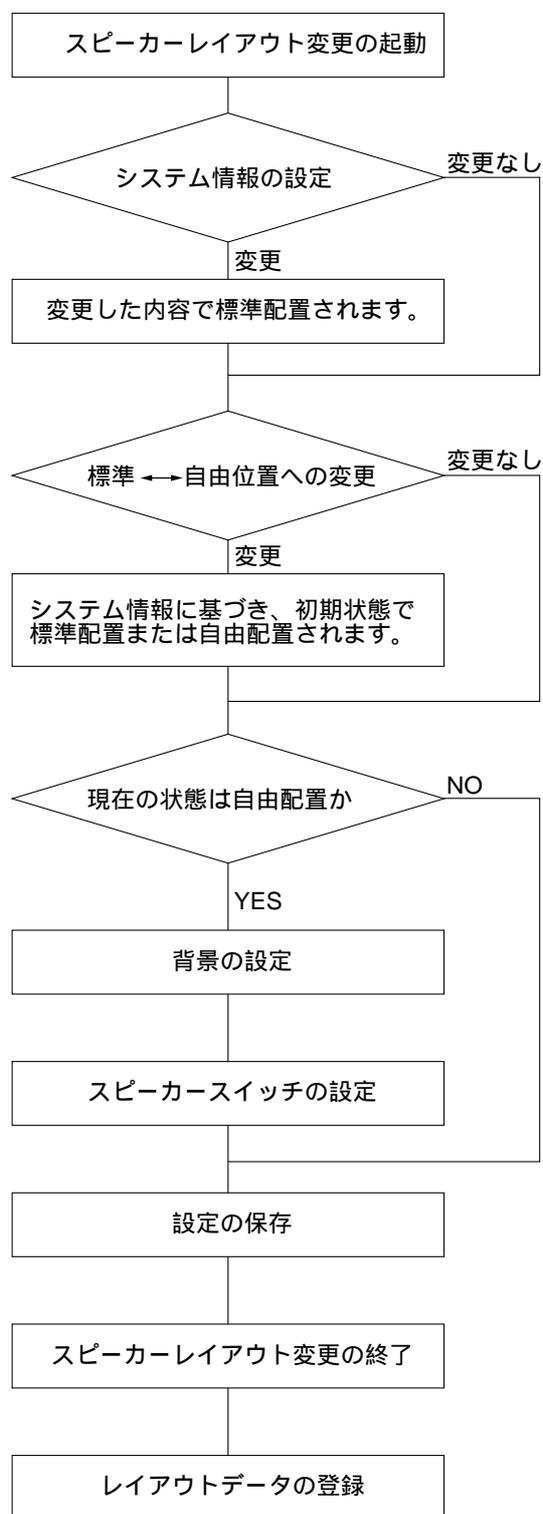
電源の確認

- ①主電源スイッチをONにしてヒューズが切れたりしないか確認します。
- ②テスターでAC電圧を確認してください。
- ③各機器の電源を、1つずつONにしてください。異常があれば、すぐに全ての電源をOFFにし、接続を再確認してください。



スピーカースイッチ配置のしかた

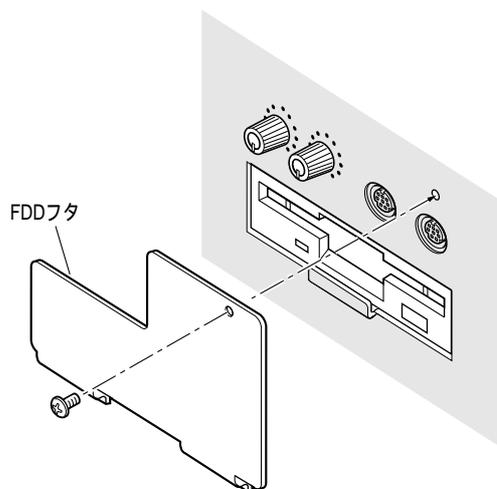
スピーカースイッチ配置のフローチャート



スピーカーレイアウト変更の起動

ご注意

マウスとキーボードを本機前面予備入力パネル部のそれぞれのコネクタに接続しておいてください。



- 1 主電源スイッチを入れます。
- 2 システムが起動すると、タッチパネル画面の表示がいったん消えます。表示が消えてから数秒後に、操作パネルの電源スイッチを入れてください。
- 3 マウスの右ボタンを押します。[小物]メニューの[スピーカーレイアウト変更]を選択します。
- 4 スピーカースイッチの「標準配置」ウインドウが開き、スピーカースイッチ配置が表示されます。(すでに設定されたものがあるときは、その配置が表示されます。)

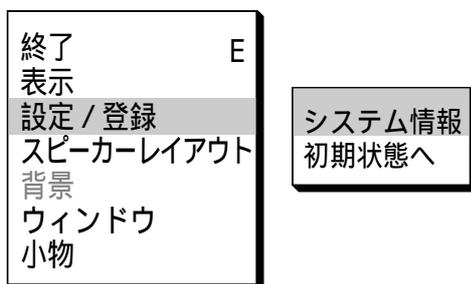
標準配置										
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A ₁₀	A-音
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B ₁₀	B-音
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C ₁₀	C-音
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D ₁₀	D-音
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E ₁₀	E-音
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F ₁₀	F-音
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G ₁₀	G-音

スピーカースイッチ配置のしかた

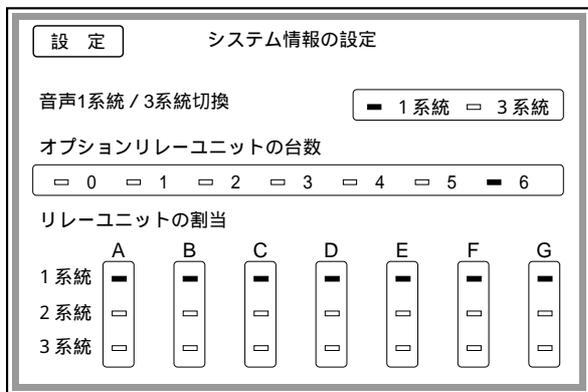
システム情報の設定

システム情報には音声放送1系統 / 3系統、リレーユニットの接続台数の設定があります。必ずシステムに合わせてください。

- 1 マウス右ボタンを押します。[設定/登録]メニューの[システム情報]を選択します。



次のようなパネルが開きます。



出荷時は上記の設定になっています。次回の起動時、設定した値が初期値として表示されます。

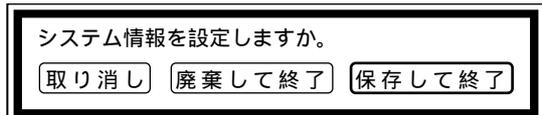
- 2 以下の項目を設定します。これらの項目は「AVステーションのディップスイッチの設定」と「オフラインモードのリレー接続先の設定」とを一致させる必要があります。

- 音声1系統 / 3系統切り換え
- オプションリレーユニットの台数
- リレーユニットの割当 (1系統のときは設定できません)
選択するとインジケータが点灯します。

- 3 以上の設定が終わったら[設定]をクリックします。



次のようなパネルが開きます。どれかを選択してください。



- 取り消し : 確認パネルを閉じ、システム情報の設定に戻ります。
- 廃棄して終了 : 今回の設定を無効にしてシステム情報の設定を終了します。
- 保存して終了 : 今回の設定を保存してシステム情報の設定を終了します。

- 4 [保存して終了]の場合、設定した内容によって標準配置されます。

例：1系統でオプションリレーユニットの台数を3に設定した場合

標準配置										
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	A-音
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-音
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	C-音
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	D-音

ご注意

既に自由配置で設定されたものがある場合、その内容は削除され上記のようになります。

標準↔自由配置への変更

音声放送[どこへ]の[えらぶ]選択時に表示するウィンドウの画面を変更できます。

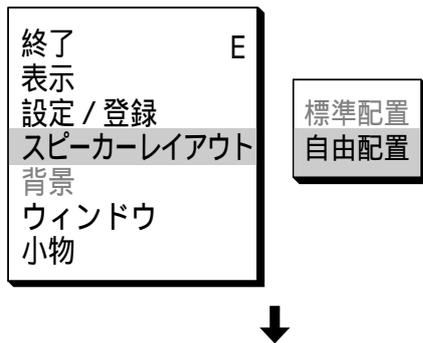
[標準配置]と[自由配置]があります。

- [標準配置]ではスピーカースイッチが行と列に整然と並びます。
- [自由配置]では建物内の実際の配置に合わせたスピーカー配置で表示することができます。またあらかじめ作成した背景図形を貼り込めば、より実際に近いレイアウトにすることができます。これらのレイアウトについては導入する学校などの要望を聞いて決めてください。

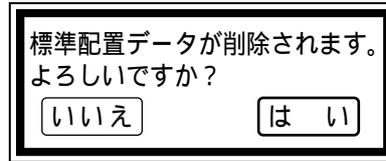
標準配置から自由配置へ変更の場合

現在の状態が標準配置で自由配置に変更する場合、以下の操作を行ってください。

- 1 [スピーカーレイアウト]メニューの[自由配置]を選択します。



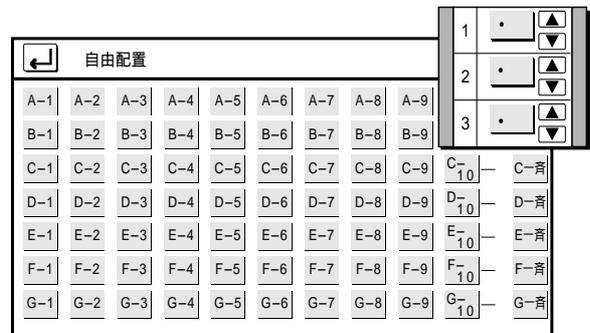
既に標準配置で設定されたものを起動しているときは次のような確認パネルが開きますのでどちらかを選択してください。



- はい : 標準配置のデータを削除し、確認パネルを閉じ、自由配置の表示を行います。
- いいえ : 何もせずに確認パネルを閉じます。

- 2 [はい]を選択した場合、「標準配置」ウィンドウが消え、「自由配置」ウィンドウ（下図のような2つのウィンドウ）が表示されます。

- スイッチの配置を表示するウィンドウが「自由配置」ウィンドウとして表示されます。
- スイッチを選択する「スイッチ選択」ウィンドウがサブウィンドウとして表示されます。
- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。



システム情報設定で1系統が設定されているとき「スイッチ選択」ウィンドウの2、3は動作しません。

スピーカースイッチ配置のしかた

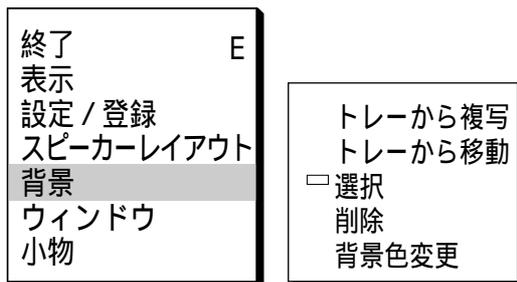
3 背景の設定をします。

背景の作成

自由配置で使用する背景は、基本エディタの「基本図形編集」で作成した図形を使用します。図形の作り方は、電子マニュアルの「自由配置の背景の作り方」や「基本図形編集」をご覧ください。(P78)

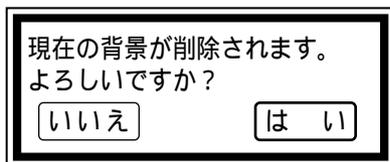
ただし、背景図形のデータサイズが64Kバイトを超える場合はイメージデータのみのみが可能です。

基本エディタで作成した背景を設定するには、背景の貼り込み、背景の移動、背景の削除などの操作により行います。



背景の貼り込み

作成した図形はドラッグもしくはトレー経由で自由配置のウィンドウに貼り込みます。ウィンドウの左上を原点とし、スイッチの図形の後ろに表示されます。既に背景がある場合、背景を貼り込むと削除確認パネルが表示されますので、いずれかを選択してください。



はい : 背景を削除し、確認パネルを閉じます。
いいえ : 何もせずに確認パネルを閉じます。

- データサイズが大きすぎたり、ウィンドウより大きな背景は貼り込むことができません。

背景の移動

背景の位置を変更したいときは、背景をウィンドウ内で移動させます。背景が設定されている状態で[背景]メニューの[選択]を選択すると、背景の矩形がちらつき枠で示されます。ちらつき枠内部で左ボタンを押しながらマウスをドラッグ移動します。

- ドラッグ移動中に自由配置ウィンドウの外で左ボタンをリリースするとドラッグ移動は無視されます。
- 背景が選択されている状態でちらつき枠外部で左ボタンをプレスすると選択状態は解除されます。
- 現在のウィンドウからはみ出した位置への移動はできません。

背景の削除

背景を削除したいときは、背景が選択されている状態で[背景]メニューの[削除]を選択します。

背景色の変更

背景色(背景の地の色)を設定する場合は[背景]メニューの[背景色変更]を選択します。色設定のパネルが表示されますので、設定する色と濃さをクリックにより選択し、[設定]をクリックします。



4 スピーカースイッチの設定

「自由配置」ウィンドウにスピーカースイッチを設定していきます。

「自由配置」ウィンドウ / 「スイッチ選択」ウィンドウの上にスピーカースイッチをドラッグにより移動 / 貼り込みします。「自由配置」ウィンドウ上の未使用及び一時待避するスピーカースイッチは先に削除しておくが便利です。

(参考) スピーカースイッチは系統ごとに色分けされています。

スイッチの削除：

「自由配置」ウィンドウ上のスイッチ選択後、キーボードの[Delete]を押してそのスイッチを削除します。削除されたスイッチは自動的に「スイッチ選択」ウィンドウ内に移動されます。3系統のときはスイッチのアドレスにより自動的に1から3系統を認識します。

スイッチの選択：

「自由配置」ウィンドウまたは「スイッチ選択」ウィンドウ上のスイッチをクリックすることでそのスイッチを選択します。

スイッチの移動：

「自由配置」ウィンドウ上のスイッチをドラッグで移動し、「自由配置」ウィンドウ上でリリースする事で移動が確定します。現在の「自由配置」ウィンドウからはみ出した位置への移動はできません。

スイッチ貼り込み：

「スイッチ選択」ウィンドウ上の三角形をクリックするたびにスイッチのアドレスがアップ / ダウンしますので貼り込みたいアドレスに設定します。そのウィンドウ上のスイッチをドラッグで移動し、「自由配置」ウィンドウ上でリリースする事で貼り込みが確定します。使用するアドレスが全て「自由配置」ウィンドウ上にある場合は、貼り込みはできません。

格子点拘束

[表示]メニューの[格子点拘束]を選択すると、以降のスピーカースイッチの配置を格子点で拘束することができます。編集するものを整然と配置することができます。自由配置の編集集中のみ有効で、4ドット間隔の格子点です。

5 「自由配置」ウィンドウをスピーカースイッチ数に応じた見やすいウィンドウサイズに変更します。ウィンドウ右下部分をドラッグして、ウィンドウサイズを変更してください。

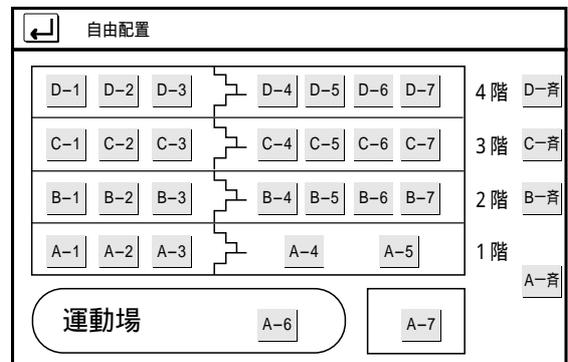
このとき変更可能な範囲は以下の通りです。

最大：横幅：画面サイズ

縦幅：画面サイズの上から5/6位まで

最小：スピーカースイッチがはみ出さないサイズ。横幅は標準配置でスイッチ約4個分以下にはなりません。

- 自由配置の例を示します。



ご注意

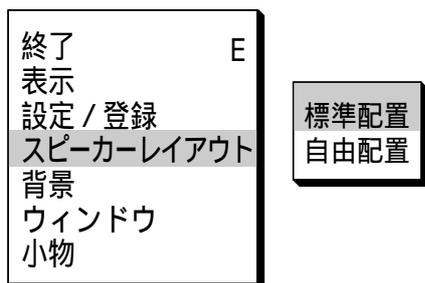
- スwitchの移動 / 貼り込みで、スイッチが重なってしまうことはできません。
- スwitchの設定後、背景を貼り込むと、1番下に貼り込まれます。

スピーカースイッチ配置のしかた

自由配置から標準配置へ変更の場合

現在の状態が自由配置で標準配置に変更する場合以下の操作を行ってください。

1 [スピーカーレイアウト]メニューの[標準配置]を選択します。



既に自由配置で設定されたものを、再び起動しているときは確認パネルが表示されますのでどちらかを選択してください。



はい : 自由配置のデータを削除し、確認パネルを閉じ、標準配置の表示を行います。

いいえ : 何もせずに確認パネルを閉じます。

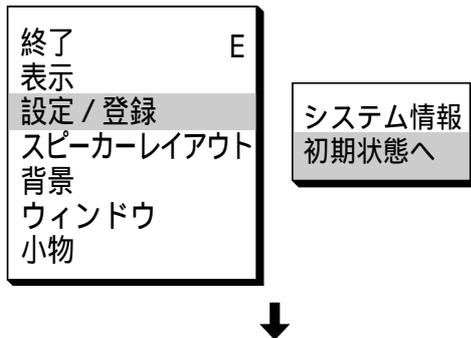
2 「はい」を選択した場合、「自由配置」ウィンドウが消え、「標準配置」ウィンドウが表示されます。ウィンドウにマトリクス状の配置で表示されます。

- リレーユニットの接続台数によって表示状態が変化します。

A screenshot of the '標準配置 (Standard Configuration)' window. It shows a grid of 10 columns and 7 rows of speaker switch labels. The columns are labeled A-1 through A-10, B-1 through B-10, C-1 through C-10, D-1 through D-10, E-1 through E-10, F-1 through F-10, and G-1 through G-10. Each label is in a small box. The title bar says '標準配置'.

初期状態へ戻るとき

- 1 [設定 / 登録]メニューの[初期状態へ]を選択します。

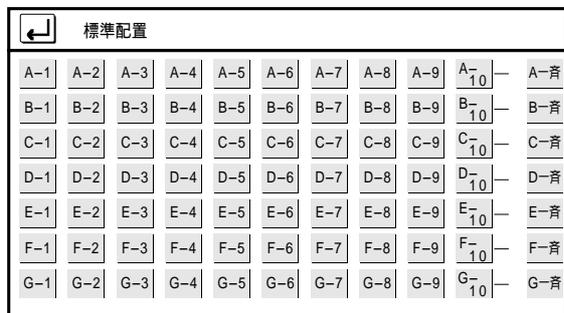


次のようなパネルが開きます。



- はい : 配置のデータを削除し、確認パネルを閉じ、出荷状態の表示を行います。
 いいえ : 何もせずに確認パネルを閉じます。

- 2 [はい]を選択した場合、「標準配置」ウィンドウが出荷状態で表示されます。



レイアウト変更の終了

設定を終える場合は、「自由配置」または「標準配置」ウィンドウ内の[↩]をクリックします。



システム情報、自由または標準配置、背景色に変更があれば、保存確認パネルを表示しますので選択してください。



- 取り消し : 確認パネルを閉じ、自由配置または標準配置の設定に戻ります。
 廃棄して終了 : 今回の設定を無効にして自由配置または標準配置の設定を終了します。
 保存して終了 : 今回の設定を保存にして自由配置または標準配置の設定を終了します。

保存したデータは、主電源を入れ直すとシステムに反映されます。主電源スイッチを切り、5秒程度待って入れ直してください。

ご注意

スピーカーレイアウト変更の操作中は、電源スイッチや音声 / 映像パターンスイッチなどのタッチパネル画面（マウス、キーボード）以外の操作は行わないでください。
 (誤動作を起こす可能性があります。)

スイッチの名前の変更・環境設定

クラス換え等でスピーカースwitchの名前の変更や入れ換えをしたいときに使用します。
次のSwitchの名前を変更できます。

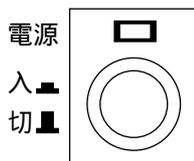
- スピーカースwitch
- 音声 / 映像 拡張パターンSwitch
- 音声 / 映像 予備入力

ご注意

- キーボードを接続する必要があります。
- 本画面の操作中は、以降の説明で指示された場合を除き、タッチパネル以外（電源Switchや音声 / 映像パターンSwitchなど）は操作しないでください。
(誤動作を起こす可能性があります。)

スピーカースwitchの名称変更状態の入りかた

1 主電源Switchが「入」ならSwitchを押し「切」状態にする。

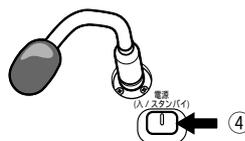


2 予備入力パネルにキーボードを接続し操作可能な状態にする。

キーボード接続については、P49を参照してください。

3 主電源Switchを入れ、システムを起動する。
起動すると、タッチパネルの画面がいったん消えます。

4 ①登録Switchを押す。登録SwitchのLEDが点灯したら②スタジオ連絡Switch ③ラストワンメモリースwitch ④電源Switchの順に押す。登録SwitchのLEDが点灯しない場合は、再度登録Switchを押してください(スタジオ連絡、ラストワンメモリースwitchは押しても点灯しません)



「名称変更・環境設定」画面が表示されます。
(スピーカー表示の数はオプションのリレーユニットによって変化します。またレイアウトによって既に設定された物がある場合はその配置で表示されます。)

名称変更・環境設定											とじる
A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	A-10	A-音	
B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-音	
C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	C-7	C-8	C-9	C-10	C-音	
D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	D-7	D-8	D-9	D-10	D-音	
E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	E-音	
F-1	F-2	F-3	F-4	F-5	F-6	F-7	F-8	F-9	F-10	F-音	
G-1	G-2	G-3	G-4	G-5	G-6	G-7	G-8	G-9	G-10	G-音	

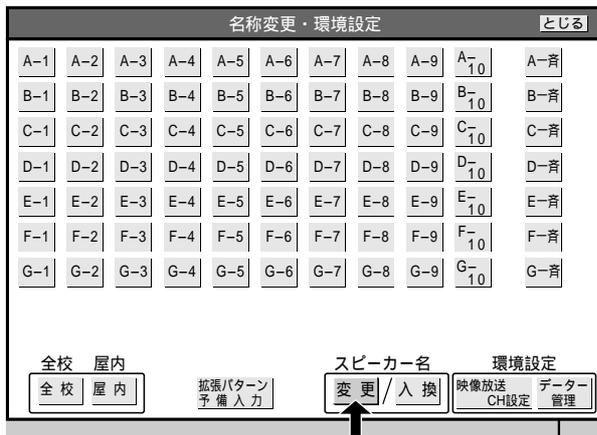
全校	屋内	拡張パターン	スピーカー名	環境設定
全校	屋内	予備入力	変更 / 入換	映像放送 CH設定
				データ管理

この画面では以下のことが行えます。

- 名前変更：全角1～6文字までの範囲で名前が変更できます。
- 名前入れ換え：指定した2箇所の名前を入れ換えます。
- 拡張パターン予備入力：拡張パターンSwitchと予備入力の名前を変更できます。
- 映像放送CH設定：映像放送チャンネル表示の設定ができます。
- データ管理：各種データのバックアップ・復元・初期化を行うことができます。

スピーカースイッチの名称変更のしかた

1 [変更] 表示が緑色になっていない場合は [変更] を指で押し緑にします。次に名前を変更したいスイッチを指で押します。



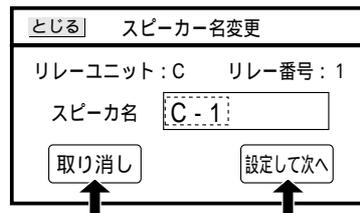
押下したスピーカースイッチが緑色に変わり、「スピーカースイッチ」パネルが表示され名前変更状態になります。



2 キーボードを使って文字を入力する。

- ・ 全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力することができます。
- ・ 全角文字で3または6文字全て入力しないときは、スペースキーで文字の位置を調整します。

3 文字入力後、内容を確認して「スピーカースイッチ」パネルの [設定して次へ] または [取り消し] を押す。



- ・ [設定して次へ] を押すと、自動的に入力した名前を登録し、次の放送場所の名前入力状態になります。

移動方向

[A-1] [A-2] … [A-8] [B-1]…

- ・ [取り消し] を押すと現在入力中の名前を元に戻して、名前入力状態を継続します。

4 1～3を繰り返して次々に入力する。

5 変更が終了したら、「スピーカースイッチ」パネルの [とじる] を押す。

現在入力中の名前を元に戻して、名前入力状態を終了します。

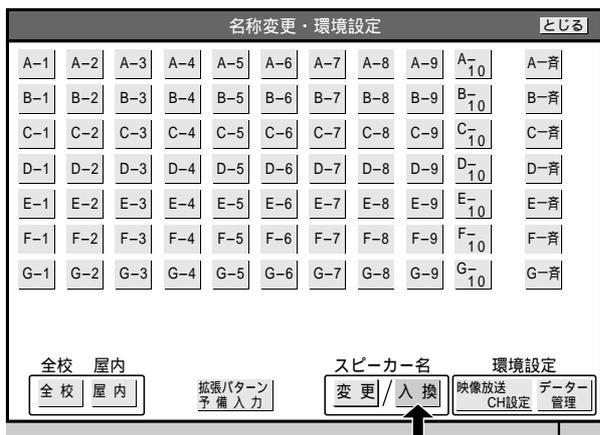
ご注意

- ・ 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。
- ・ かなを直接入力することはできません。
- ・ 文字は全て全角です。半角は入力できません。
- ・ 文字入力の詳細については、電子マニュアル（P78参照）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

スイッチの名前の変更・環境設定

スピーカースイッチの名前を入れ換えるときの操作のしかた

- ① [入換] を指で押し緑色にする。
- ② 名前の入れ換え元と③入れ換え先の場所を指で押します。



押下したスピーカースイッチが緑に変わり、「スピーカー名入れ換え」パネルが表示され名前入れ換え状態になります。

スピーカー名入れ換え

入れ換え元

入れ換え先

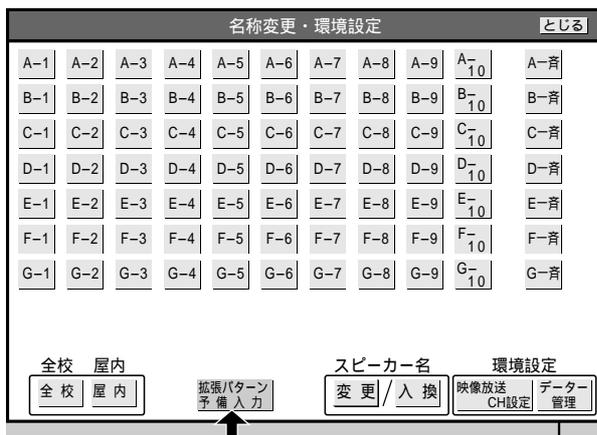
- 2 内容を確認してパネルの [設定] または [取り消し] を押します。

- ・ [設定] を押すと、入れ換え元と入れ換え先が入れ換わり、「スピーカー名入れ換え」パネルが消えます。そして次の放送場所の入れ換え状態になります。
- ・ [取り消し] を押すと入れ換えられずに、「スピーカー名入れ換え」パネルが消えます。そして次のスピーカースイッチの入れ換え状態になります。

- 3 継続して行う場合は1～2を繰り返します。

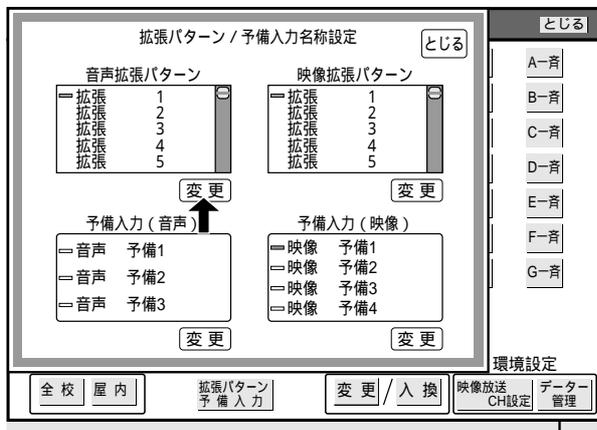
拡張パターン・予備入力機器の名称変更操作のしかた

- 1 「名称変更・環境設定」画面で [拡張パターン予備入力] を指で押します。



「拡張パターン/予備入力名称設定」パネルが表示されます。

- 2 「音声拡張パターン」欄には、現在設定されている音声拡張パターンの名称が一覧表示されます。名称変更したいパターンを選択して、[変更] をクリックします。変更したい名称が表示されていない場合は、スクロールバーを操作して表示させてください。

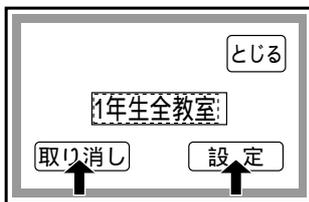


名称入力パネルが表示されます。

3 新しい名称をキーボードから入力します。

- 全角文字で6文字（1行3文字で2行）まで入力する事ができます。
- 全角文字で3または6文字全て入力しない時は、スペースキーで文字の位置を調整します。

4 名称入力後、内容を確認して[設定]または[取り消し]をクリックします。



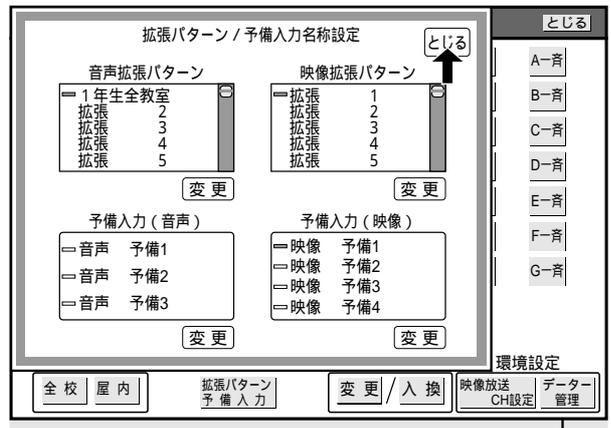
- [設定]をクリックすると自動的に入力した名称を登録し、次のパターンの名称入力状態になります。
- [取り消し]をクリックすると現在入力中の名称を元に戻して、名称入力状態を継続します。

5 3～4を繰り返して次々に入力します。

6 変更が終了したら[とじる]をクリックします。名称入力状態を終了します。その時入力の名称は、元の名称に戻ります。

7 1～6と同様の操作を行い、拡張映像パターン・予備入力（音声）・予備入力（映像）のうち必要なものの名称変更を順次行います。

8 全ての名称変更が終了したら、「拡張パターン/予備入力名称設定」パネルの[とじる]をクリックします。



「名称変更・環境設定」画面に戻ります。

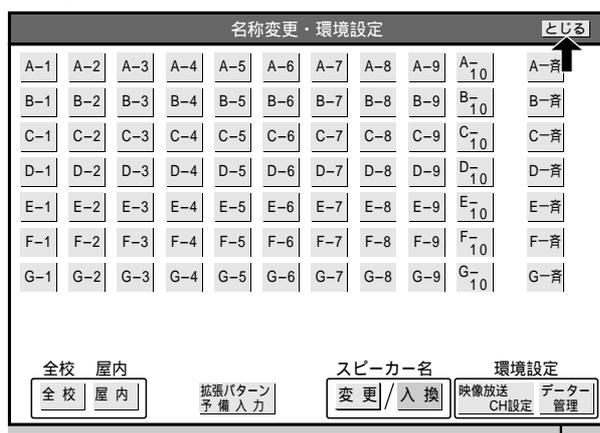
ご注意

- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。
- かなを直接入力することはできません。
- 文字は全て全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル（P78参照）の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

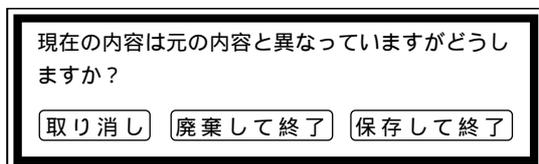
スイッチの名前の変更・環境設定

名称変更・入れ換え状態の終了のしかた

1 「スピーカー名称変更・環境設定」画面でパネルが表示されていないときに、[とじる]を押します。



内容に変更があれば、保存確認パネルを表示しますので選択してください。

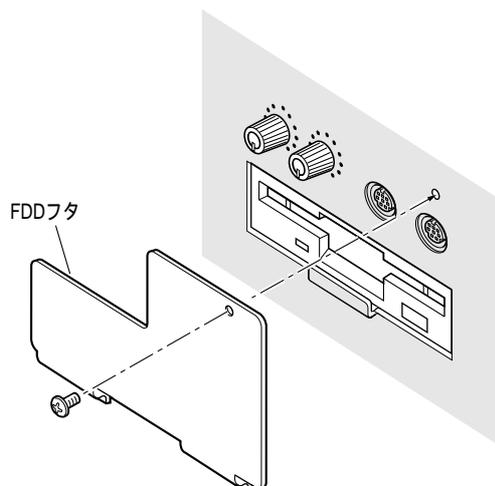


取り消し：確認パネルを閉じ、「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻ります。

廃棄して終了：今回の設定を無効にして「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

保存して終了：今回の設定を保存して「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

2 キーボードを外しネジ1本でFDDフタを取り付けます。



ご注意

内容を変更したら必ず「スピーカー名称変更・環境設定」画面の[とじる]を押して終了してください。電源スイッチを切る等、[とじる]を押さずに終了すると、変更内容をバックアップすることはできません。また、この状態で、主電源スイッチを切ると変更内容は破棄されます。

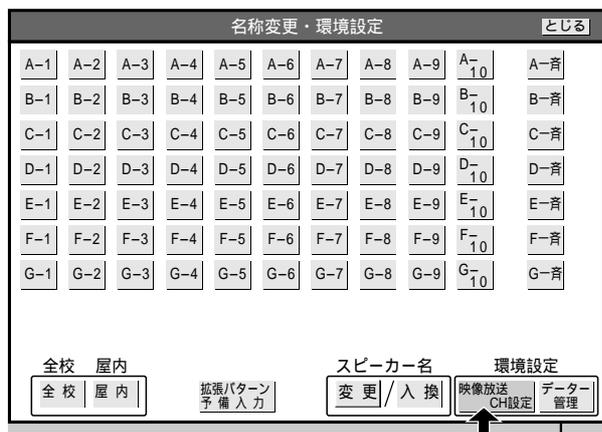
映像放送CH設定の変更のしかた

映像放送CH設定状態の入りかた

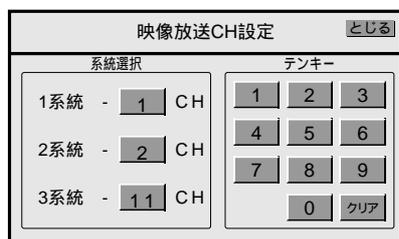
注：本設定では画面に表示されているチャンネルの設定のみを行います。実際の放送チャンネルはヘッドエンド側で設定します。

1 スピーカースイッチの名称変更状態の入りかた (P54) の1~4の順序を行い「スピーカ名称変更・環境設定」画面を表示します。

2 「映像放送CH設定」を指で押します。



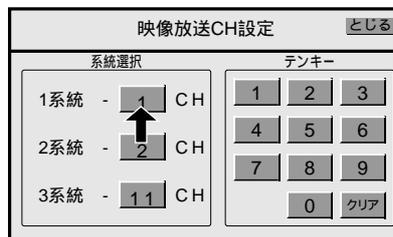
「映像放送CH設定」パネルが表示されます。



映像放送チャンネル設定・変更

映像放送画面で、「どこへ」欄のch番号(1、2、3と設定されている。)を変えることができます。ヘッドエンドのch番号に合わせるなどにご利用します。

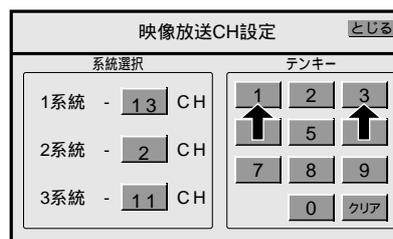
1 1系統 - [1] CHを指で押します。



緑に変わります。

2 テンキーでch番号(2桁)を設定します。

・1桁のch番号は最初の桁を0とします。
(例) 13chに設定するとき。



2桁入力すると入力した番号に画面のCH表示が変わります。

3 2系統 - [2] CHを指で押す。
緑に変わります。

4 テンキーでch番号(2桁)を設定します。(2と同じ)

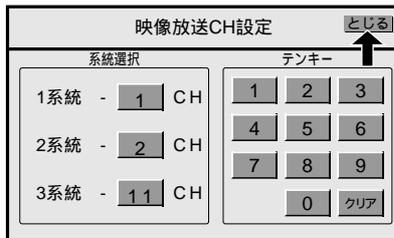
5 3系統 - [3] CHを指で押します。
緑に変わります。

6 テンキーでch番号(2桁)を設定します。(2と同じ)

映像放送CH設定の変更のしかた

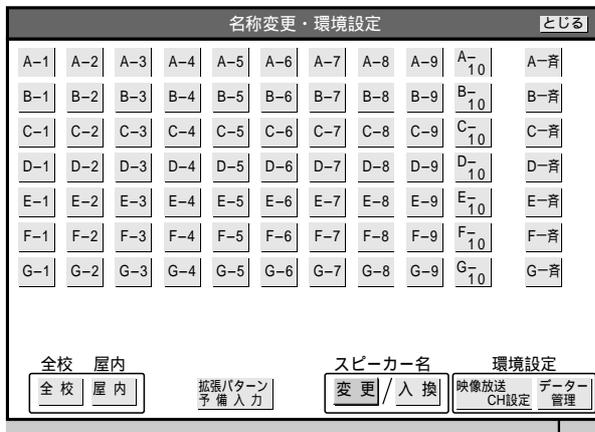
映像放送CH設定状態の終了のしかた

- 1 [とじる]を指で押します。



「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻ります。

- 2 「スピーカー名称変更・環境設定」画面の[とじる]を指で押します。



「スピーカー名称変更・環境設定」画面を終了し「音声映像放送」画面に戻ります。

データ管理のしかた

各種データのバックアップ、復元、初期化を行います。

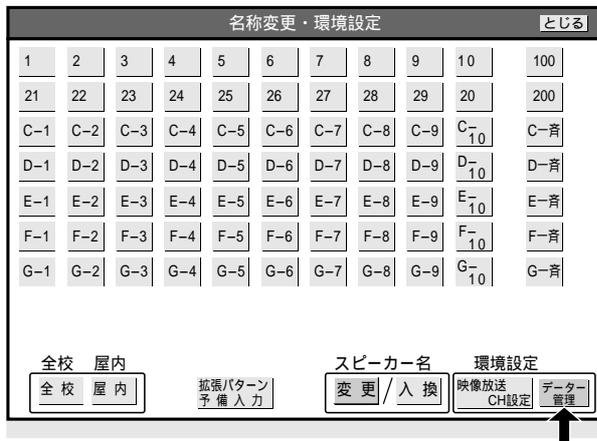
ご注意

キーボードが必要です。キーボードの接続のしかたは、P47を参照してください。

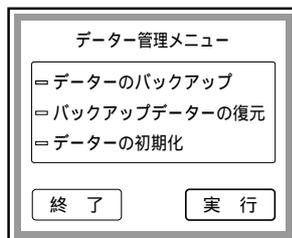
データ管理メニューの出ししかた

1 スピーカースイッチの名称変更状態の入りかた (P54) の1~4の手順を行い、「スピーカー名称変更・環境設定」画面を表示させます。

2 [データ管理]を指で押します。



「データ管理メニュー」パネルが表示されます。



ご注意

データ管理メニューを表示して操作するときは、説明中に指示されているボタンまたはスイッチ以外操作しないでください (誤動作の原因となります)。

データのバックアップ

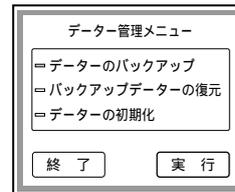
下記のデータを、フロッピーディスクにバックアップすることができます。

- ・ 音声 / 映像拡張パターンデータの設定内容 / 名称
- ・ スピーカースイッチの名称 (全校・屋内含む)
- ・ スピーカースイッチの配置 (背景データを含む)
- ・ 外部入力機器の名称

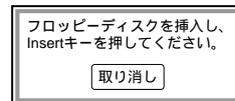
ご注意

- ・ 音声 / 映像の標準パターンに登録されたデータは、バックアップできません。
- ・ 3.5インチ2HDタイプのフロッピーディスクが1枚必要です。あらかじめ、ご用意ください。

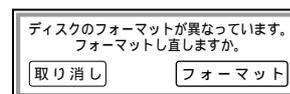
1 「データ管理メニュー」パネルで[データのバックアップ]を選択して[実行]を押します。



2 ディスク挿入のパネルが表示されるので、フロッピーディスクを挿入します。挿入したら、キーボードの[Insert]を押します。



未フォーマットのフロッピーディスクや、MS-DOS*¹やWindows*²でフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、下記のようなパネルが表示されます。



(パネルの表示内容は、ディスクの状態により異なる場合があります。)

フォーマットしてもよい場合は、[フォーマット]を押してください。

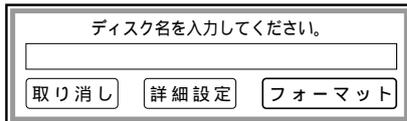
データ管理のしかた

フォーマットしたくない場合は、[取り消し]を押してください。データのバックアップが中止されます。

*1 MS-DOSは、米国Microsoft社の登録商標です。

*2 Windowsは、米国Microsoft社の商標です。

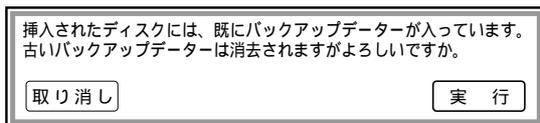
[フォーマット]を押した場合は、更に次のようなパネルが表示されます。



キーボードから適当なディスク名を入力し、[フォーマット]を押してください。

[取り消し]を押せば、データのバックアップを中止します。

また、以前バックアップに使用したことのあるディスクを挿入した場合は、次のようなパネルが表示されます。



古いバックアップデータを消去してもよい場合は、[実行]を押してください。

消去したくない場合は、[取り消し]を押してください。バックアップを中止します。

3 バックアップが完了すると、ディスクを取り出す旨のメッセージが画面下方に表示されるので、指示に従ってディスクを取り出します。

4 「スピーカー名称変更・環境設定」画面に戻るので、[とじる]を押します。

「音声放送」画面に戻ります。

ご注意

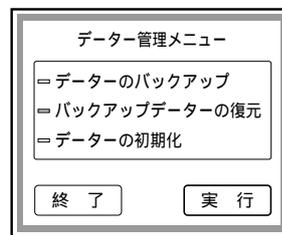
- 本機の文字入力は、ローマ字かな変換方式です。かなを直接入力することはできません。
- 文字は全て全角です。半角は入力できません。
- 文字入力の詳細については、電子マニュアル(P78参照)の「システムの使い方：システムの予備知識：文字を入力する」をご覧ください。

バックアップデータの復元

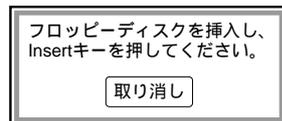
下記のデータを、フロッピーディスクから復元することができます。

- 音声 / 映像拡張パターンデータの設定内容 / 名称
- スピーカースイッチの名称 (全校・屋内含む)
- スピーカースイッチの配置 (背景データを含む)
- 外部入力機器の名称

1 「データ管理メニュー」パネルで[バックアップデータの復元]を選択して[実行]を押します。



2 ディスク挿入のパネルが表示されるので、バックアップデータの入ったフロッピーディスクを挿入し、キーボードの[Insert]を押します。



未フォーマットのフロッピーディスクや、MS-DOSやWindowsでフォーマットされたフロッピーディスクを挿入した場合は、フォーマット確認のパネルが表示されますので[取り消し]を押してパネルを一度閉じ、ディスクを確認してもう一度手順1から操作をやり直してください。

3 復元が完了すると、ディスクを取り出す旨のメッセージが画面下方に表示されるので、指示に従ってディスクを取り出します。

4 画面の指示に従い、主電源スイッチを切ってください。

データの初期化

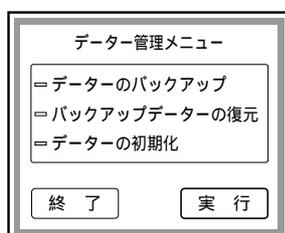
下記のデータを、工場出荷状態に戻します。

- ・音声 / 映像拡張パターンデータの設定内容 / 名称
- ・音声 / 映像拡張パターンデータの一部（残りのデータは、制御部の初期化で初期化されます。）
- ・スピーカースイッチの名称（全校・屋内含む）
- ・スピーカースイッチの配置（背景データを含む）
- ・外部入力機器の名称
- ・ラストワンメモリーの設定内容

ご注意

- ・データの初期化を行うと、変更していた各種データは消去されます。
消去されたデータを復元する必要がある場合は、必ず事前にバックアップを行ってください。音声・映像標準パターンデータ及びラストワンメモリーは、バックアップを行っても復元できませんのでご注意ください。
- ・本初期化の操作を行った後は、必ず制御部の初期化(次ページ⑩～⑯)を行ってください。いずれか片方だけの初期化しか行われていないと、一部のデータが初期化されない場合があります。

- 1** 「データ管理メニュー」パネルで[データの初期化]を選択して[実行]を押します。



- 2** 確認のためパネルが表示されます。
内容を確認し、初期化してもよければ、[初期化]を押します。[取り消し]を押すと初期化操作を中止できます。

- 3** データの初期化完了後は、引き続き制御部の初期化を行なう必要があります。

画面に初期化完了のパネルが表示されたら主電源スイッチを切り、約5秒待って入れ直してください。起動後、引き続き制御部の初期化を行なってください。

- ・制御部の初期化の手順は、次ページの「初期化操作」⑩～⑯を参照してください。

設置時の調整

ディップスイッチ変更後の初期化

AVステーション端子部のディップスイッチを出荷状態から変更（P28）したら、次の操作を行い初期化を行ってください。

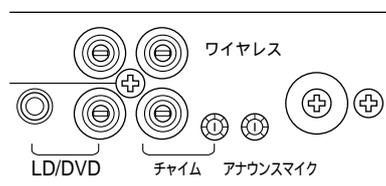
- ①主電源が切れている状態でディップスイッチの設定をします。
- ②主電源スイッチを入れます。
- ③セットアップ完了後、操作モニターにメッセージが表示され、操作部の電源が切れます。
- ④数秒間待ちます。その後、登録スイッチ スタジオ連絡スイッチ ラストワンメモリースwitchの順に押します。
登録スイッチを押したときにスイッチのLEDが点灯しなかった場合は、再度登録スイッチを押してください。
- ⑤操作用部の電源スイッチをONにします。
- ⑥「名称変更・環境設定」画面が開きます。
- ⑦[データ管理]を選択します。
- ⑧[データの初期化]を選択し、[実行]を押します。
- ⑨確認パネルの[初期化]を押します。以上でデータの初期化が終了します。
- ⑩データの初期化終了後、引き続き制御部の初期化を行います。
主電源スイッチを切り、約5秒間待って入れ直します。
- ⑪登録スイッチ スタジオ連絡スイッチ 一斉放送スイッチの順に押します。
- ⑫操作パネルのLEDがすべて点灯後、消灯します。
- ⑬パターンスイッチが順番に点灯し、少し待つとすべてのパターンスイッチが消灯したままになります。（初期化完了）
- ⑭主電源スイッチを切り、約5秒間待って入れ直します。
- ⑮セットアップ完了後、数秒間待って操作パネルの電源スイッチを入れます。
- ⑯取扱説明書を参照して、音声パターンと映像パターンの各7個のスイッチの内容を確認してください。操作画面が説明書通りになっていれば完了です。

ご注意

- ・この初期化操作を行なわないと、取扱説明書と操作画面の内容が合わなくなりますので必ず実施してください。（ディップスイッチの変更は、P28参照）
- ・増設時などに既設のディップスイッチを変更し、本初期化を行なう場合、音声・映像パターンで設定している内容は全て消去されますので再設定してください。

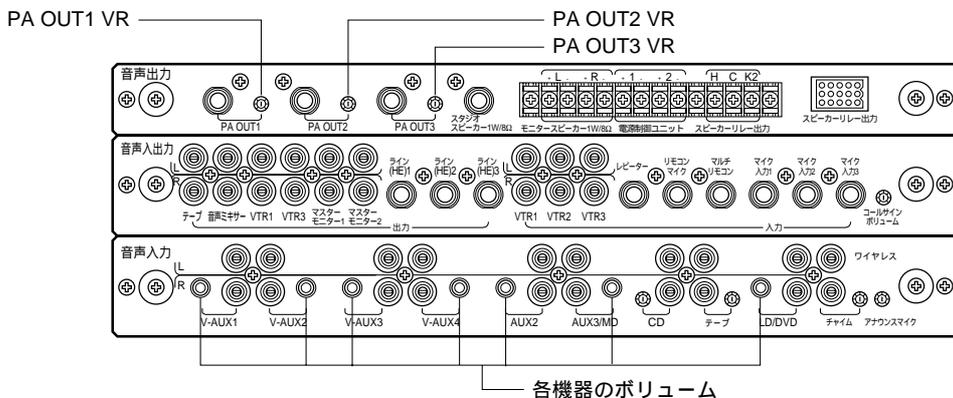
チャイム放送の音量調整

AVステーション端子部にある音量調整器で調整してください。（出荷時は定格レベルにセットしてあります。）



音声入出力の音量プリセット調整

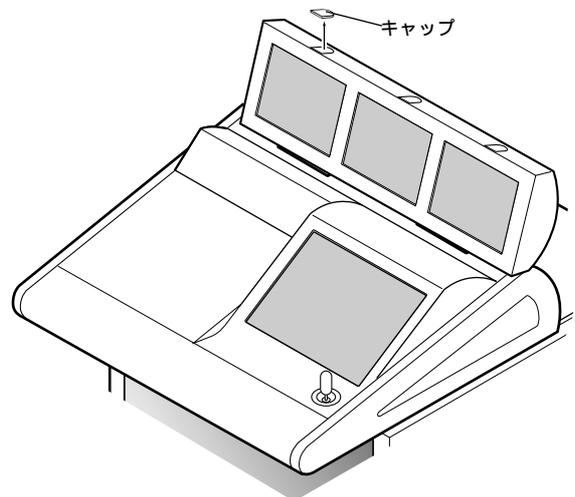
- ①主電源スイッチを切ります。
- ②ケーブルカバーをはずします。(P15を参照)
- ③主電源スイッチを入れて、システムを立ち上げます。
- ④操作部の電源スイッチを入れます。
- ⑤音声放送1系統の[なにを]を押します。
「なにを」選択画面が開きます。
- ⑥[マイク]を選んで、[とじる]を押します。
- ⑦同じく1系統の「どこへ」欄で[全校]を選び、放送をONにします。
- ⑧アナウンスマイクから話して、その音を聞きながらAVステーション端子部の音声入力にあるPA OUT1 VRをまわし、教室スピーカーへの出力音量を調整します。(3系統のときは、同様にPA OUT2 VR、PA OUT3 VRも調整します。出荷時は定格出力にセットしてあります。)
- ⑨音声放送1系統の[なにを]を押します。
「なにを」選択画面が開きます。
- ⑩「音声ミキサー」を選び、スライドボリュームを全て同じレベルにして、各機器の音声レベルをアナウンスマイクと比較します。レベルが合っていない場合は各機器のボリュームを調整します。(図参照)
- ⑪音声のAUX1～3は、設定を変更して確認します。(P69参照)



注：ツマミ付きのボリュームは入力感度調整用です

映像モニター1～3の明るさ調整

- ①映像モニター上部のキャップを外します。
- ②キャップの下にあるボリュームを回し、明るさを調整します。
- ③キャップを元に戻します。



動作の確認

動作の確認

- ①各ユニットの動作確認をします。
- ②下表を参考に映像放送を確認します。
- ③各種リモコン動作が正しく行われるか確認します。
- ④音声放送を確認します。

	項目	方法	チェック
映 像 放 送	一般映像出力	[放送]をONにしたとき、「なにを」で選択された映像がテレビの画面にそれぞれ映りますか。	
	モニター出力(モニター1~3、マスターモニター)	各モニターに選択した映像が映りますか。	
	映像ミキサー出力	「なにを」で、映像ミキサーを選択し、A、Bの入力映像を次々に切り換えるとその映像がマスターモニターに表示されますか。(取扱説明書P45以降を参照)	
	VTR 1、3録画	マスターモニターをVTR1(3)に設定し、VTR1(3)録画選択画面の映像を次々と切り換えたとき、切り換えた映像が録画されますか。	
音 声 放 送	アナウンスマイク放送	「なにを」でアナウンスマイクを選択し、「どこへ」で[全校]を選択して放送したとき、すべての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	他の音声放送	マイク1~3、テープレコーダーなどを放送したとき、全ての教室のスピーカーから音が聞こえますか。	
	モニター	[モニター]で[ミキサー]を選択し、アナウンスマイク等の音量を上げたときモニタースピーカーから音が聞こえますか。	
	録音	テープレコーダーを録音状態にして「録音」でミキサーを選択しアナウンスマイク等の音量を上げたとき、テープレコーダーのVUメーターが振れますか。	
	VTRへのアフレコ(録音)	録画画面でVTR 3の[アフレコ]を選択し、アナウンスマイク等の音量を上げたとき、VTR3のVUメーターが振れますか。	

スピーカーリレーの動作

(出荷時に次のように設定されています。)

リモコンマイク (WR-105、110) のブロック放送パターン

リモコンマイクの各スピーカー選択スイッチを押すと、表のリレーが動作します。(WR-105はブロック1~5まで。)

スピーカー選択 スイッチ	1系統	3系統
ブロック1	A-Gの1 がON	A-Gの1 がON
ブロック2	A-Gの2 がON	A-Gの2 がON
ブロック3	A-Gの3 がON	A-Gの3 がON
ブロック4	A-Gの4 がON	A-Gの4 がON
ブロック5	A-Gの5 がON	A-Gの5 がON
ブロック6	A-Gの6 がON	A-Gの6 がON
ブロック7	A-Gの7 がON	A-Gの7 がON
ブロック8	A-Gの8 がON	A-Gの8 がON
ブロック9	A-Gの9 がON	A-Gの9 がON
ブロック10	A-Gの10 がON	A-Gの10 がON

マルチリモコン (WR-300) のブロック放送パターン (8台とも共通)

スピーカー選択 スイッチ	1系統	3系統
ブロック1	A-Gの1 がON	A-Gの1 がON
ブロック2	A-Gの2 がON	A-Gの2 がON
ブロック3	A-Gの3 がON	A-Gの3 がON
ブロック4	A-Gの4 がON	A-Gの4 がON
ブロック5	A-Gの5 がON	A-Gの5 がON
ブロック6	A-Gの6 がON	A-Gの6 がON
ブロック7	A-Gの7 がON	A-Gの7 がON
ブロック8	A-Gの8 がON	A-Gの8 がON
ブロック9	A-Gの9 がON	A-Gの9 がON
ブロック10	A-Gの10 がON	A-Gの10 がON

チャイムのブロック放送パターン

各チャイムリモコン端子に信号を入力すると、表のリレーが動作します。

チャイムリモコン	1系統	3系統
端子NO1	A-Gの緊急リレーON	A、D、Gの 緊急リレーON
端子NO2	動作せず	B、Eの 緊急リレーON
端子NO3	動作せず	C、Fの 緊急リレーON

動作の確認

音声放送の全校と校内のリレー割当

音声放送	1系統	3系統
全校	リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-10=ON
校内	リレーユニットAB..GのNO.1-9=ON	リレーユニットAD..GのNO.1-9=ON
CH1	なし	リレーユニットB、EのNO.1-9=ON
CH2	なし	リレーユニットC、FのNO.1-9=ON
CH3	なし	

緊急放送のリレー割当

音声放送	1系統	3系統
緊急	リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON	リレーユニットAB..GのNO.1-11=ON

ご注意

上記の割当・設定の変更は本体のオフライン機能で行ないます。詳細は本説明書のP74以降を参照してください。

入力設定・変更

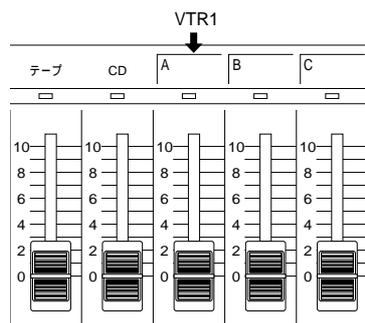
ラジオ・予備入力・レピーターなどを放送、録音するとき（音声ミキサーA、B、Cの入力の設定）

音声ミキサーの音量つまみA、B、Cは、次のように3入力の中から1つを選択することができます。

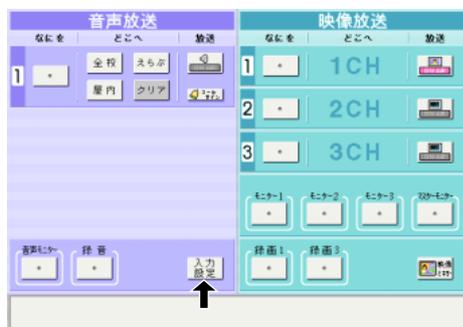
- A：VTR1、音声予備1、3 1の中から1つ選択。
- B：VTR2、ワイヤレス、音声予備2 1の中から1つ選択。
- C：VTR3、ラジオ、レピーターの中から1つ選択。

1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

（例）入力AをVTR1に設定します。



1 音声放送画面の [入力設定] を指で押します。



入力設定画面が表示されます。

2 [VTR1] (選択したいもの) を指で押します。



[VTR1] (選択したもの) が緑色に変わります。
・B、C入力も変更したい場合は、Aと同様に選択します。

3 [とじる] を指で押します。

音声、映像放送画面に戻ります。

ご注意

- ・この画面を用いて「音声A、B、C設定」を変更して、電源スイッチをOFFにすると、次の電源ONからその内容が反映されます。音声パターン(登録された内容)により変更された場合は一時的なもので上記の内容は保持されません。
- ・音声ミキサーA、Bに予備入力1~3を設定して使用する場合は、あらかじめ予備入力レベル調整つまみを回して正常な音量になるように調節してください。このとき、音声ミキサーのつまみA、Bは中央付近に設定してください。

入力設定・変更

音声ミキサーの設定

音声ミキサーの音量つまみを個別に有効または無効にできます。無効にすると、該当する音量つまみを操作しても音が出なくなります。

1 音声放送画面の [入力設定] を指で押します。



入力設定画面が表示されます。

2 音声ミキサーの動作させたい (動作させない : OFF) 入力を指で押します。



動作させるもの 緑 (ON) に設定。
動作させないもの 白 (OFF) に設定。
(ON に設定したものは、パネルの音声ミキサーのLEDがそれぞれ点灯します。)

3 設定が終わったら [とじる] を指で押します。



音声、映像放送画面に戻ります。

VTR2入力コネクタの切り換え

VTR2は、前面と後面に入力コネクタがあり、画面上で切り換えられます。

1 音声放送画面の [入力設定] を指で押します。



入力設定画面が表示されます。



2 [前面] または [後面] を指で押します。

3 設定が終了したら [とじる] を指で押します。



音声、映像放送画面に戻ります。

音声・映像パターン操作の内容変更

音声・映像パターン操作

本機は、予め放送や、録音、録画の操作を音声・映像37個（標準7個、拡張30個）のスイッチに登録しておき、パターンスイッチを押すと、その内容を読み出して動作します。出荷時は、標準パターン音声7つ・映像6つのパターンが登録されています。

内容変更・登録のしかた

新たに登録すると、前に登録されていた状態は消されます。

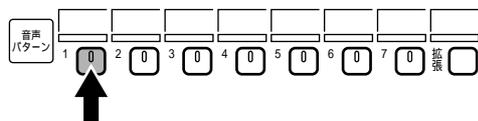
(例) 音声パターンスイッチ①(個別放送1)「アナウンスマイク」の音を個別指定されたスピーカーに放送する。これを「テープ」の音を「全校」のスピーカーに放送するように変更します。

1 操作パネルの電源スイッチを押します。



操作モニターに音声、映像放送画面が出ます。

2 音声パターンスイッチ①を押します。



音声放送画面が表示されます。
(ここまではパターン操作と同じです。)



3 必要な変更を行います。

ここでは「なにを：アナウンスマイク テープ」
「どこへ：個別 全校」の変更を行ないます。

① [なにを：アナウンスマイク] 表示を押します。
(変更したいものを選択します)

[なにを] 選択画面が表示されます。



② [テープ] を選択したのち [とじる] を指で押します。

③ [どこへ：全校] を指で押します。

[全校] が緑色に変わります。

音声・映像パターン操作の内容変更

4 パターンスイッチへ登録します。パターンスイッチへは、現在表示されている状態が登録されます。

①登録スイッチを押します。



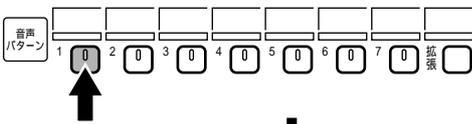
登録スイッチのLED点灯する。

②スタジオ連絡スイッチを押します。



(本来のスタジオ連絡機能は動作しません)

③標準パターンに登録する場合は音声パターンスイッチ①(登録したいパターンスイッチ)を押します。



スイッチのLEDが3秒間点滅します。

④LED点滅中に再び音声パターンスイッチ①を押します。

LED点滅が止まり、登録されます。

⑤拡張パターンに登録したい場合は、①、②の操作の後に音声パターン拡張スイッチを押します。音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。

⑥設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。登録するときは[設定]を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

5 音声放送でパターンスイッチを押したときに、コールサインを流したい場合。

①登録スイッチを押します。

②スタジオ連絡スイッチを押します。

③コールサインスイッチを押します。(本来のコールサイン機能は動作しません)

④音声パターンスイッチ①(登録したいパターンスイッチ)を押します。スイッチのLEDが3秒間点滅する。

⑤LED点滅中に再び音声パターンスイッチ①を押します。LED点滅が止まり、登録されます。

⑥拡張パターンに登録したい場合は、以下の通り操作してください。

1. 登録スイッチを押します。

2. スタジオ連絡スイッチを押します。

3. 音声パターン拡張スイッチを押します。

音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。

4. 30個のスイッチの左上部にある[コールサイン]ボタンを押して緑色にします。

5. 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。

登録するときは[設定]を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

6 確認するには、操作パネルの電源スイッチを切り、再び電源入りにして、音声パターンスイッチ①を押すと、登録した画面が表示されます。

新規設定登録のしかた

- 1 音声放送、映像放送、録画について、各項目の説明を参照しながら、必要な設定をしてください。
 - 音声パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている音声放送の状態が登録されません。
 - 映像パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている映像放送の状態が登録されません。
- 2 操作画面設定ができたなら、登録したいパターンスイッチについて、前項4、5、6の手順で登録してください。(前に登録されていた状態は消されます。)

ご注意

- 映像放送の [なにを] [モニター] [録画] のどこにも [映像ミキサー] が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。
(WL-AV200Aの場合)
- パターンの登録内容を変更した場合、取扱説明書の前半部分の内容と動作が変わります。利用者の方にご確認の上、内容変更を行なってください。また、取扱説明書の最後にある「パターン登録内容記述シート」などを利用し、利用者の方に設定内容・操作方法がわかるようにしてください。

入力設定内容について

音声・映像パターン登録時に、入力設定の音声ミキサーのA、B、C入力の設定を変更して登録した場合は、音声パターンごとにA、B、C入力の設定を変更することができます。またこのパターンスイッチを押すことにより、初期のA、B、C入力設定と変わることがありますので注意してください。

ご注意

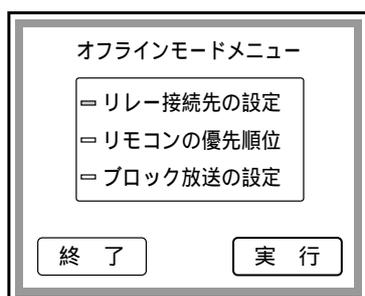
- [なにを]、[録音]、[モニター]のいずれかで[音声ミキサー]を選択してある場合に入力設定の[音声ミキサーボリューム有効/無効]と[音声A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。
- [録音]で[音声A、B、C]のどれかを選択してある場合には、対応する入力設定[A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。

オフライン機能

オフライン機能では、各リレーの音声放送系統との関連付け、リモコンブロックの優先順位の設定、及び各リモコンブロックで制御するリレーの設定が行なえます。

オフライン機能の立ち上げ

- ①主電源スイッチを入れ、システムを起動します。
起動するとタッチパネル画面の表示がいったん消えます。
 - ②操作パネルの登録スイッチを押します（LED点灯を確認）。
 - ③スタジオ連絡スイッチを押します。
 - ④コールサインスイッチを押します。
 - ⑤電源スイッチを押します。
- オフライン機能が立ち上がると、下図のようなパネルオフラインモードメニューが表示されます。



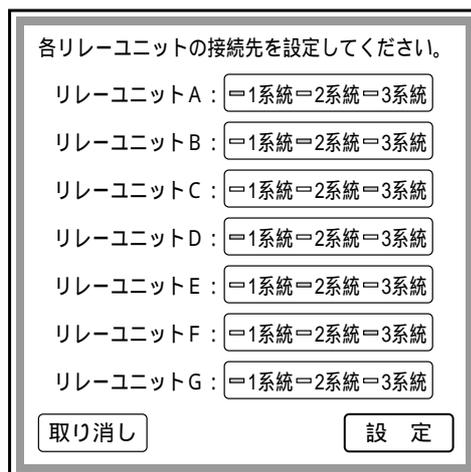
オフライン機能の終了

オフラインモードメニューパネルの[終了]を押すと、オフラインモードから抜けます。

リレー接続先の設定

本機では最大7までのリレーユニット(6台増設のとき、本体内容を含む)をシステムに接続することができますが、各リレーユニットが音声放送のどの系統に属するのかが設定します。

- ①オフラインモードメニューを表示させ、[リレー接続先の設定]を選択して[実行]を押します。
リレー接続先設定パネルが表示されます。



- ②各リレーユニットの接続先の系統を選択します。
リレーユニットAが本体内容のリレーユニット、B～Gが増設リレーユニットを示します。増設リレーユニットの項目は、増設した台数に応じて一部が操作不能となります。例えば3台増設を行なった場合は、リレーユニットE～Gの選択肢は表示がcaずれて設定できなくなります。また、音声系統が1系統に設定されている場合は、全て[1系統]が選択状態となり、他の選択肢はcaずれて選択できません。
- ③全てのリレーユニットの接続先を設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてオフラインモードメニューのパネルに戻ります。なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューのパネルに戻ります。

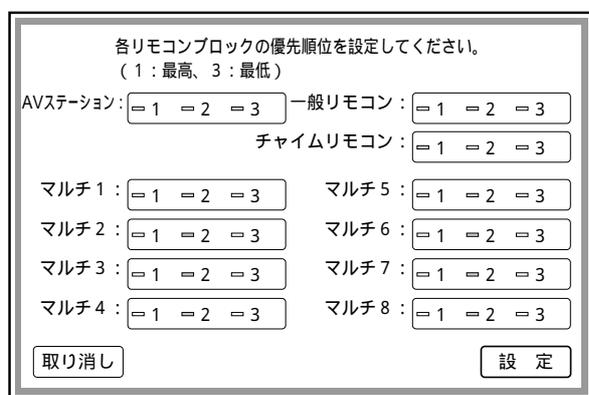
ご注意

工場出荷状態(初期化直後)の音声標準パターン1～3は、標準のリレー接続先設定を前提にした動作を行います。
このため、リレー接続先の設定を変更すると、これらのパターン動作内容が変わります。リレー接続先の設定に合わせて、音声パターンを再設定(P71)してください。

リモコンの優先順位の設定

各リモコンブロックの優先順位を設定します。優先順位は1～3の3種類あり、少ない数字に設定するほど優先して動作します。複数のブロックを同じ優先順位にすることも可能です。優先順位が同じに設定された場合、動作時は後押し優先となります。

- ①オフラインモードメニューを表示させ、[リモコンの優先順位]を選択して[実行]を押します。リモコン優先順位設定パネルが表示されます。



各リモコンブロックの優先順位を設定してください。
(1：最高、3：最低)

AVステーション： 一般リモコン：

チャイムリモコン：

マルチ1： マルチ5：

マルチ2： マルチ6：

マルチ3： マルチ7：

マルチ4： マルチ8：

- ②各リモコンブロックの優先順位を設定します。マルチ1～8は、接続されているマルチリモコンの数に応じて一部が操作できなくなります。例えば4台のマルチリモコンが接続されている場合、マルチ5～8の選択肢の表示がかすれて選択できなくなります。
- ③全てのリモコンブロックの優先順位を設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてオフラインモードメニューのパネルに戻ります。なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してオフラインモードメニューのパネルに戻ります。

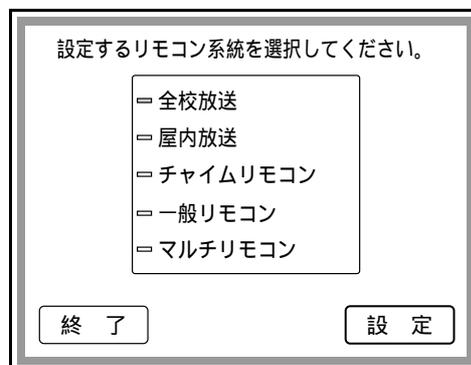
ご注意

チャイムリモコンの優先順位は、ディップスイッチの設定（P28参照）に影響されます。「チャイム優先放送カット」の場合：上記設定が有効になります。（通常はチャイムリモコンを最優先に設定します。）「等レベルミキシング」「チャイム優先・放送ダウン」の場合：音声はミキシングとなるため、AVステーションとチャイムリモコンの優先関係は無効となります。なお、P36「ご注意」も合わせてご確認ください。

ブロック放送の設定

各リモコン系統で制御するリレーを設定します。

- ①オフラインモードメニューを表示させ、[ブロック放送の設定]を選択して[実行]を押します。リモコン系統選択パネルが表示されます。



設定するリモコン系統を選択してください。

- 全校放送
- 屋内放送
- チャイムリモコン
- 一般リモコン
- マルチリモコン

- ②リレー設定するリモコン系統を選択し、[設定]を押します。

オフライン機能

リレー設定のパネルが表示されます。

リレーの設定を行ってください。

マルチリモコン番号:

ブロック番号:

ユニット	接続先	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	一斉
A	1系統	<input type="checkbox"/>										
B	1系統	<input type="checkbox"/>										
C	1系統	<input type="checkbox"/>										
D	1系統	<input type="checkbox"/>										
E	1系統	<input type="checkbox"/>										
F	1系統	<input type="checkbox"/>										
G	1系統	<input type="checkbox"/>										

一番上の[マルチリモコン番号]は、リモコン系統選択パネルで[マルチリモコン]が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はかすれて選択できません。また、[マルチリモコン]が選択された場合も、接続されているマルチリモコンの台数を越える選択肢はかすれて選択できません。

2番目の[ブロック番号]は、リモコン系統選択パネルで[一般リモコン]または[マルチリモコン]が選択されたときのみ選択可能です。その他の場合はかすれて選択できません。

以降のA~Gの行は各々のリレーユニットに対応しており、増設台数に応じて一部が操作できなくなります。例えば、リレーユニットが3台増設されている場合は、E~Gの各行のボタンがかすれて操作できなくなります。

- ③ マルチリモコンの設定を行なう場合は、マルチリモコン番号を選択します。
- ④ 一般リモコンまたはマルチリモコンの設定を行なう場合は、更にブロック番号を選択します。

⑤ 接続されているリレーユニットの個々のリレーについて、制御するかどうか設定します。ボタンが押されてインジケータが点灯している状態は、そのリレーを制御対象にすることを示します。インジケータが消灯の状態は、そのリレーを制御対象にしないことを示します。インジケータの点灯/消灯は、そのボタンを押す毎に切り換わります。

⑥ 全てのリレーを設定したら、[設定]を押します。設定内容が保存されてリモコン系統選択のパネルに戻ります。一般リモコンやマルチリモコンの場合は、[設定]を押さずにブロック番号やマルチリモコン番号を選択し直すことで、他のブロックや他のマルチリモコンに対する設定を一度に行なうこともできます。

なお、設定を取り消したい場合は、[取り消し]を押してください。設定内容を廃棄してリモコン系統選択のパネルに戻ります。

⑦ 続いて他のリモコン系統の設定を行なう場合は、次のリモコン系統を選択して[設定]を押します。リモコン系統の設定を終わる場合は、[終了]を押します。オフラインモードメニューのパネルに戻ります。

ご注意

オフライン機能の操作中は、電源スイッチや音声/映像パターンスイッチなどのタッチパネル画面以外の操作は行なわないでください。
(誤作動を起こす場合があります。)

故障の自己診断機能

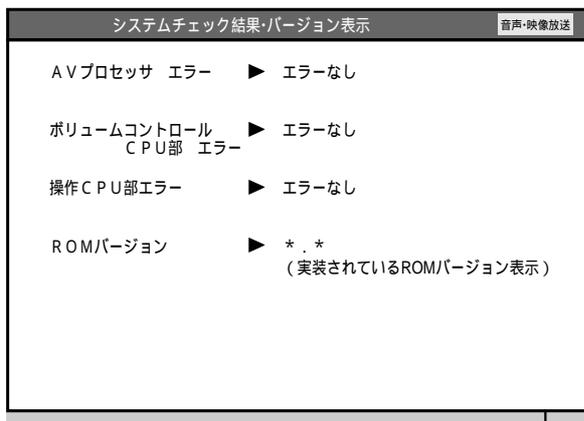
故障と思われる場合には、次の手順で自己診断を行ってください。

操作パネル電源スイッチOFF状態で、

- ①登録スイッチを押す。
- ②スタジオ連絡スイッチを押す。
- ③電源スイッチを押す。

操作モニターに次の画面が表示されます。エラーが表示された場合、症状とエラー内容を販売店にご連絡ください。

“EEPROM書換回数 = 1 * * * * ” というメッセージが表示されたら、ROMの書換寿命が近づいています。交換を依頼してください。寿命がくると、パターン設定の内容登録が消える場合があります。



[音声・映像放送]を押すと、音声標準パターン・映像標準パターンが一時的に初期化された状態でシステムが立ち上がります。登録した標準パターンの内容は一時無効となりますので、通常は使用しないでください。

電源を入れ直すと、登録されたパターン設定の内容に戻ります。

- ④表示内容を確認したら、再び電源スイッチを押して、電源を切ります。

なお、一斉放送スイッチを押しながら主電源スイッチを入れると、操作部の自己診断ができます。LEDの付いたボタンを押すと、押している間だけLEDが点灯します。

音声ミキサー音量つまみは、中央よりに上げると上部LEDが点灯します。

確認が終わったら、主電源スイッチを切ってください。電源を再投入する場合は、電源OFF後5秒程待ってからONしてください。

ご注意

自己診断機能の実行中は、上記③、④に記述されている操作以外は行なわないでください。音声/映像パターンスイッチを押したり、電源スイッチを誤って押した場合、誤動作を起こす場合があります。

電子マニュアルの使いかた

電子マニュアルの使いかた

本機には、図形の編集等に関する電子化されたマニュアルが入っています。

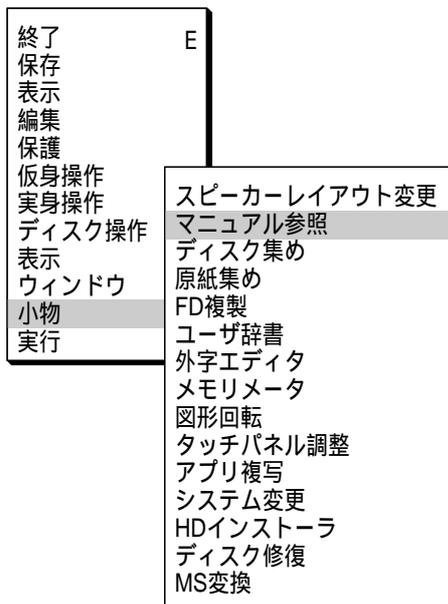
ここでは、この電子マニュアルの使いかたについて説明します。

電子マニュアルは、マウスでの操作を前提としていますので、マウスを接続してからお使いください。

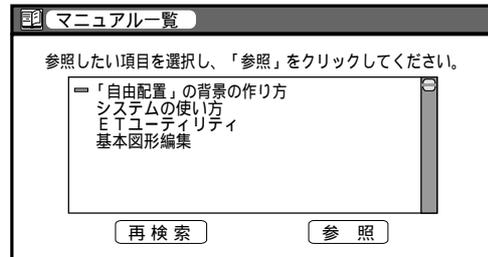
(マウスの接続については、P49を参照してください。)

電子マニュアルを起動する

- ①AVステーションの主電源を入れます。システムが起動すると、操作モニター画面表示がいったん消えます。消えたことを確認してから、操作パネルの電源を入れてください。
- ②マウスの右ボタンをクリックする(押してすぐに放す)とメニューが表示されますので、[小物]の項目までカーソルを移動します。[小物]メニューの子メニューが表示されますので、[マニュアル参照]の項目までカーソルを移動させ、[マニュアル参照]が反転表示されたことを確認してから、左ボタンをクリックします。(親メニュー・子メニューの内容は、システムの状態によって変わります。)



- ③[マニュアル一覧]のウィンドウが開きますので、参照したい項目にカーソルを移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。インジケータが表示されます。



([マニュアル一覧]ウィンドウの内容はシステムの状態により変化しますので、この図の通り表示されない場合があります。)

- ④[参照]上でマウスの左ボタンをクリックすると、選んだ項目のマニュアルが表示されます。
- ⑤マニュアル表示をやめたい場合は、ウィンドウ左上の <閉じる> にマウスを移動させ、左ボタンを素早く2回クリックしてください。ウィンドウが閉じます。

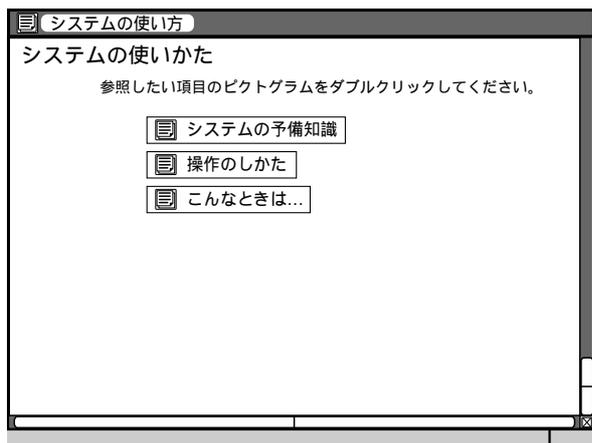
ご注意

小物メニュー中の「タッチパネル調整」「アプリ複写」「システム変更」「HDインストーラ」「ディスク修復」「MS変換」は、弊社が保守用に使用するためのツールです。誤って操作するとシステムに重大な支障を来す恐れがありますので、ご使用にならないでください。

なお、上記以外の小物については、本書または電子マニュアルに使用方法・説明がありますので、必要に応じて参照してください。

電子マニュアルのウィンドウ

[マニュアル一覧]の[参照]スイッチをクリックした直後のウィンドウは、次のように簡単な文章と仮身(短冊型の図形)が表示されています。



それぞれの仮身は、製本されたマニュアルの「章」や「節」に対応します。

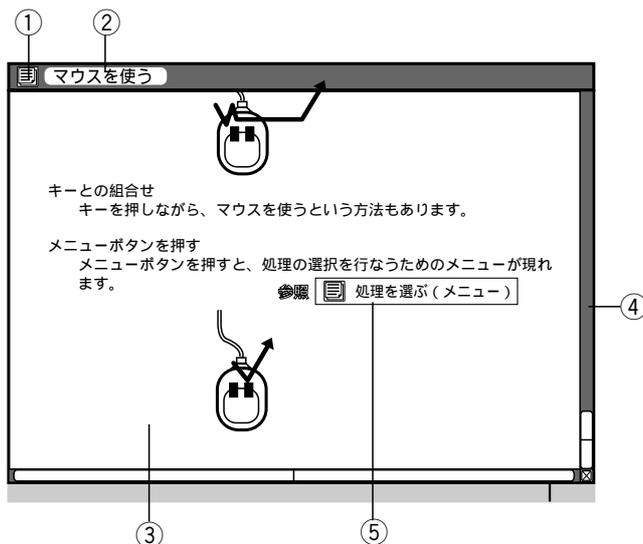
仮身の「」(この絵のことを「ピクトグラム」と言います)の位置にマウスを移動させ、左ボタンを2回素早くクリック(この操作のことを「ダブルクリック」と言います)すると、その仮身の名前に対応したウィンドウが新たに開き、内容が表示されます。

つまり、「章」や「節」の内容を見たいときは、
①見たい仮身のピクトグラムにマウスを移動させ、
②マウスの左ボタンをダブルクリックするという操作を行えば良いことになります。

「章」の仮身を開くと、その中には更に「節」の仮身が入っている場合があります。このようにしてウィンドウをダブルクリックで次々と開いて行くことで、目的の機能を説明した文章までたどり着くことができます。

ウィンドウの操作

電子マニュアルのウィンドウ各部の名称と機能を以下に示します。



- ①(ウィンドウの)ピクトグラム：
このピクトグラムをダブルクリックすると、ウィンドウを閉じることができます。ウィンドウが閉じられると、開かれる前の状態に戻ります。
- ②ウィンドウタイトル：
ウィンドウを開く元となった仮身の名称が表示されます(内容を変更することはできません)。
- ③ウィンドウ表示領域：
マニュアルの内容が表示される領域です。⑤で説明する「仮身」を除き、この領域内に表示されている内容は操作できません。

電子マニュアルの使いかた

④スクロールバー：

この例のように一画面に収まりきらない内容が表示されたとき、見えない部分を表示させる(スクロールさせる)ときに操作します。スクロールの操作には、次の3種類があります。

1. スムーススクロール

スクロールバーの灰色の部分にマウスを移動させ、左ボタンを押したままにします。

押している間、その方向へ徐々にスクロールされます。

2. エリアスクロール

スクロールバーの灰色の部分を実ダブルクリックします。

一画面弱の領域が、まとまってスクロールされます。

3. ジャンプスクロール

スクロールバーの[ノブ](白い部分)にマウスを移動させると、手の形が<>に変わります。この状態でマウスの左ボタンを押したままにすると、手の形が更に<>へ変わりますので、そのままマウスを上や下の方向に動かします。ボタンを放すと、その位置にノブが移動し、ノブの位置に対応した場所にスクロールされます。

⑤仮身

前で説明した「章」や「節」に該当する仮身のほか、参照すべき内容が仮身として表示される場合があります。いずれの仮身も、ピクトグラムを実ダブルクリックするとウィンドウに開くことができます。

参考

「システムの使い方」の中の「システムの予備知識」の中の「実身と仮身」などで、仮身の説明を行うために仮身の「絵」を表示している個所があります。これはあくまで絵ですので、ウィンドウに開くことはできません。

お打ち合わせシート

音声パターンや映像パターンなどの各種設定を打ち合わせするときには、次ページからの表をご利用ください。

お打ち合わせシート

1. 音声パターン

音声パターン名	音声パターン設定	入力設定											出力設定			
		プリセット			音声ミキサー								放送	録音	モニター	
		アナウンスマイク	カセットテープ	C D	アナウンスマイク	マイク1	マイク2	マイク3	カセットテープ	C D	A	B				C
													系統1	系統2	系統3	
(1)																
(2)																
(3)																
(4)																
(5)																
(6)																
(7)																

A: VTR1、音声予備1、音声予備3 B: VTR2、ワイヤレス、音声予備2 C: VTR3、ラジオ、レピーター

2. 映像パターン

映像パターン名	映像パターン設定	入力設定										出力設定								
		カメラ				VTR			L D	ミキサー		放送			録画		モニター			
		カメラ1	カメラ2	カメラ3	カメラ4	OHC	VTR1	VTR2		VTR3	A	B	系統1へ	系統2へ	系統3へ	VTR1へ	VTR3へ	モニター1へ	モニター2へ	モニター3へ
(1)																				
(2)																				
(3)																				
(4)																				
(5)																				
(6)																				
(7)																				

3. 音声パターンと放送先

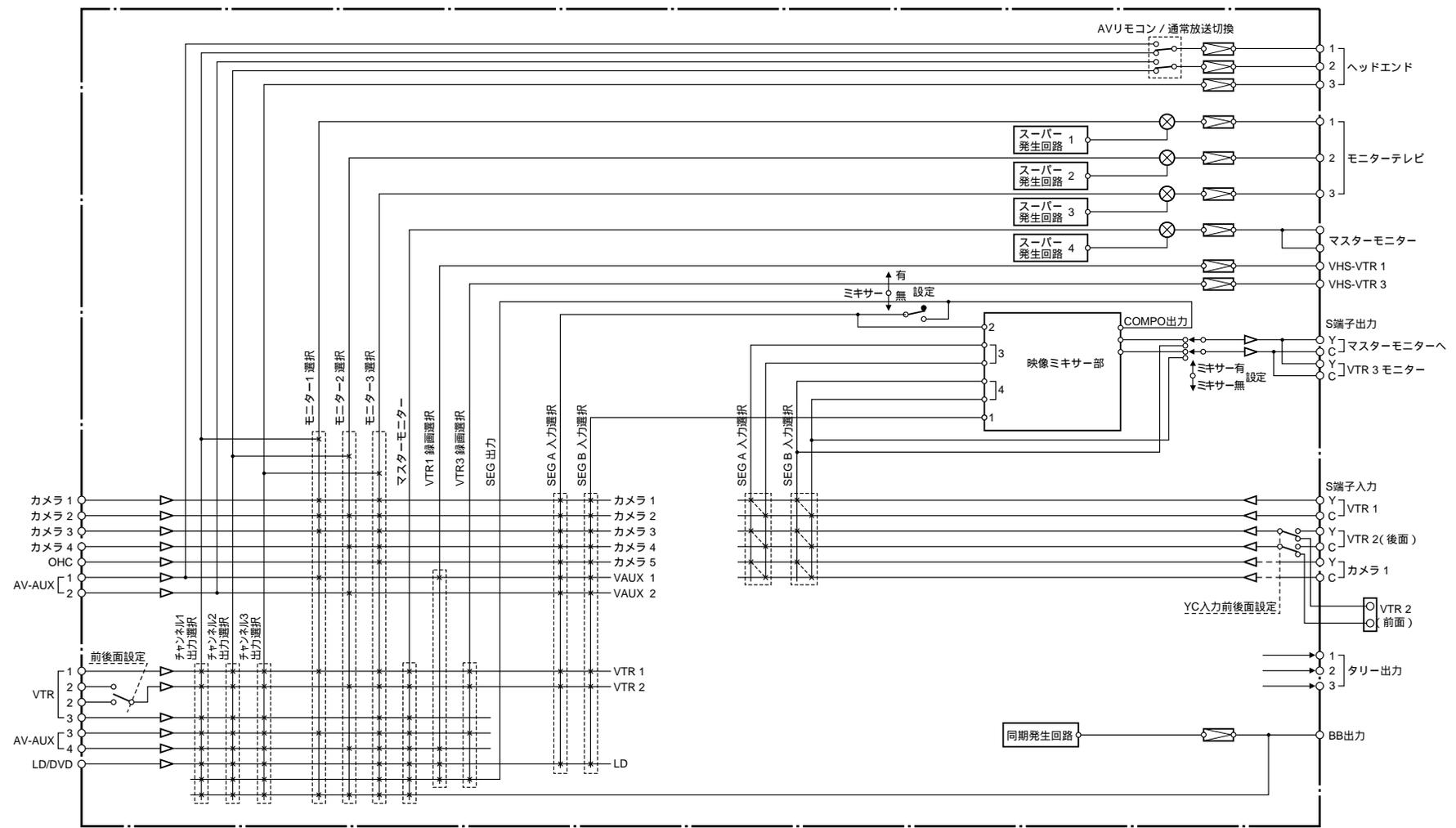
どこへ	リレー名称	A										B										C									
	スピーカーNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを 音声 パターン 名称	放送先																														
	(1)																														
	(2)																														
	(3)																														
	(4)																														
	(5)																														
	(6)																														
	(7)																														

4. リモコン放送と放送先

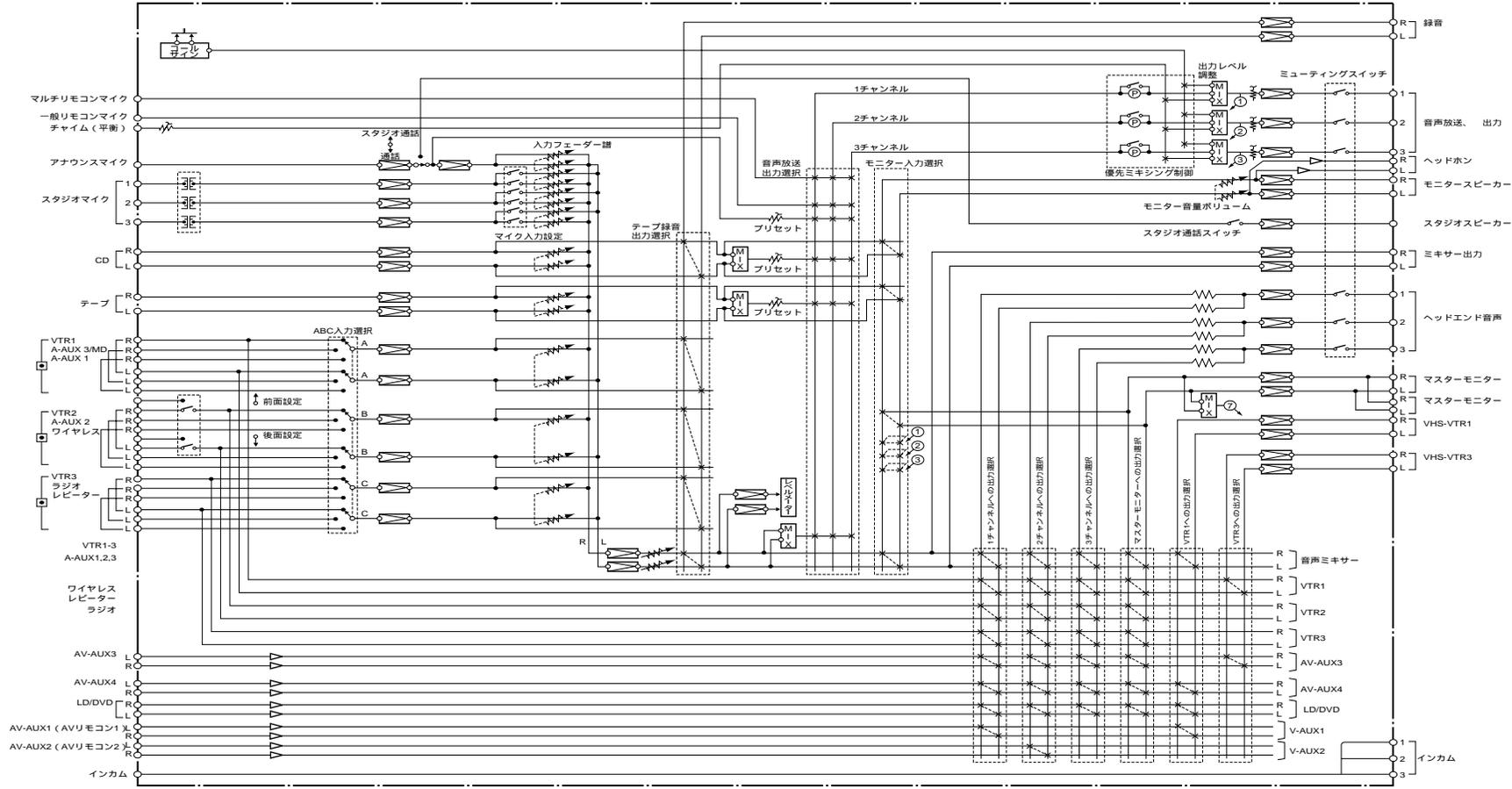
どこへ	リレー名称	A										B										C									
	スピーカーNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
なにを リモコン ブロック 名称	放送先																														
	(1)																														
	(2)																														
	(3)																														
	(4)																														
	(5)																														
	(6)																														
	(7)																														
	(8)																														
	(9)																														
(10)																															

システム図

映像システム図



音声系統図



便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お買い上げ年月日	年 月 日	品番 WL-AV200A、WL-AV190
販売店名	☎ () -	

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社 AVシステム事業部
〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045)932-1231(大代表)